

K O R G D I G I T A L P I A N O
コルグ デジタル・ピアノ

CONCERT

C-720

C-520

取扱説明書

このたびはC-720/C-520をお買い上げいただきありがとうございます。
本製品を末永くご愛用いただくためにもこの取扱説明書をよくお読みになっ
て、正しい方法でご使用ください。

KORG



C-720 安全上のご注意

ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

マークについて

製品には下記のマークが表示されています。

WARNING:

TO REDUCE THE RISK OF FIRE OR ELECTRIC SHOCK DO NOT EXPOSE THIS PRODUCT TO RAIN OR MOISTURE.



マークには次のような意味があります。



このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このマークは注意喚起シンボルであり、取扱説明書などに一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

図記号の例

	△記号は、注意(危険、警告を含む)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⊘記号は、禁止(してはいけないこと)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	●記号は、強制(必ず行うこと)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を守ってください

デジタル・ピアノは、ご家庭の中で身近において、お子さまから専門家の方まで幅広くご愛用いただけます。デジタル・ピアノは大きくて非常に重いものです。安全に使用していただくためにも、室内での設置場所や日常の取り扱いについては、十分に注意してください。また、設置や移動の際は必ず2人で行ってください。小さなお子様がご使用になる場合は、ご家族の方が最初に教えてあげてください。



警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が予想されます

- 電源コードのプラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込む。
 - 電源コードのプラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。感電やショート恐れがあります。
 - 本製品はコンセントの近くに設置し、電源コードのプラグへ容易に手が届くようにする。
 - 次のような場合には、直ちに電源を切って電源コードのプラグをコンセントから抜く。
 - 電源コードやプラグが破損したとき
 - 異物が内部に入ったとき
 - 製品に異常や故障が生じたとき修理が必要なときは、コルグ・サービス・センターへ依頼してください。
 - 本製品を分解したり改造したりしない。
 - 修理、部品の交換などで、取扱説明書に書かれている以外のことは絶対にしない。
 - 電源コードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、電源コードの上に重いものを乗せない。コードが破損し、感電や火災の原因になります。
 - 大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。
- 万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。

- 本製品に異物(燃えやすいもの、硬貨、針金など)を入れない。
- 温度が極端に高い場所(直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など)で使用や保管はしない。
- 振動の多い場所で使用や保管はしない。
- ホコリの多い場所で使用や保管はしない。



- 風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。



- 雨天時の野外のように、湿気の多い場所や水滴のかかる場所で、使用や保管はしない。
- 本製品の上に、花瓶のような液体が入ったものを置かない。
- 本製品に液体をこぼさない。



- 濡れた手で本製品を使用しない。



注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物理的損害が発生する可能性があります



- 正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。
- ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。
ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。本製品をテレビ等の横に設置すると、本製品の磁場によってテレビ等の故障の原因になることがあります。
- 外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。
- 電源コードをコンセントから抜き差しするときは、必ずプラグを持つ。
- 本製品の移動時は、本体とスタンドを別にし、必ず2人以上で持ち上げる。



- 長時間使用しないときは、ACアダプターの電源コードをコンセントから抜く。



- 付属の電源コードは他の電気機器で使用しない。
付属の電源コードは本製品専用です。他の機器では使用できません。
- 他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしない。
本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
- スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。
故障の原因になります。
- 外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーは使用しない。
- 不安定な場所に置かない。
本製品が転倒してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。
- 本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。
本製品が転倒または損傷してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。
- 本製品の隙間に指などを入れない。
本製品が損傷したり、お客様がけがをする原因となります。
- 地震時は本製品に近づかない。
- 本製品に前後方向から無理な力を加えない。
本製品が転倒してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。



- キー・カバーまたは譜面立ての開閉時は、指や手を挟まないようにする。

付属のスタンドについて



- 取扱説明書に記載されている「スタンドの組み立て方」に従って確実に設置する。
本製品が転倒してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。

付属のイスについて



- ピアノの演奏用のにのみ使用する。
イスで遊んだり、イスを踏み台等に使用すると、転倒してお客様がけがをしたり、イスが壊れる恐れがあります。



- 2人以上で腰掛けない。
付属のイスは1人用です。

データについて

本製品の電源をオフにすると、パラメーターが工場出荷時の設定に戻ります。操作ミス等により万一異常な動作をしたときに、メモリー内容が消えてしまうことがあります。大切なデータは、あらかじめコンピューター等へバックアップをしておいてください。データの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

演奏を楽しむためのエチケット

音楽を楽しむときには、周囲への音の配慮も大切です。演奏する時間によって、音量調節をしたり、ヘッドホンを使用しましょう。また、ヘッドホン使用時、または小さな音量での演奏時に、鍵盤の機構上若干のメカニズム音が聞こえます。あらかじめご了承ください。




C-520 安全上のご注意

ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

図記号の例

	△記号は、注意(危険、警告を含む)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⊘記号は、禁止(してはいけないこと)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	●記号は、強制(必ず行うこと)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を守ってください

デジタル・ピアノは、ご家庭の中で身近において、お子さまから専門家の方まで幅広くご愛用いただけます。デジタル・ピアノは大きくて非常に重いものです。安全に使用していただくためにも、室内での設置場所や日常の取り扱いについては、十分に注意してください。また、設置や移動の際は必ず2人で行ってください。小さなお子様がご使用になる場合は、ご家族の方が最初に教えてあげてください。



警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が予想されます

- ACアダプターの電源コードのプラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込む。
 - ACアダプターの電源コードのプラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。
感電やショートの恐れがあります。
 - 本製品はコンセントの近くに設置し、ACアダプターの電源コードのプラグへ容易に手が届くようにする。
- 次のような場合には、直ちに電源を切ってACアダプターの電源コードのプラグをコンセントから抜く。
 - 電源コードやプラグが破損したとき
 - 異物が内部に入ったとき
 - 製品に異常や故障が生じたとき修理が必要なときは、コルグ・サービス・センターへ依頼してください。
- ⊘ 本製品を分解したり改造したりしない。
- ⊘ 修理、部品の交換などで、取扱説明書に書かれている以外のことは絶対にしない。
 - ACアダプターのコードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、ACアダプターのコードの上に重いものを乗せない。
コードが破損し、感電や火災の原因になります。
 - 大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。
万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
 - 本製品に異物(燃えやすいもの、硬貨、針金など)を入れない。
 - 温度が極端に高い場所(直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など)で使用や保管はしない。
 - 振動の多い場所で使用や保管はしない。
 - ホコリの多い場所で使用や保管はしない。
- ⊘ 風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。
- ⊘ 雨天時の野外のように、湿気の多い場所や水滴のかかる場所で、使用や保管はしない。
 - 本製品の上に、花瓶のような液体が入ったものを置かない。
 - 本製品に液体をこぼさない。
- ⊘ 濡れた手で本製品を使用しない。



注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物理的損害が発生する可能性があります

- 正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。
- ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。
ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。
本製品をテレビ等の横に設置すると、本製品の磁場によってテレビ等の故障の原因になることがあります。
- 外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。
- ACアダプターの電源コードをコンセントから抜き差しするときは、必ずプラグを持つ。
- 本製品の移動時は、本体とスタンドを別にし、必ず2人以上で持ち上げる。
- 長時間使用しないときは、ACアダプターの電源コードをコンセントから抜く。
- ⊘ 付属のACアダプターは他の電気機器で使用しない。
付属のACアダプターは本製品専用です。他の機器では使用できません。
- 他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしない。
本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
- スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。
故障の原因になります。
- 外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーは使用しない。
- 不安定な場所に置かない。
本製品が転倒してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。
- 本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。
本製品が転倒または損傷してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。
- 本製品の隙間に指などを入れない。
本製品が損傷したり、お客様がけがをする原因となります。
- 地震時は本製品に近づかない。
- 本製品に前後方向から無理な力を加えない。
本製品が転倒してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。
- ⚠ キー・カバーまたは譜面立ての開閉時は、指や手を挟まないようにする。

付属のスタンドについて

- 取扱説明書に記載されている「スタンドの組み立て方」に従って確実に設置する。
本製品が転倒してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。

付属のイスについて

- ピアノの演奏用에만使用する。
イスで遊んだり、イスを踏み台等を使用すると、転倒してお客様がけがをしたり、イスが壊れる恐れがあります。
- ⊘ 2人以上で腰掛けない。
付属のイスは1人用です。

データについて

本製品の電源をオフにすると、パラメーターが工場出荷時の設定に戻るものがあります。操作ミス等により万一異常な動作をしたときに、メモリ内容が消えてしまうことがあります。大切なデータは、あらかじめコンピューター等へバックアップをしておいてください。データの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

演奏を楽しむためのエチケット

音楽を楽しむときには、周囲への音の配慮も大切です。演奏する時間によって、音量調節をしたり、ヘッドホンを使用しましょう。また、ヘッドホン使用時、または小さな音量での演奏時に、鍵盤の機構上若干のメカニズム音が聞こえます。あらかじめご了承ください。

目次

はじめに	5	コーラス、モジュレーションの設定	31
主な特徴	5	インサート・エフェクトの設定	32
各部の名称とその機能	6	エフェクト音とダイレクト音のバランスの設定	32
フロント・パネル	6	音域の設定	33
底面	7	音程（ピッチ）の設定	33
準備と音色デモ・ソング	9	ペダル設定	33
演奏する前の準備	9	音律の設定	34
音色デモ・ソングの演奏	11	音色の設定のリセット	34
弾いてみましょう（基本）	13	グローバル・エディット・モード	35
音色を選ぶ	13	グローバル・エディット・モードに入る	35
ペダルを使う	13	鍵盤タッチ・コントロールの設定	35
ブリリアンス	14	スピーカーのオン、オフ	35
エフェクト（リバーブとコーラス）	14	マスター・チューニング	35
弾いてみましょう（応用）	15	ブリリアンス	35
メトロノーム	15	スプリット・ポイント	36
トランスポーズ（移調）	17	グローバル・ペダル設定	36
2つの音色を重ねて演奏する（レイヤー・モード）	18	ファスト・プレイ機能（Fast Play）	36
鍵盤の左右に違う音色を設定して演奏する （スプリット・モード）	19	パート・ミュート・レベル	37
パフォーマンス・モード	20	MIDI ローカル・コントロール	37
ソングの演奏	21	MIDI クロック	37
ソングの演奏準備	21	MIDI IN チャンネル	37
ソングの選択	21	MIDI OUT チャンネル	38
ソングの演奏開始	21	MIDI フィルター	38
ソングに合わせて鍵盤演奏する	22	USB モード	39
ソングの録音	23	ユーザー・ソングの消去	39
クイック・レコーディング	23	オール・リセット	39
ステップ1：録音モードに入る	23	MIDI	40
ステップ2：音色と録音するパートを選択する	23	MIDI（ミディ）とは？	40
ステップ3：録音設定を変更する	24	MIDI でなにができるの？	40
ステップ4：拍子とテンポの設定	25	MIDI の接続	40
ステップ5：録音	25	プログラム・チェンジ	40
ステップ6：2回目の録音	25	コントロール・チェンジ	41
ソングの保存	26	USB で MIDI データを使う	41
ソングの編集	27	付録	42
ソング・エディット・モードに入る	27	音色一覧表	42
サイクル・プレイ設定	27	ソング・リスト	43
トラック・データの消去	27	パフォーマンス・リスト	44
ソングの終端小節の削除	27	音色、プログラム・チェンジ・ナンバー対応表	44
ソングのクオンタイズの調整	28	モード・パラメーター	45
ソングのトランスポーズ（移調）	28	各種メッセージ	46
ソング・データの削除	28	故障かな？とお思いになる前に	47
ソングの保存	28	仕様	47
音色とパフォーマンスのエディット	29	C-720 スタンドの組み立て方	48
サウンド・エディット・モードに入る	29	C-520 スタンドの組み立て方	52
音色 / パフォーマンスの保存	29	MIDI インプリメンテーション・チャート	54
パフォーマンス音色の確認と変更	30	取扱説明書の表記について	
音量の設定	30	本体のスイッチ類は [] で括弧しています。	
定位（パン）の設定	30	LCD 内の表示は " " で括弧しています。	
リバーブの設定	30	▲ は使用上の注意を表します。	
		* MIDI は社団法人音楽電子事業協会（AMEI）の登録商標です。	
		* 記載されているすべての製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。	

はじめに

主な特徴

40 種類の高品位サウンド

より美しくナチュラルなピアノ音色を実現するために、独自の“ピアノ・エクスペリエンス”テクノロジーを採用したグランド・ピアノや、ブライト・グランド・ピアノなどを含む、表現力豊かな高品質の音色を 40 種類内蔵しています。また、同時に 2 つの音を重ねて演奏できるレイヤー・モードや、左手側、右手側の鍵盤で異なる音を演奏できる、スプリット・モードも搭載しています。

“ピアノ・エクスペリエンス”テクノロジーとは？

グランド・ピアノの弦が振動する音だけでなく、ハンマーで弦を叩いた後に、そのハンマーがもとの位置に戻る際のわずかな物理的な音、またダンパー・ペダルを踏んだときの、グランド・ピアノの共鳴効果まで再現する、コルグ独自のステレオ・サンプリング技術です。

30 セットのパフォーマンス・プログラム

エディットした音色や、そのコンビネーションを記憶したパフォーマンス・プログラムを、30 セット内蔵しています。このパフォーマンスは、自由にエディットすることができ、音色の組み合わせやスプリット・ポイントなど、演奏スタイルに合わせた設定を簡単に呼び出すことができます。

185 曲のソング・ライブラリ

数々の名曲や教本の練習曲などを含む、豊富なソング・ライブラリを搭載しています。好きな曲に合わせて弾いたり、右手や左手のパートの音をミュートして、ピアノの練習用（ピアノ・レッスン機能）として使用できます。

エフェクト

コンサート・ホールの自然な雰囲気や、シミュレーションすることができるリバーブと、音の広がりを加えることができるコーラスのエフェクトを搭載しています。また、各音色には様々なサウンドに適したディストーション、ロータリー・スピーカーなどの、インサート・エフェクトを加えることができます。

ペダル効果

アコースティック・ピアノと同様に 3 つのペダルがあり、それぞれ、ダンパー、ソステヌート、ソフトの効果が得られます。ダンパー・ペダルは、アコースティック・ピアノの弦の響きをシミュレートした、共鳴効果を再現します。ダンパー・ペダルとソフト・ペダルは、ペダルを踏む深さで効果のかかり方を調整できます（ハーフ・ペダル機能）。また、それぞれのペダルには、ロータリー・スピーカーの回転速度を制御する機能や、ペダル・パンチ機能をアサインすることもできます。

メトロノーム

拍子、テンポ、音量を変えることができ、さらにアクセント音にベル音を使用できる、メトロノームを内蔵しています。また、内蔵されたドラム・パターンを選んで、それに合わせて演奏することができます。

タッチ・コントロール機能

鍵盤を弾く強さによる音の強弱の度合いを、9 種類の中から選択できます。

音律

平均律の他に、古典音律やアラビア音階、ガムランの音階など 10 種類の中から選択することによって、古典音楽やアジア音楽などの再現も可能になります。また、音色にアコースティック・ピアノを選んだときは、ストレッチ・チューニングが自動的に選ばれます。

音の高さの調節

トランスポーズ機能により移調を、ピッチ・コントロール機能により、音の高さの微調整を行うことができます。

2 つのヘッドホン端子

ヘッドホン端子が 2 つ装備されていますので、2 人で演奏を楽しむことができます。

INPUT、OUTPUT 端子

音響機器や他の電子楽器などの音声出力を INPUT 端子に接続することで、本機のスピーカーで聞くことができます。また、OUTPUT 端子を使って、アンプ付きスピーカーや録音機器などに接続することもできます。

USB を使ったデータ・バックアップ

本機はコンピューターと USB ケーブルでつなぐことで、外部記憶ディスクとして認識されます。この機能を使って、簡単にデータのバックアップをとることができます。

MIDI の装備

電子楽器やコンピュータの間で、演奏情報のやりとりを行う統一規格 MIDI を装備しています。MIDI を使うと、接続した機器間で相互にコントロールことができ、本機を 16 パート・マルチティンバー音源のような、使い方をすることができます。

USB 経由で MIDI 送信

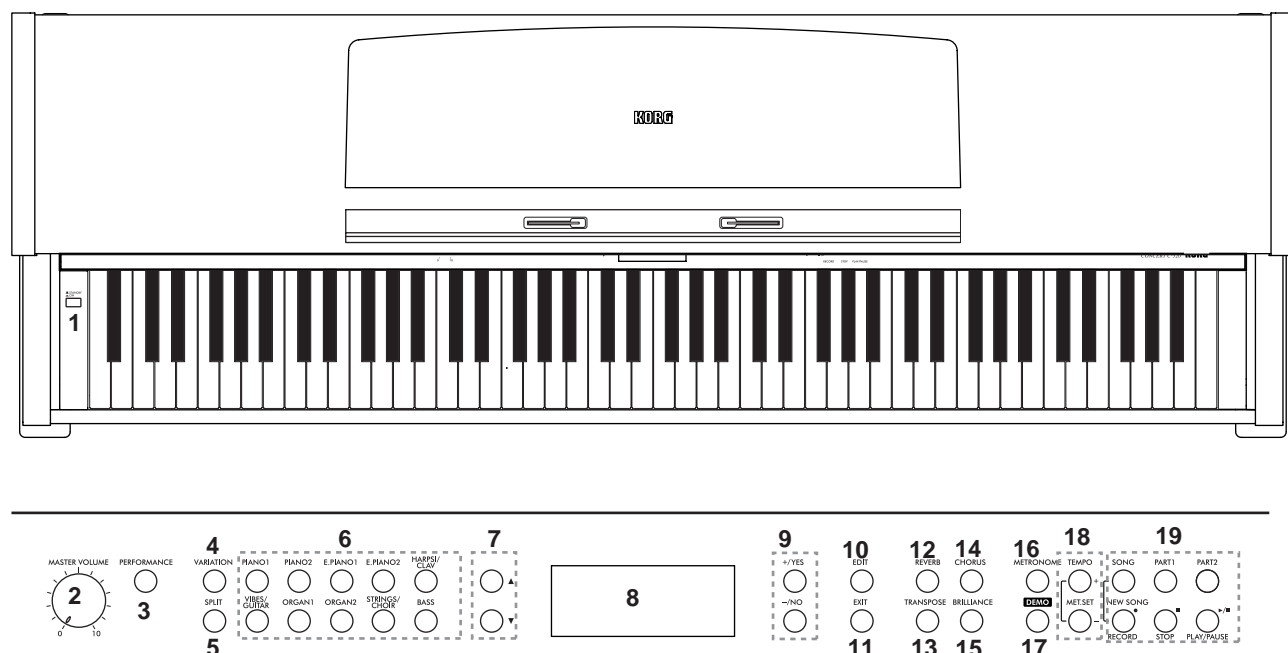
USB 端子で MIDI データを送受信できるので、MIDI インターフェースを使わずに、コンピューターを直接本機に接続できます。

C-720、C-520 で仕様について

C-720 と C-520 で仕様異なる部分は、表題にそれぞれの機種名を併記しています。お買い上げの機種名に合わせて「安全上の注意」、「スタンドの組み立て方」などの各記述をご覧ください。本書で使用しているイラストは、C-720、C-520 のいずれかを使用していますので、お買い上げの機種と一部異なる場合がありますのでご了承ください。

各部の名称とその機能

フロント・パネル

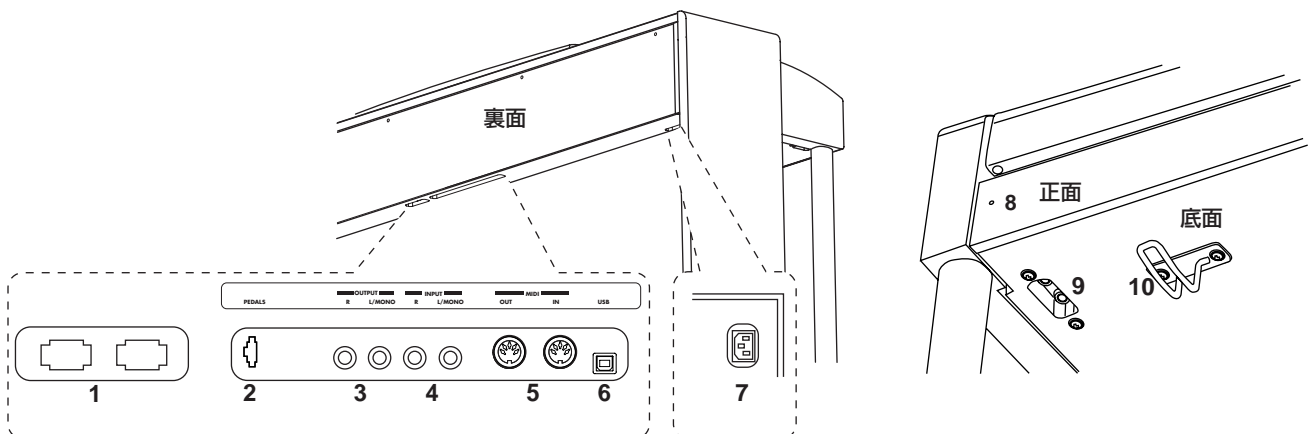


1. **パワー・スイッチ**：電源のオンとオフを切り替えます。
2. **[MASTER VOLUME] ツマミ**：内蔵スピーカー、ヘッドホン端子、およびアウトプット端子からの音量をコントロールします。
3. **[PERFORMANCE] スイッチ**：パフォーマンス・モードをオン、オフします。オンのときは、音色スイッチと **[VARIATION]** スイッチと組み合わせて 30 の（10 × 3 バンク）パフォーマンスから選択します。
4. **[VARIATION] スイッチ**：各音色のバリエーションを選びます。パフォーマンス・モード時は、3 つのバンクを切り替えるスイッチとして使用します。
5. **[SPLIT] スイッチ**：鍵盤を低音側と高音側にわけて、別々の音色で演奏するスプリット・モードに入るためのスイッチです。
6. **音色スイッチ**：**[VARIATION]** スイッチと組み合わせて 40 の音色から選択します。
1 つの音色のみで演奏するシングル・モードや、同時に 2 種類の音色で演奏できるレイヤー・モードが選べます。
[SPLIT] スイッチのランプが点灯しているとき（スプリット・モードのとき）は、右手と左手で異なる音色を演奏できます。
[PERFORMANCE] スイッチのランプが点灯しているとき（パフォーマンス・モードのとき）は、パフォーマンスの選択に使用します。
7. **スクロール・スイッチ（▲、▼）**：ディスプレイ上のカーソルを移動して、エディットするパラメーターを選択します。カーソルはパラメーター名や値の左側にカーソル（▶）で表示されます。
8. **ディスプレイ**：音色名、ソング名、テンポ、パラメータなどを表示します。
9. **[+ /YES]、[- /NO] スイッチ**：ディスプレイに表示されているパラメーターや、値をエディットするときに使用します。変更できるパラメーターや値の左側に、カーソル（▶）が表示されています。スイッチを押したままにすると連続して変化します。
10. **[EDIT] スイッチ**：ディスプレイで選択されている現在の内容に関連したエディット・モードに入ります。エディット・モードには、音色（29 ページ）、パフォーマンス（29 ページ）、ソング（27 ページ）、グローバル（35 ページ）の 4 種類と、ソングの録音時に行う設定（24 ページ）があります。
11. **[EXIT] スイッチ**：各エディット・モードを終了したり、メイン・ページに戻るのに使用します。各エディット・モードを終了するときは、セーブ機能呼び出されます。
メトロノームの拍子にドラム・パターンを選んだときは、フィルをコントロールするスイッチになります（15 ページ「ドラム・パターン」参照）。



12. **[REVERB] スイッチ**：音に残響を加えるリバーブをオン、オフします。長押しにすると、リバーブ設定ページを表示します（30 ページ「リバーブの設定」参照）。
13. **[TRANPOSE] スイッチ**：トランスポーズ（移調）を設定するページを表示します。スイッチのランプが点灯しているときは、トランスポーズが有効になっています（17 ページ「トランスポーズ（移調）」参照）。電源をオフにしたときは解除（± 0）になります。
14. **[CHORUS] スイッチ**：音に広がりを与えるコーラスをオン、オフします。長押しにすると、コーラス設定ページを表示します（31 ページ「コーラス、モジュレーションの設定」参照）。
15. **[BRILLIANCE] スイッチ**：ブリリアンス（音の明るさ）を設定するページを表示します。スイッチのランプが点灯しているときは、ブリリアンスが有効になっています（14 ページ「ブリリアンス」参照）。設定が標準に戻りスイッチのランプが消灯になります。
16. **[METRONOME] スイッチ**：メトロノームをスタート、ストップします。テンポや拍子は、設定した値やソングによって異なります。
17. **[DEMO] スイッチ**：音色デモ・ソングを演奏します。音色スイッチと [+ /Yes]、[- /No] スイッチで、20（10 × 2 バンク）のデモ・ソングを選ぶことができます。デモ・ソングに合わせて、鍵盤演奏することもできます。
18. **[TEMPO(+)]、[MET.SET(-)] スイッチ**：メトロノームのテンポや拍子などの設定するときに使用します。同時に押すと、メトロノームの設定ページを表示します。
19. **レコーダー・セクション**：ソングの再生や録音に使用します（21 ページ「ソングの演奏」、23 ページ「ソングの録音」参照）。

底面

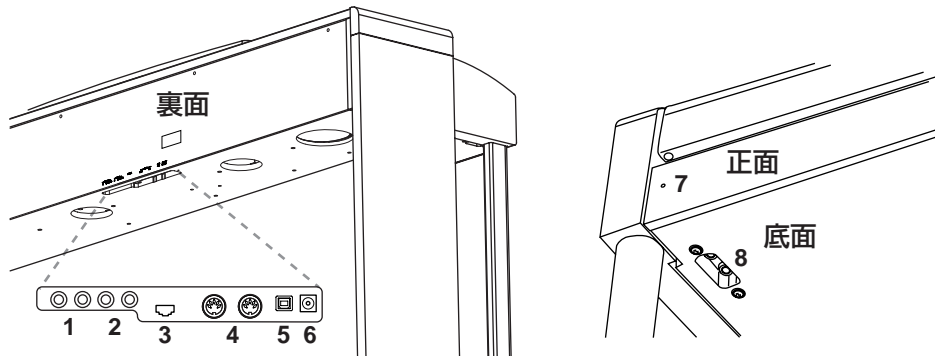
C-720





1. **スピーカー端子**：スピーカー・ボックスのコード・コネクタ L、R を接続します（48 ページ「C-720 スタンドの組み立て方」参照）。
2. **[PEDALS] 端子**：付属のスタンドのペダル・コードを接続します（48 ページ「C-720 スタンドの組み立て方」参照）。
3. **[OUTPUT (L/MONO, R)] 端子**：音声の出力端子です。アンプ付きスピーカーのインプット端子や、音響機器の AUX IN などにつないでください。
モノラル出力で使用するときは、[L/MONO] に接続します。アウトプット端子の出力は、[MASTER VOLUME] ツマミで調整します。
4. **[INPUT (L/MONO, R)] 端子**：音声の入力端子です。音響機器や他の電子楽器等の音声出力（AUX OUT）につないでください。
モノラル入力で使用するときは、[L/MONO] に接続します。本機で再生する音量は、接続した機器側で調整します。
5. **[MIDI (IN, OUT)] 端子**：他の MIDI 機器（シーケンサ、キーボードなど）を接続するときに使用します。
IN：MIDI 情報を受信します（本機をコントロールする外部 MIDI 機器の MIDI OUT と接続します）。
OUT：MIDI 情報を送信します（本機からコントロールする外部 MIDI 機器の MIDI IN と接続します）。

6. [USB] 端子 : コンピューターと USB ケーブルで直接データをやり取りしたり、USB ケーブルで MIDI を制御します。
7. [AC 100V] 端子 : 付属の電源コードを接続します。
 付属の電源コードは本機専用品です。他の製品には絶対に使用しないでください。
8. パワー・ランプ : 電源がオンのとき点灯します。
9. ヘッドホン端子 : 標準プラグのヘッドホンを、2 つまで接続することができます。
 ヘッドホンのプラグを差し込むと、スピーカーからは音が出ません。
10. ヘッドホン・フック : ヘッドホンをフックに引っ掛けて収納することができます。

C-520



1. [OUTPUT (L/MONO、R)] 端子 : 音声の出力端子です。アンプ付きスピーカーのインプット端子や、音響機器の AUX IN などにつないでください。
 モノラル出力で使用するときは、[L/MONO] に接続します。アウトプット端子の出力は、[MASTER VOLUME] ツマミで調整します。
2. [INPUT (L/MONO、R)] 端子 : 音声の入力端子です。音響機器や他の電子楽器等の音声出力 (AUX OUT) につないでください。
 モノラル入力で使用するときは、[L/MONO] に接続します。本機で再生する音量は、接続した機器側で調整します。
3. [PEDAL] 端子 : 付属のスタンドのペダル・コードを接続します。
4. [MIDI (IN、OUT)] 端子 : 他の MIDI 機器 (シーケンサ、キーボードなど) を接続するときに使用します。
 IN : MIDI 情報を受信します (本機をコントロールする外部 MIDI 機器の MIDI OUT と接続します)。
 OUT : MIDI 情報を送信します (本機からコントロールする外部 MIDI 機器の MIDI IN と接続します)。
5. [USB] 端子 : コンピューターと USB ケーブルで直接データをやり取りしたり、USB ケーブルで MIDI を制御します。
6. [DC 24V] 端子 : 付属の AC アダプターの DC プラグを接続します。
 付属の AC アダプターは本機専用品です。他の製品には絶対に使用しないでください。
7. パワー・ランプ : 電源がオンのとき点灯します。
8. ヘッドホン端子 : 標準プラグのヘッドホンを、2 つまで接続することができます。
 ヘッドホンのプラグを差し込むと、スピーカーからは音が出ません。

準備と音色デモ・ソング

演奏する前の準備

C-720 電源コードの接続

1. 本機の電源がオフになっていることを確認します。
2. 電源コードのコネクター側を底面の AC 100V インレットに接続します。
3. 電源コードのプラグには、アース端子が付いています。感電と機器の損傷を防ぐために、アース接続を確実に行って、コンセントに接続します。

⚠ 電源は必ず AC100V を使用してください。

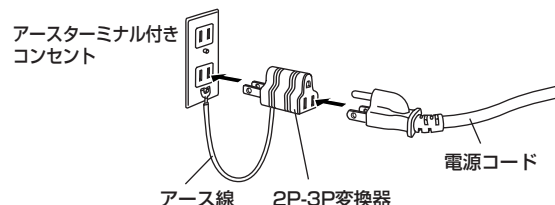
接地コンセントに接続する場合

電源コードのプラグを、コンセントに直接差し込んでください。

アースターミナル付きコンセントに接続する場合

- a. 電源コードのプラグに 2P-3P 変換器を取り付けます。
- b. 2P-3P 変換器のアース線を、アースターミナル付きコンセントに接続します。
- c. 2P-3P 変換器をコンセントに差し込んでください。

⚠ アースターミナル付きコンセントでは、必ずアース線を先に接続してから、コンセントにプラグを差し込んでください。コンセントから外す場合は、必ず先にプラグを抜いてから、アース線を外してください。接続方法がわからないときは、コルグお客様相談窓口へご相談ください。



C-520 AC アダプターの接続

1. 本機の電源がオフになっていることを確認します。
2. AC アダプターのコードが、「スタンドの組み立て方」に従って接続されていることを確認します。
3. AC アダプターの電源コードのプラグには、アース端子が付いています。感電と機器の損傷を防ぐために、アース接続を確実に行って、コンセントに接続します。

⚠ 電源は必ず AC100V を使用してください。

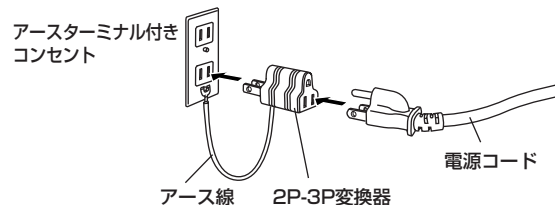
接地コンセントに接続する場合

AC アダプターの電源コードのプラグを、コンセントに直接差し込んでください。

アースターミナル付きコンセントに接続する場合

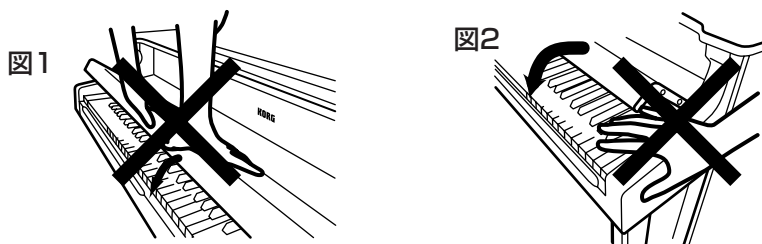
- a. AC アダプターの電源コードのプラグに 2P-3P 変換器を取り付けます。
- b. 2P-3P 変換器のアース線を、アースターミナル付きコンセントに接続します。
- c. 2P-3P 変換器をコンセントに差し込んでください。

⚠ アースターミナル付きコンセントでは、必ずアース線を先に接続してから、コンセントにプラグを差し込んでください。コンセントから外す場合は、必ず先にプラグを抜いてから、アース線を外してください。接続方法がわからないときは、コルグお客様相談窓口へご相談ください。



C-720 キー・カバーを開ける

キー・カバーを開けるときは、キー・カバーの手前のへりを両手で持ち上げて、静かに開けてください。
キー・カバーを閉めるときは、手前のへりを持ち、静かに閉めてください。
閉めるときは、途中からゆっくりと閉まる構造になっていますので、無理に閉めないでください。(図 1)

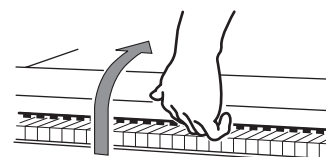


- ▲ キー・カバーの開閉中は、指や手を挟まないように十分注意してください。(図 2)
- ▲ 無理な力を加えたり、乱暴に開閉すると故障の原因になります。
- ▲ キー・カバーの開閉時は、キー・カバーの上に紙やコインなどがないことを確認してください。本体の中に入り込み、故障の原因になります。

C-520 キー・カバーを開ける

キー・カバーを開けるときは、キー・カバーの手前のへりの中央部分を軽く持ち上げて、支えながら静かに奥の方へスライドさせます。
キー・カバーを閉めるときは、へりの中央部分を軽く持ち、前方へスライドさせます。

- ▲ キー・カバーの開閉中は、指や手を挟まないように十分注意してください。
- ▲ 無理な力を加えたり、乱暴に開閉すると故障の原因になります。
- ▲ キー・カバーの開閉時は、キー・カバーの上に紙やコインなどがないことを確認してください。本体の中に入り込み、故障の原因になります。



ヘッドホンを使うときは

ステレオ・ヘッドホンは、標準プラグのものをお使いください。または、ミニ→標準の変換プラグのついたヘッドホンもご使用になれます。どちらも、ヘッドホンを抜き差しするときは、プラグまたは変換プラグを持って、真っ直ぐに抜き差しを行ってください。

本体正面の、左側底面にあるヘッドホン端子にヘッドホンのプラグを差し込むと、本機のスピーカーからは音が出なくなります。夜間などの周囲へ伝わる音量が気になるときはヘッドホンをお使いください。

ヘッドホン端子は 2 つありますので、お二人で演奏を楽しむことができます。

- ▲ ヘッドホンを使用する際は、耳の保護のために大きな音量で長い時間聴かないでください。

電源を入れる

パワー・スイッチを押して本体の電源をオンにします。
電源を入れると、正面左側の鍵盤の下のパワー・ランプや、パネルのディスプレイなどが点灯します。
オフにするときは、もう一度パワー・スイッチを押します。

- ▲ 電源をオフにすると、保存されてない設定はすべて工場出荷時の設定に戻ります。

音量の調節

[MASTER VOLUME] ツマミを動かして音量を調整します。音量を小さくするときは左側へ、大きくするときは右側へツマミを回します。内蔵スピーカー、ヘッドホン端子、およびアウトプット端子の音量を調整できます。

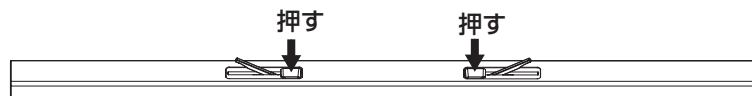
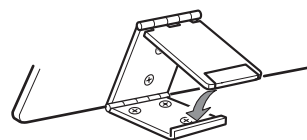
- ▲ [MASTER VOLUME] ツマミは、0 の位置から徐々に音量を上げてください。
- ▲ 音色やその組み合わせ、エフェクトの状態などの演奏条件によっては、大音量時に歪んで聞こえることがありますが、その場合、適度な音量に調整して演奏をお楽しみ下さい。

譜面立てを使う

譜面立てを起こし、裏面にある 2 つのストッパーを使って、倒れないように固定します。

厚めの譜面を乗せたときは、手前の譜面押さえを使用してください。

⚠ 譜面押さえに無理な力を加えないでください。



インプット、アウトプット端子の使い方

インプット端子は、他の楽器や音響機器の音声出力を本機のスピーカーで聞くとときに使用します。

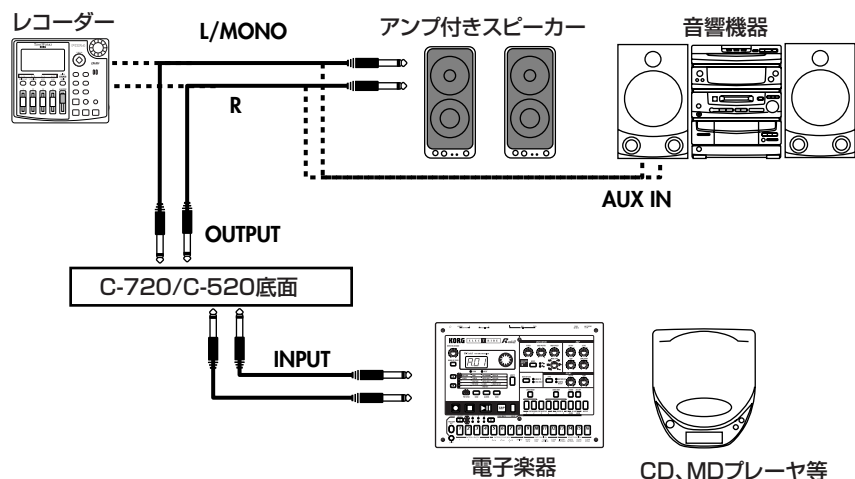
他の楽器や音響機器等の AUX OUT 端子に、シグナル・コードを差し込み接続してください。モノラルで接続するときは、[L/MONO] 側に接続してください。

アウトプット端子は、内蔵スピーカー以外の音響機器で演奏を聞くとときや、録音機材に録音するときに使用します。

アンプ付きスピーカーや音響、録音機器等の INPUT 端子に、シグナル・コードを差し込み接続してください。モノラルで接続するときは、[L/MONO] 側に接続してください。

⚠ 各接続は必ず電源オフの状態で行ってください。不注意な操作を行うと、本機や接続した機器等を破損したり、誤動作を起こす原因となりますので十分に注意してください。

⚠ 接続するシグナル・コードは別売品です。接続する機器に合わせて市販品をお求め下さい。



音色デモ・ソングの演奏

本機には、2 つ (Bk1、Bk2) のバンクにそれぞれ 10、合計 20 の音色デモ・ソングが入っています。

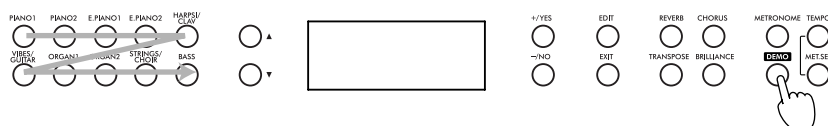
音色デモ・ソングの演奏を聴いて、本機の豊かな音色とその表現力を確認してください。

⚠ デモ・ソングの演奏中に、鍵盤を弾いて音色を出すことはできませんが、音色スイッチで音色を変えることや、エフェクト (リバーブ、コーラス) の設定を変えることはできません。

すべての音色デモ・ソングを演奏する

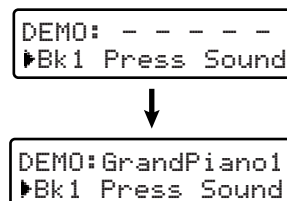
ワンタッチですべての音色デモ・ソングの演奏を聴くことができます。

1. [DEMO] スイッチを押します。音色デモ・モードに入り、音色スイッチのランプが左から右に順番に点滅します。



約 3 秒後、バンク 1 の [PIANO 1] 音色のデモ・ソングから順番に演奏を開始します。

バンク 2 の [BASS] 音色のデモ・ソング演奏が終わると、再びバンク 1 の [PIANO 1] 音色のデモ・ソングから演奏を続けます。
演奏中は音色デモ・ソングに使用している音色スイッチのランプが点灯し、ディスプレイには使用している音色名が表示されます。



2. 演奏しているときに、そのバンク内の他の音色デモ・ソングに切り替えるときは、その音色デモ・ソングが割り当てられている音色スイッチを押します。

たとえば、[PIANO 1] の音色デモ・ソングが演奏されているときに、[BASS] 音色のデモ・ソングに切り替えたくなるときは、音色スイッチの [BASS] を押します。演奏は、[BASS] 音色のデモ・ソングのに切り替わり順番に演奏を続けます。

note 音色スイッチを押してデモ曲を選ぶと、曲のデータを読み込む間、音色スイッチのランプが点滅します。

note 演奏しているときにバンクを切り替えると、そのバンクの [PIANO 1] 音色のデモ・ソングから演奏が始まります。

3. 演奏を一旦停止するときは、[PLAY/PAUSE] スイッチを押します。
[PLAY/PAUSE] スイッチをもう一度押すと、停止した位置から演奏を再開します。
4. 音色デモ・モードを終了せずに演奏だけを止めるときは、[STOP] スイッチを押します。このとき、音色スイッチのランプが左から右に順番に点滅します。
5. 別のソングを選んで（音色スイッチを押して）演奏を始めます。
6. 演奏を止めるのと同時に音色デモ・モードを終了するときは、[DEMO] スイッチ（または [EXIT] スイッチ）を押します。

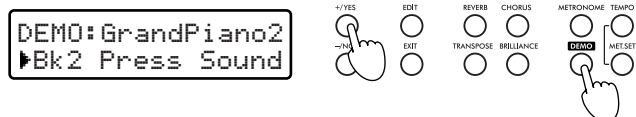
特定の音色デモ・ソングを演奏する

聴きたい音色デモ・ソングから、演奏をはじめることができます。

1. 最初に聴きたい音色デモ・ソングのバンクを選んでください。

バンク 1 を選ぶときは、[DEMO] スイッチを一回押します。

ディスプレイに “Bk1 Press Sound” と表示され、音色スイッチのランプが、左から右に、順番に点滅します。



バンク 2 を選ぶときは、[DEMO] スイッチを押したあと、[+ /YES] スイッチを一回押します。

ディスプレイに “GrandPiano2 Bk2 Press Sound” と表示され、バンク 2 のデモ・ソング 1 の演奏が始まります。

バンク 1 に戻るときは、[- /NO] スイッチを押します。

ディスプレイに “GrandPiano1 Bk1 Press Sound” と表示され、バンク 1 のデモ・ソング 1 の演奏が始まります。

▲ バンクや曲を選ばないまま約 3 秒たったときは、自動的にバンク 1 の [PIANO 1] 音色からバンク 2 の [BASS] 音色の順番で、デモ・ソングを繰り返し演奏します。

2. 別のデモ・ソングを選ぶときは、任意の音色スイッチを押します。

note 演奏しているときにバンクを切り替えると、そのバンクの [PIANO 1] 音色のデモ・ソングから演奏が始まります。

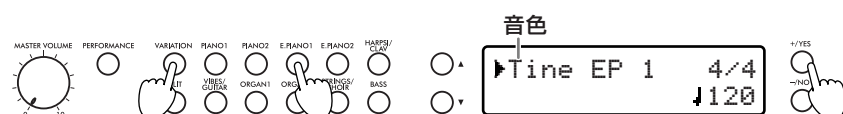
3. 演奏を一旦停止するときは、[PLAY/PAUSE] スイッチを押します。
[PLAY/PAUSE] スイッチをもう一度押すと、停止した位置から演奏を再開します。
4. デモ・モードを終了せずに演奏だけを止めるときは、[STOP] スイッチを押します。このとき、音色スイッチのランプが左から右に順番に点滅します。
別のソングを選んで（音色スイッチを押して）演奏を始めます。
5. 演奏を止めるのと同時にデモ・モードを終了するときは、[DEMO] スイッチ（または [EXIT] スイッチ）を押します。

弾いてみましょう（基本）

音色を選ぶ

電源をオンにすると [PIANO1] のバリエーション 1 の音色が選ばれ、鍵盤全体でグランド・ピアノの演奏ができます。なお、音色名はディスプレイに表示されます。音色は音色スイッチと [VARIATION] スイッチを使って、40 種類の中から選ぶことができます。この 1 つの音色で演奏することを、シングル・モードと呼びます。音色の一覧表は 42 ページをご覧ください。

1. 弾きたい音色の音色スイッチを 1 つ押します。
選んだスイッチのランプが点灯し、音色名がディスプレイに表示されます。
2. [VARIATION] スイッチを押して、その音色のバリエーションを選びます。
押すたびに、バリエーション（音色）が切り替わり、音色名がディスプレイに表示されます。
なお、バリエーションは選び直すたびに、それぞれの音色スイッチに記憶されます。



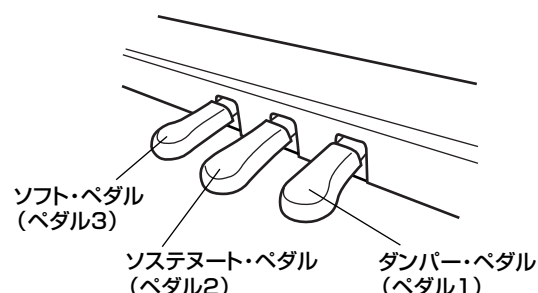
note [+ /YES]、[- /NO] スイッチで、音色バリエーションを切り替えることもできます。

! 電源をオフにすると、各音色スイッチのバリエーションは 1 に戻ります。

ペダルを使う

本機には右から順番にペダル 1、2、3 があり、工場出荷時にはそれぞれダンパー、ソステヌート、ソフトの 3 種類の機能が割り当てられています。これらの機能を使って、演奏をより効果的に表現することができます。

note ペダルには、他の機能を割り振ることもできます (33 ページ「ペダルの設定」、36 ページ「グローバル・ペダル設定」参照)。



ダンパー（ペダル 1）

ペダルを踏んでいる間は音が長く伸び、余韻のある豊かな響きになります。ペダルを踏み込む深さで、ダンパーのかかり具合を変化させることができます（ハーフ・ペダル効果）。

ソステヌート（ペダル 2）

任意の音に対してのみダンパー効果をかけます。ペダルを踏んだときに、押えられていた鍵盤の音だけにダンパー効果がかかり、踏んでいる間はその音だけが長く伸びます。ペダルを踏んでいる間に新たに弾いた音に対しては、ダンパー効果はかかりません。

ソフト（ペダル 3）


ペダルを踏んでいる間は、音が柔らかくおとなしい感じになります。ペダルを踏み込む深さで、音のやわらかさを変化させることができます（ハーフ・ペダル効果）。

ブリリアンス

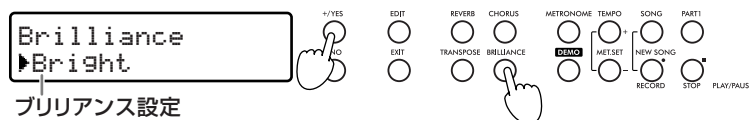
ブリリアンスは、音色の明るさを調整できます。ピアノを置く部屋の状態によって調整してください。
たとえば、響きの少ないデッドな部屋に置くときは、明るめに、音がよく響くライブな部屋は明るさを抑え気味にすることでよりクリアな音色を楽しむことができます。

1. [BRILLIANCE] スイッチを押します。

ディスプレイにブリリアンス設定画面が表示されます。

 数秒以内に操作 2 を行わないときは、もとの画面に戻ります。

2. [+ /YES]、[- /NO] スイッチで設定を選びます。





3. [EXIT] スイッチを押して、ディスプレイをもとの画面に戻します。

4. ブリリアンスの設定が “Normal” 以外ときは、[BRILLIANCE] スイッチのランプが点灯します。

ブリリアンスが有効なときに設定を変更するときは、一度オフ（ランプ消灯）にしてから操作 1 からを実施します。

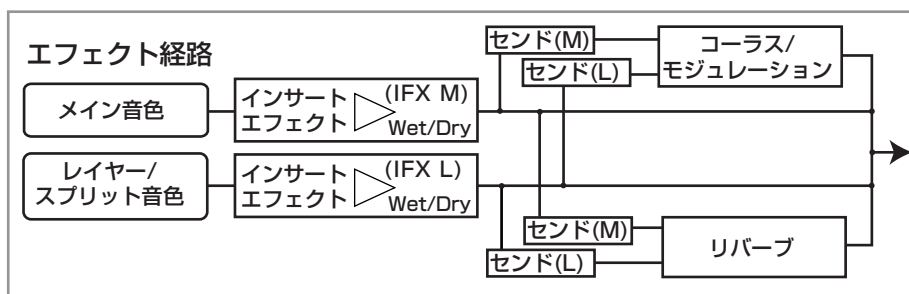
5. ブリリアンスを一度設定すると、[BRILLIANCE] スイッチをオン（ランプが点灯）、オフ（ランプが消灯）するたびに有効、無効（Normal）が切り替わります。

 電源をオフにするとブリリアンスは “Normal” に戻ります。

 **note** ブリリアンスの設定は、グローバル・エディット・モードで記憶させることができます（35 ページ「ブリリアンス」参照）。

エフェクト（リバーブとコーラス）

本機は音色ごとのインサート・エフェクトに加え、リバーブとコーラスの 2 つのグローバル・エフェクトを内蔵しています。



リバーブは部屋やホールなどで演奏しているような残響を加え、コーラスは広がりのある豊かなサウンドにします。

インサート・エフェクトは音色ごとに最適な設定が選ばれており、工場出荷時にオンになっています。

リバーブとコーラスは、パネルの [REVERB]、[CHORUS] スイッチを使って必要に応じて簡単にオン、オフすることができます。

エフェクト設定を変更したままにするときは、それぞれの音色を保存します。詳細は 29 ページ「音色/パフォーマンスの保存」を参照してください。

弾いてみましょう（応用）

メトロノーム

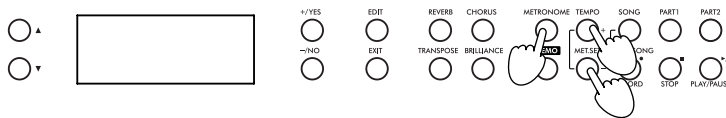
本機は練習や録音時に便利なメトロノームを内蔵しています。

メトロノームのオン、オフとテンポの調節

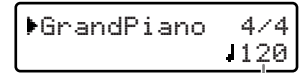
[METRONOME] スイッチを押すたびに、メトロノームがスタート（ランプが点灯）、またはストップ（ランプが消灯）します。
ディスプレイがメイン、またはパフォーマンス・モードのときに、テンポが表示（♩=120：工場出荷時）されます。

このとき、[TEMPO(+)]、[MET.SET(-)] スイッチでテンポを調節できます。

設定範囲は ♩=4 ~ 250 です。

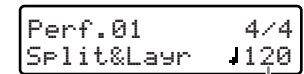


メイン・ページ



メトロノームのテンポ

パフォーマンス・モード・ページ



メトロノームのテンポ

note 電源をオフにすると、もとのテンポ（♩=120：工場出荷時）に戻ります。

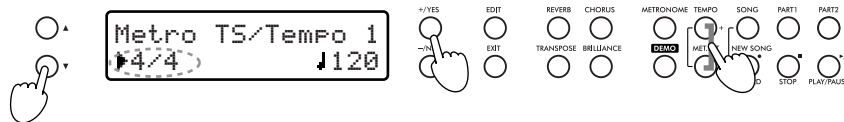
拍子の設定

メトロノームの拍子を設定します。

1. [TEMPO(+)]、[MET.SET(-)] スイッチを同時に押して、メトロノーム・モードに入ります。

note ソングの再生中や一時停止中、またはソング選択ページから、メトロノーム・モードに入ることはできません。

2. スクロール・スイッチで、ページ 1 の拍子の設定画面（Metro TS/Tempo）を表示します。



3. [+ /YES]、[- /NO] スイッチで拍子を選びます。

普通の拍子とドラム・パターンが入っています。

[+ /YES]、[- /NO] スイッチを同時に押すと、普通の拍子のグループとドラム・パターンのグループ間で切り替わります。

4. [EXIT] スイッチを押して、もとのモードに戻ります。

note 電源をオフにすると、もとの拍子（4/4：工場出荷時）に戻ります。

ドラム・パターン

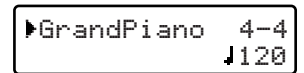
通常の拍子の代わりに、ドラム・パターンをメトロノームに割り当てることができます。

このドラム・パターンは、ソングと一緒に録音することもできます。

拍子を選ぶときに [+ /YES]、[- /NO] スイッチを同時に押すと、ドラム・パターンのグループにジャンプします。

拍子のグループに戻るときは、[+ /YES]、[- /NO] スイッチをもう 1 回同時に押すと、4/4 が選ばれます。

なお、拍子にドラム・パターンが選ばれているときは、メイン・ページやパフォーマンス・モード・ページの拍子の表示は 4-4 になります。



ドラム・パターン						
8 Beat 1	Ballad 1	Slow 6/8	Beguine	Salsa	Swing 1	Waltz
8 Beat 2	Ballad 2	Funk 1	Unpl.Latin	Mambo	Swing 2	Foxtrot
8 Beat 3	Ballad 3	Funk 2	Bossa 1	Tango	Swing 3	March
16 Beat 1	Ballroom 1	Rock	Bossa 2	Rhumba	SlowWaltz1	
16 Beat 2	Ballroom 2	Rock 6/8	Samba	Gospel	SlowWaltz2	
16 Beat 3	Ballroom 3	Dance	Cha Cha			

ドラム・パターンの使い方

1. 拍子にドラム・パターンを選び、[EXIT]スイッチを押してもとのモードに戻ります。
2. [METRONOME]スイッチを押してスタートします（スイッチのランプ点灯）。
カウント・インが始まり、続いてドラム・パターンの演奏が始まります。
3. [EXIT]スイッチを押します。
フィル・インが演奏され、続いて選択したドラム・パターンのバリエーションが演奏されます。
4. [EXIT]スイッチをもう1回押します。
次のフィル・インが演奏され、もとのドラム・パターンが演奏されます。
5. [METRONOME]スイッチを押し（スイッチのランプ消灯）て、ドラム・パターン演奏を止めます。

note 普通のメトロノームと違って、ドラム・パターンの演奏は MIDI OUT から送信されるので、外部シーケンサーに録音したり、外部機器で演奏することもできます。

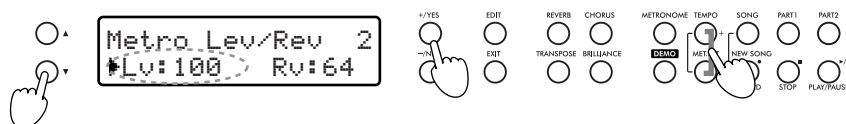
メトロノームの音量の調節

各音色の、音量に対するメトロノームの音量を調節することができます。

1. [TEMPO(+)], [MET.SET(-)]スイッチを同時に押して、メトロノーム・モードに入ります。

note ソングの再生中や一時停止中、またはソング選択ページから、メトロノーム・モードに入ることはできません。

2. スクロール・スイッチで、ページ2の設定画面（Metro Lev/Rev）を表示します。
3. ディスプレイ上のカーソル（▶）が、音量（Lv）にあることを確認します。



4. [+ /YES], [- /NO]スイッチで、メトロノームの音量を調節します。
スイッチを押したままにすると値が連続的に変化します。

5. [EXIT]スイッチを押して、もとのモードに戻ります。

note 電源をオフにすると、もとの音量（100：工場出荷時）に戻ります。

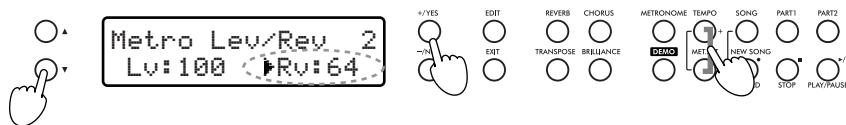
メトロノームのリバーブの調節

メトロノームの音に対して、リバーブ・エフェクトをかけます。

1. [TEMPO(+)], [MET.SET(-)]スイッチを同時に押して、メトロノーム・モードに入ります。

note ソングの再生中や一時停止中、またはソング選択ページから、メトロノーム・モードに入ることはできません。

2. スクロール・スイッチで、ページ2の設定画面（Metro Lev/Rev）を表示します。
3. スクロール・スイッチで、ディスプレイ上のカーソル（▶）をリバーブ（Rv）に移動します。



4. [+ /YES], [- /NO]スイッチで、メトロノームのリバーブを調節します。
スイッチを押したままにすると、値が連続的に変化します。

5. [EXIT]スイッチを押して、もとのモードに戻ります。

note 電源をオフにすると、もとのリバーブ値（64：工場出荷時）に戻ります。

アクセント音の設定

アクセント音を無し、通常音、ベル音から選ぶことができます。

1. [TEMPO(+)], [MET.SET(-)]スイッチを同時に押して、メトロノーム・モードに入ります。
2. スクロール・スイッチで、ページ3の設定画面（Metro Accent）を表示します。

表示	内容
Off	アクセント無し
Marcato	通常音
Bell	ベル音



3. [+ /YES]、[- /NO] スイッチで、メトロノームのアクセント音を選びます。

4. [EXIT] スイッチを押して、もとの画面に戻ります。

note 電源をオフにすると、もとのアクセント音 (Off: 工場出荷時) に戻ります。

メトロノームの設定の保存

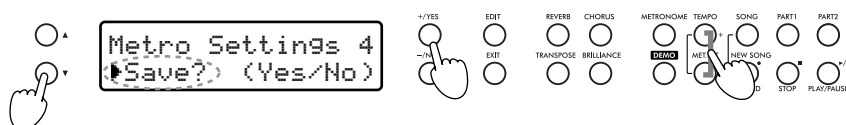
本機の電源をオフにすると、メトロノームの各種設定は工場出荷時設定にリセットされますが、変更した設定を保存することで、次回に電源をオンにしたときに同じ設定を使うことができます。

⚠ 設定の保存作業 (Writing 表示) 中に、スイッチ、ペダル、鍵盤に触れたり、電源をオフにしないでください。
本機のデータや、内部に重大な損傷を与える場合があります。

1. [TEMPO(+)], [MET.SET(-)] スイッチを同時に押して、メトロノーム・モードに入ります。

note ソングの再生中や一時停止中、またはソング選択ページから、メトロノーム・モードに入ることはできません。

2. スクロール・スイッチで、ページ4の設定画面 (Metro Settings) を表示します。



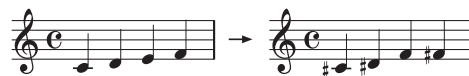
3. [+ /YES] スイッチを押して、保存を実行します。

保存をやめるときは、[- /NO] スイッチを押します。

4. 保存が終わると、自動的にもとのモードに戻ります。

トランスポーズ (移調)

キーを変える (移調する) ことによって、黒鍵をあまり使わない指使いで演奏したり、覚えたそのままの指使いで、他の楽器や歌に演奏を合わせることが出来ます。これをトランスポーズ機能といいます。11 半音 (± 11) の範囲ですらすことができ、半音 (+ 1) 上げた場合、右図の左の楽譜を弾くと、右の楽譜のように鳴ります。



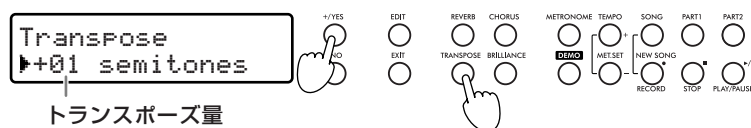
1. [TRANSPOSE] スイッチを押します。

ディスプレイにトランスポーズ設定画面が表示されます。

⚠ 数秒以内に操作 2 を行わないときは、もとの画面に戻ります。

2. [+ /YES]、[- /NO] スイッチで、トランスポーズの値を選びます。

[+ /YES]、[- /NO] スイッチを同時に押すと “+ 00” に戻ります。



3. [EXIT] スイッチを押して、ディスプレイをもとの画面に戻します。

4. トランスポーズが有効なときは、[TRANSPOSE] スイッチのランプが点灯します。

トランスポーズが有効なとき、トランスポーズの値を変更するときは、一度オフ (ランプが消灯) にした後、操作 1 から実施します。

5. トランスポーズを一度設定すると、[TRANSPOSE] スイッチをオン (ランプが点灯)、オフ (ランプが消灯) するたびに有効、無効 (+ 00) が切り替わります。

⚠ 電源をオフにすると、トランスポーズは “+ 00” に戻ります。

2つの音色を重ねて演奏する（レイヤー・モード）

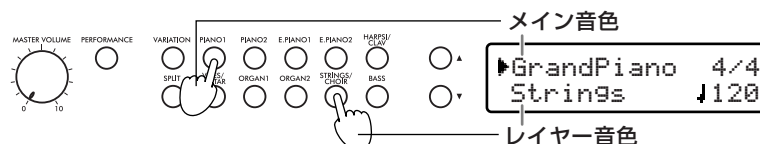
1つの鍵盤を弾いたときに、2つの音色（例えば、PIANO 1とORGAN 1）を同時に鳴らして演奏することができます。これを、レイヤー・モードと呼びます。

▲ レイヤー・モードを選ぶと、選んだ音色のオシレーター数によって同時発音数が制限されます（47ページ「最大発音数について」参照）。

レイヤー・モードに入る

重ねる音色の音色スイッチを2つ同時に押します。選んだ音色スイッチのランプが両方点灯します。

ディスプレイには1行目にメイン音色、2行目にレイヤー音色が表示されます。



note 選んだ2つの音色スイッチで、左側（または上列）の音色スイッチがメイン音色になります。たとえば、[PIANO 2]と[VIBES]を選んだときは、[PIANO 2]の音色がメイン音色になります。

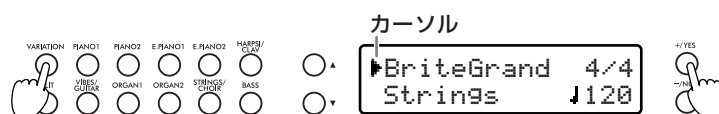
レイヤー・モードから抜ける

音色スイッチで1つだけ音色を選ばずシングル・モードに、[SPLIT]スイッチを押すと、スプリット・モード（19ページ）になります。

音色の変更

● 選択したメイン音色のバリエーションを選ぶことができます。

1. ディスプレイ上のカーソル（▶）が、1行目にあることを確認します。



2. [VARIATION]スイッチで音色のバリエーションを切り替えます。

[+ /YES]、[- /NO]スイッチで、バリエーションを選ぶこともできます。

● 選択したレイヤー音色のバリエーションを選ぶことができます。

1. スクロール・スイッチで、ディスプレイ上のカーソル（▶）をレイヤー音色（2行目）に移動します。

2. [VARIATION]スイッチで、音色のバリエーションを切り替えます。

[+ /YES]、[- /NO]スイッチで、バリエーションを選ぶこともできます。

▲ 同じ音色スイッチに割り振られた音色（[PIANO 1]のグランド・ピアノとブライト・グランド・ピアノなど）を選ぶことはできません。

レイヤー・モードで音のバランスを調節する

選んだ2つの音色の音量バランスを調整することができます。

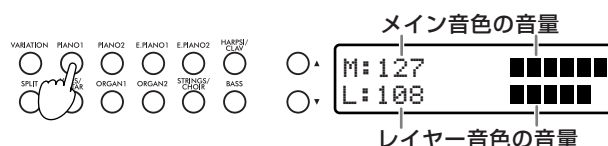
メイン音色を大きくする方法と、レイヤー音色を大きくする方法があります。

- メイン音色のスイッチを押したままにします。メイン音色の音量が次第に大きくなり、最大音量に達すると、今度はレイヤー音色の音量が次第に小さくなります。調節ができればスイッチを離します。数秒後に元のレイヤー画面に戻ります。
- レイヤー音色のスイッチを押したままにします。レイヤー音色の音量が次第に大きくなり、最大音量に達すると、今度はメイン音色の音量が次第に小さくなります。調節ができればスイッチを離します。数秒後に元のレイヤー画面に戻ります。

音量調節中は、ディスプレイに音量のメーターが表示されます。音色を切り替えたり電源をオフすると、保存してない音量バランス設定は元に戻ります。

音色の組み合わせごとの音量バランス設定を保存するときは、[EDIT]スイッチを押してサウンド・エディット・

モードに入り、[EXIT]スイッチを押して保存作業（29ページ）を行います。



note レイヤー・モードのときに、サウンド・エディット・モードに入り、音量のバランスを調整することもできます（30ページ「音量の設定」参照）。

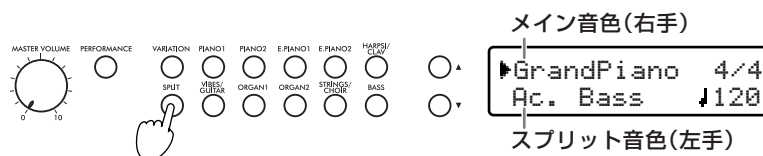
鍵盤の左右に違う音色を設定して演奏する（スプリット・モード）

左手側の鍵盤（低音）と、右手側の鍵盤（高音）にそれぞれ違う音色を設定して演奏することができます。これを、スプリット・モードと呼びます。

スプリット・モードに入る

スプリット・モードに入るときは、[SPLIT] スイッチを押します。

シングル・モードまたはレイヤー・モードのメイン音色が右手側の鍵盤（高音）に割り当てられ、音色名がディスプレイ 1 行目に表示されます。また、このモードに入るとベース音色が左手側の鍵盤（低音）に割り当てられ、そのスプリット音色名が 2 行目に表示されます。



note レイヤー機能時に [SPLIT] スイッチを押したときは、ディスプレイの上段に表示されていたメイン音色が右手側になります。スプリット・モードで一度ベース音色以外の音色を選んだときは、一度モードから抜けて再びスプリット・モードに入ると、前回設定した音色がスプリット音色に選ばれます。

⚠ 電源をオフにすると、スプリット・モードに入ったときのスプリット音色の設定はベース音に戻ります。

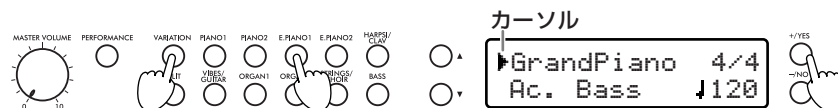
スプリット・モードから抜ける

[SPLIT] スイッチを押してランプを消灯させると、シングル・モードに戻ります。

音色の変更

●メイン音色や、そのバリエーションを選ぶことができます。

1. ディスプレイ上のカーソル（▶）が、1 行目にあることを確認します。



2. 音色スイッチを押してメイン音色を切り替えます。

選ばれた音色スイッチのランプが点灯して、ディスプレイの 1 行目に音色名が表示されます。

3. [VARIATION] スイッチで、音色のバリエーションを切り替えます。

[+ /YES]、[- /NO] スイッチで、バリエーションを選ぶこともできます。

●スプリット音色や、そのバリエーションを選ぶことができます。

1. スクロール・スイッチで、ディスプレイ上のカーソル（▶）をスプリット音色（2 行目）に移動します。

2. 音色スイッチを押してスプリット音色を切り替えます。

選ばれた音色スイッチのランプが点灯して、ディスプレイの 2 行目に音色名が表示されます。

3. [VARIATION] スイッチで、音色のバリエーションを切り替えます。

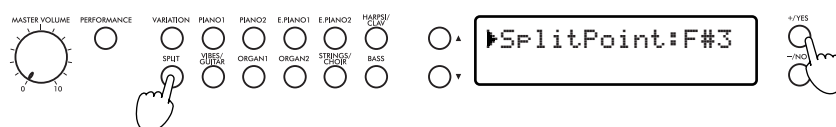
[+ /YES]、[- /NO] スイッチで、バリエーションを選ぶこともできます。

スプリット・ポイントの変更

左手側の鍵盤（低音）と、右手側の鍵盤（高音）のスプリット・ポイント（境界）を設定します。

note 本機の電源をオンにしたときに、指定されるスプリット・ポイントを設定することができます（36 ページ「スプリット・ポイント」参照）。

1. [SPLIT] スイッチを押したままにします。スイッチを押している間、スプリット・ポイントがディスプレイに表示されます。



2. [SPLIT] スイッチを押したまま、設定したいスプリット・ポイントに該当する鍵盤を押します。

[+ /YES]、[- /NO] スイッチで、設定することもできます。

押した鍵盤のキーが、スプリット・ポイントになり、そのキーは右手側に含まれます。

3. [SPLIT] スイッチを離します。

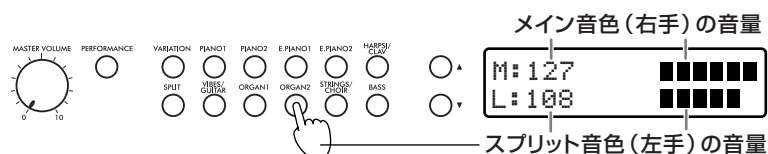
ディスプレイは元のスプリット画面に戻ります。

2つの音色の音量バランスを変えるときは

左手側の鍵盤（低音）と、右手側の鍵盤（高音）で選択している音色の音量バランスを調整することができます。メイン音色を大きくする方法と、スプリット音色を大きくする方法があります。

- スクロール・スイッチで、ディスプレイ上のカーソル（▶）をメイン音色（1 行目）に移動（または確認）します。メイン音色のスイッチのランプが点灯します。メイン音色のスイッチを押したままにします。メイン音色の音量が次第に大きくなり、最大音量に達すると、今度はスプリット音色の音量が次第に小さくなります。調節ができればスイッチを離します。数秒後に元のスプリット画面に戻ります。
- スクロール・スイッチで、ディスプレイ上のカーソル（▶）をスプリット音色（2 行目）に移動（または確認）します。スプリット音色のスイッチのランプが点灯します。スプリット音色のスイッチを押したままにします。スプリット音色の音量が次第に大きくなり、最大音量に達すると、今度はメイン音色の音量が次第に小さくなります。調節ができればスイッチを離します。数秒後に元のスプリット画面に戻ります。

音量調節中はディスプレイに音量のメーターが表示されます。



音色を切り替えたり、電源をオフすると、保存していない音量バランス設定は元に戻ります。

音色の組み合わせごとの音量バランス設定を保存するときは、[EDIT] スイッチを押してサウンド・エディット・モードに入り、[EXIT] スイッチを押して保存作業（29 ページ）を行います。

note スプリット・モードのときに、サウンド・エディット・モードに入り、音量のバランスを調整することもできます（30 ページ「音量の設定」参照）。

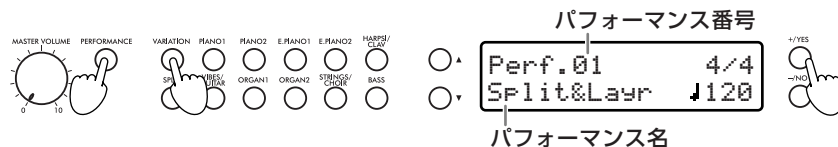
パフォーマンス・モード

パフォーマンスとは、エディットした音色やその組み合わせを登録したものです。

演奏のたびに、音色をエディットしたりやその組み合わせを個別に選ばなくても、パフォーマンス・モードに入りパフォーマンスを選択すると、保存されている設定（1 つまたは 2 つの音色と各設定、指定されているスプリット・ポイントなど）が呼び出されます。本機には 30 個のパフォーマンス（44 ページ「パフォーマンス・リスト」）が用意されていますが、音色や設定をエディットしたり、オリジナル設定のパフォーマンスとして書きかえることができます（30 ページ「パフォーマンス音色の確認と変更」）。

1. [PERFORMANCE] スイッチを押して、パフォーマンス・モードに入ります。

スイッチのランプが点灯し、最後に選ばれていたパフォーマンスが呼び出されます。



2. [VARIATION] スイッチで、パフォーマンスのバンクを選びます。

[+ /YES]、[- /NO] スイッチで選ぶこともできます。

3. 音色スイッチで、そのバンク内のパフォーマンスを選びます。

4. パフォーマンス・モードを終了するときは、[PERFORMANCE] スイッチをもう 1 回押します。

スイッチのランプが消灯し、前に選んでいた音色、またはその組み合わせに戻ります。

パフォーマンス・モードのときは、シングル、レイヤー、スプリット・モードに入れません。ただし、パフォーマンスの組み合わせがスプリットになっているときは、スプリット・スイッチのランプが点灯します。

note パフォーマンス・モードでは、音色や各種設定をエディットすることができます。29 ページ「音色とパフォーマンスのエディット」をご覧ください。

ソングの演奏

本機は内蔵したマルチ・トラック・レコーダーを使った、ソングの録音、再生ができます。

また、レコーダーには 185 曲ものソングの演奏が内蔵されており、これを再生しながら練習したり、好きな曲を聴いたりすることができます。各曲は複数の「アルバム」にまとめられており、このアルバムには有名な教本（バイエル A/B、ブルクミュラー）、名曲のコレクションなどが入っています。内蔵曲のリストは、43 ページ「ソング・リスト」を参照してください。

録音したソングや内蔵されたソングは、片方のパート（たとえば左手側の鍵盤）をオフにし、もう片方のパート（たとえば右手側の鍵盤）をオン（またはその逆）にできるので、練習に使うこともできます。この機能を、ピアノ・レッスン機能といいます。

さらに、レコーダーはスタンダード MIDI ファイル形式の、16 トラックのソングを読み込むことができます。また、この形式のソングは市販のコンピュータと、プログラムを使って簡単に作成できます。本機は General MIDI (GM) サウンドのマッピングに対応し、多くの GM 音色を搭載しています。搭載音色のリストは 44 ページ「音色、プログラム・チェンジ・ナンバー対応表」を参照してください。

ソングの演奏準備

ソング・プレイ・モードに入る

[SONG] スイッチを押します。ソング・プレイ・ページが表示されます。

ソング・プレイ・モードを終了する

[EXIT] スイッチを押して、もとのページに戻ります。

ソングの選択

ソングを再生するときは、そのソングが入っているアルバムを選びます。

1. ディスプレイに、ソング・プレイ・モードのページが表示されているときに、[SONG] スイッチを押します。
ディスプレイにソング選択ページが表示されます。



2. [PIANO 1]、[PIANO 2]、[E.PIANO 1]、[E.PIANO 2]、[HARPSI/CLAV]、[VIBES/GUITAR] のいずれかの音色スイッチを押して、再生するソングが入っているアルバムを選びます。

音色スイッチ	アルバム名	内容
[PIANO 1]	UserSong	ユーザーが録音したソング
[PIANO 2]	SongBook	名曲集 1（楽譜同梱：非売品）
[E.PIANO 1]	Classics	名曲集 2
[E.PIANO 2]	BeyerA	バイエルの教則本のソング 1～53
[HARPSI/CLAV]	BeyerB	バイエルの教則本のソング 54～106
[VIBES/GUITAR]	BurgmIr	ブルクミュラーの教則本

note スクロール・スイッチで、カーソルを 1 行目（Album）に移動し、[+ /YES]、[- /NO] スイッチを押して、アルバムを選ぶこともできます。この場合、曲を選ぶときは、スクロール・スイッチで、カーソルを 2 行目に移動した後、操作 3 を行ってください。

3. アルバムを選んだら、[+ /YES]、[- /NO] スイッチでソングを選びます。



note アルバム "UserSong" に何もデータがないときは、ソング名 "<Empty>" が表示されます。

4. [EXIT] スイッチを押します。
ソング・プレイ・ページに戻ります。

note ソング選択ページのとくに [PLAY/PAUSE] スイッチを押すと、ディスプレイはソング・プレイ・ページに戻り、ソングのデータを読み込み後（音色スイッチのランプが点滅）、演奏がすぐに始まります。

ソングの演奏開始

選んだソングの演奏を再生してみましょう。

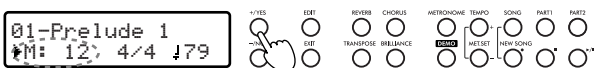
1. [PLAY/PAUSE] スイッチを押す（ランプ点灯）と、ソングの演奏が開始します。
2. ソングの演奏を一時停止するときは、[PLAY/PAUSE] スイッチをもう 1 回押します。
このときスイッチのランプが点滅します。
3. 演奏を再開するときは、[PLAY/PAUSE] スイッチをもう 1 回押します。
スイッチのランプが点灯にかわり、演奏が再開します。
4. 演奏を止めるときは、[STOP] スイッチを押します。
[PLAY/PAUSE] スイッチのランプが消灯し、ソングが先頭に戻ります。

note 再生しているソングには、プリリアンスの設定が無効になります。

ソングの途中から演奏を始める

ソングの開始位置を、小節単位で変更することができます。

1. ソング・プレイ・モードのページが表示されているときに、[+ /YES]、[- /NO] スイッチで開始する小節を設定します。
このとき、[PLAY/PAUSE] スイッチのランプが点滅します。



2. [PLAY/PAUSE] スイッチを押すと、ランプが点灯にかわり、ソング演奏を設定した小節からスタートします。

ソング・パートのミュート

ソングの演奏は、パート 1 と 2 に録音されています。

それぞれのパートをミュート（消音）することで、練習に使うことができます。

note ミュートにしても、そのパートは小さい音量で演奏されます（工場出荷時）。このミュート時の音量は、調整することができます（37 ページ「パート・ミュート・レベル」参照）。

通常、パート1には左手の演奏が、パート2には右手の演奏が記録されています。

パートのボタンを押すたびにミュート（ランプが消灯）、演奏を繰り返します。



note ソングを選択し直したときは、パートのミュートは自動的に解除されます。

ソングのテンポを変える

それぞれのソングは録音時のテンポが記録されています。このテンポは停止または、再生時に変更することができます。

1. [TEMPO(+)], [MET.SET(-)] スイッチを押して、テンポを調節します。

2. [+ /YES], [- /NO] スイッチを同時に押すと、ソングのオリジナル・テンポに戻ります。

note ソングを選び直したり、電源をオフにすると、各ソングのオリジナル・テンポに戻ります。

ソングのテンポ

ソングを聴いているときは、そのソングのテンポになります。

ソングを再生しながら（または停止時）、[TEMPO(+)], [MET.SET(-)] スイッチでテンポを調節できます。スイッチを押したままにすると、値が連続的に変化します。

ソングのテンポは、ディスプレイに表示されます。

note ソングを選び直したり、電源をオフにすると、オリジナルのテンポに戻ります。

note ソングにはテンポが変化するものがあります。



ソングに合わせて鍵盤演奏する

ソングの演奏を聴きながら、鍵盤演奏することができます。

鍵盤の音色は、ソング・プレイ・ページに入る前に選んだ音色になりますが、音色スイッチを押して変更することができます。

音色を変更すると、ディスプレイにはメイン・ページが表示されるので、[SONG] スイッチを押して、ソング・プレイ・ページに戻します。

別の音色を選ぶとエフェクトは、その音色のエフェクトの設定になります。また、別のソングを選ぶとエフェクトは、そのソングに設定されたエフェクトが使われます。

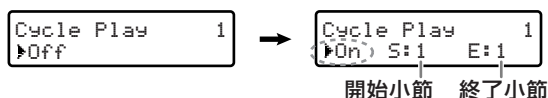
くり返し演奏する（サイクル・プレイ）

練習中などに、曲の一部を何度もくり返して聴くことができます。この機能は、繰り返し練習するのに便利な機能です。

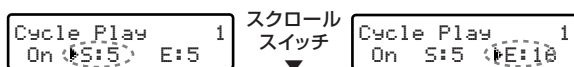
これをサイクル・プレイ (Cycle Play) 機能と呼びます。

note サイクル・プレイが有効なときは、ファスト・プレイ機能 (36 ページ) は使うことができません。

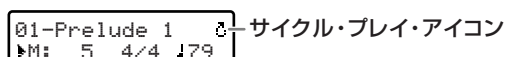
1. ソング・プレイ・モードのときに、[EDIT] スイッチを押します。
ソング・エディット・モードに入ります
2. スクロール・スイッチで、ページ 1 のサイクル・プレイの設定画面 (Cycle Play) を表示します。
3. [+ /YES] スイッチを押して、サイクル・プレイ機能をオンにします。
開始小節パラメーター (S)、終了小節パラメーター (E) が表示されます。



4. スクロール・スイッチを押して開始小節 (S) を選び、[+ /YES], [- /NO] スイッチで、繰り返しを始める小節を設定します。
スイッチを押したままにすると、値が連続的に変化します。開始小節を1以外に設定すると、[PLAY/PAUSE] スイッチのランプが点滅を始めます。
5. スクロール・スイッチを押して終了小節 (E) を選び、[+ /YES], [- /NO] スイッチで、繰り返しを終える小節を設定します。
スイッチを押したままにすると、値が連続的に変化します。



6. [EXIT] スイッチを押して、ソング・プレイ・ページに戻ります。
ソング名の後にサイクル・プレイ・アイコンが表示されます。



7. [PLAY/PAUSE] スイッチを押して、演奏をスタートします。指定した開始小節と、終了小節までの演奏がくり返し再生されます。

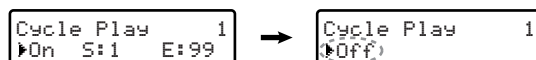
演奏中は [PLAY/PAUSE] スイッチを押すたびに、演奏が一旦停止、再開します。また、[STOP] スイッチを押すと、サイクル・プレイの開始小節に戻ります。

note ソングの途中から演奏を始める (21 ページ) ときに、開始する小節を、サイクル・プレイの開始小節と終了小節の外に設定すると、サイクル・プレイ・アイコンが点滅します。このときは、[STOP] スイッチを押して、サイクル・プレイの開始小節に戻してください。

サイクル・プレイ機能をオフにする

サイクル・プレイ機能は、ソング選択ページを表示させるか、電源をオフにするまで継続しますが、途中で止めることもできます。

1. ソング・プレイ・モードのときに、[EDIT] スイッチを押します。
ソング・エディット・モードに入ります
2. スクロール・スイッチで、ページ 1 のサイクル・プレイのオン、オフ画面 (Cycle Play) を表示します。
3. スクロール・スイッチを押して、カーソル (▶) を "On" に移動します。
4. [- /NO] スイッチを押して、サイクル・プレイ機能をオフにします。



5. [EXIT] スイッチを押して、ソング・プレイ・ページに戻ります。
ソング名の後のサイクル・プレイ・アイコンの表示が消えます。

ソングの録音

本機のリコーダには、最大3つのパートから構成されるソングを録音できます。録音したソングは、本機でそのまま演奏したり、コンピュータに転送して、別のシーケンサーで再生することができます(39ページ「USBモード」参照)。

自分で作ったソングは、ユーザーというアルバム(Album: UserSong)に保存されます。

録音したソングは、一時的なメモリに記憶していますが、電源をオフにすると消えてしまいます。録音した演奏を保存するときは、必ずユーザー・ソング・アルバムに保存してください。(26ページ「ソングの保存」参照)

録音したソングやエディットしたソング、新規ソングを保存しないまま音色デモや、ソング選択ページに入ろうとすると、保存をすすめる表示がでます。保存するときは[+/YES]スイッチを、しないときは[-/NO]スイッチを押します。(26ページ「ソングの保存」参照)

クイック・レコーディング

本機のリコーダは、簡単に使用することができます。

最初にクイック・レコーディングを説明します。

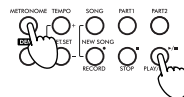
さらに詳しい録音手順は、次項以降のステップ1～6に従って順に操作してください。

- 録音する音色、または組み合わせ(レイヤーやスプリット)、もしくはパフォーマンズを選びます。
- [SONG]と[RECORD]スイッチを同時に押します。
すでに録音したソングがあるときは、保存をすすめる表示がでます。保存するときは、[+/YES]スイッチを押して保存(26ページ「ソングの保存」参照)した後、[SONG]と[RECORD]スイッチを同時に押します。保存しないときは、[-/NO]スイッチを押します。

ソング録音ページ



- 新規のソング録音ページが表示され、[RECORD]スイッチのランプが点灯、[PART1]と[PART2]スイッチのランプが点滅します。
- [TEMPO(+)]と[MET.SET(-)]スイッチを同時に押します。
- メトロノームのページ1の拍子とテンポ設定(MetroTS/Tempo)を表示します。
[+/YES]、[-/NO]スイッチで拍子を、[TEMPO(+)]と[MET.SET(-)]スイッチでテンポを設定します。
- 設定が終わったら、[EXIT]スイッチを押して、もとの画面に戻ります。
- 鍵盤を弾き始めるか、[PLAY/PAUSE]スイッチを押すと録音が始まります。
拍子の設定でドラム・パターンを選んだときは、[METRONOME]をオンにすると、録音が始まります。
- 演奏が終わったら、[STOP] (または[RECORD])スイッチを押して録音を終了します。



ステップ1：録音モードに入る

note ソング・プレイ・ページで、アルバム名「UserSong」以外の曲が選ばれているときに、[RECORD]スイッチを押すと、「Record Mode Not Allowed」(録音モードに入れません)が表示されます。このときは表示が消えてから、アルバム名「UserSong」を選んで、録音モードに入ってください。

新規ソングを作成して録音モードに入る

新しいソングを録音するときは、[SONG]と[RECORD]スイッチを同時に押すと、ワンタッチで録音モードに入ります(23ページ「クイック・レコーディング」)。

新規のソング録音ページが表示され、[RECORD]スイッチのランプが点灯、[PART1]と[PART2]スイッチのランプが点滅します。

新規ソング名



noteすでに録音したソングがあるときは、保存をすすめる表示がでます。保存するときは[+/YES]スイッチを押して保存(26ページ「ソングの保存」参照)した後、[SONG]と[RECORD]スイッチを同時に押します。保存しないときは[-/NO]スイッチを押します。

note電源をオンにしてからはじめて録音するときや、「UserSong」に保存されているソングがないときに、ソング・プレイ・モードで「UserSong」を選んで、はじめに録音するときなど、[RECORD]スイッチを押すだけで、新規ソングを作成して録音モードに入れる場合もあります。

現在選んでいる録音済みソングから録音モードに入り、演奏を重ね録りしたり、新しいパートを追加することができます。また、すでにあるパートを録音し直す(オーバーライト録音:上書き)こともできます。
すでに録音したソングに再録音するときは、ソング選択ページでアルバム名「UserSong」から対象となるソングを選び、[RECORD]スイッチを押して(ランプ点灯)録音ページを表示します。



録音モードを終了する

録音モードを終了するときは、[RECORD]スイッチをもう1回押し(ランプ消灯)ます。

ステップ2：音色と録音するパートを選択する

新規ソングの録音では、それまで鍵盤で演奏していた音色が、そのまま録音用に使われます。この音色を別の音色に変えることもできます。音色スイッチで録音用の音色を選んでください。録音中も音色を選ぶことができます。

録音済みのソングでは、その音色になります。

新規ソングの録音では、リコーダーの各パートが録音できる状態になっています([PART1]と[PART2]スイッチのランプが両方とも点滅)。鍵盤を弾くと、すぐに録音が始まり、現在の演奏モード(シングル、レイヤー、スプリット)によって1つのパートのみ、または両方のパートが録音されます。

- ・シングル・モード：パート2に録音
- ・レイヤーまたはスプリット・モード：両方のパートに録音

note レイヤー、スプリット・モード時は、メイン音色がパート2に、レイヤー、スプリット音色はパート1に録音されます。

録音済みのソングでは、録音したいパートのスイッチを何度か押してランプを点滅にします。パートのスイッチ ([PART1]、[PART2]) を押して設定を変えることで、レイヤー音色を録音しないように、またはメイン音色をパート1へ録音するようになどの設定ができます。なお、それぞれのパートの録音状態は、[PART1]と[PART2]スイッチのランプの点灯で確認できます。

ランプ	パートの状態
点灯	このパートには演奏データがあります。コピーしたソングに録音したり、2度目の録音時に、このパートの音を聞きながら録音します。録音不可状態です。
消灯	このパートにはデータが無い、ミュート状態です。また、録音不可状態です。
点滅	録音可能なパートです。オーバーダブ録音のときは、すでにあるデータに新しい演奏データが加えられます。オーバーライト録音のときは、新たな録音データに書き変わります。

レイヤーやスプリット・モード時にメイン音色だけを録音する

レイヤーやスプリット音色はパート1に録音されるので、[PART1]、[PART2]スイッチを何度か押してパート1のランプを消灯、パート2のランプを点滅にします。この状態で録音をすると、演奏はレイヤーやスプリット・モードで演奏できますが、録音はメイン音色のみパート2に録音されます。

1つの音色（シングル・モード）で録音する

新規録音時は、両方のパートのスイッチのランプが点滅します。そのまま録音すると、パート2に演奏データが記録されます。

1つの音色をパート1に録音する

新規録音時は、両方のパートのスイッチのランプが点滅します。パート2のスイッチを押してランプを消灯にします。パート1に演奏データが記録されます。

前半はシングルで後半はレイヤー、スプリット・モードで録音する

両方のパートをオン（点滅）にして、次の手順で録音します。

1. **シングル・モードで録音を始めます。**
メイン音色は、パート2に録音されます。
2. **次にレイヤー、スプリット・モードに切り替えたいところで、音色スイッチを2つ、または[SPLIT]スイッチを押します。**
これでレイヤー、または左手側の鍵盤の演奏がパート1に録音されます。

片手ずつの演奏を2つのパートに別々に録音する

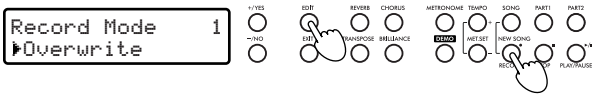
1. [PART1]のスイッチを押してランプを消灯に、[PART2]スイッチのランプは点滅にして録音を始めます。
演奏がパート2に録音されます。
2. **演奏が終わったら、[STOP]スイッチを押します。**
自動的にソングの先頭に戻ります。
3. 次に[RECORD]スイッチを押した後、[PART1]のスイッチを何度か押してランプを点滅に、[PART2]スイッチを何度か押してランプを点灯にします。
4. 一回目の演奏を聴きながら、もう一方の手の演奏を録音します。

ステップ3：録音設定を変更する

下記の設定は、必要に応じて録音を始める前に設定してください。

- ・録音モード：初期値“Overwrite”
- ・クオンタイズ：初期値“Off”
- ・テンポ記録モード：初期値“Auto”

1. [RECORD]スイッチのランプが点灯している間に[EDIT]スイッチを押して、ページ1の録音設定(Record Mode)を表示します。

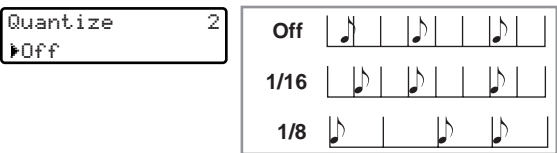


2. [+ /YES]、[- /NO]スイッチでRecord Mode（録音モード）を選択します。

録音モード	内容
Overdub オーバーダブ	すでに録音した内容に、新しい演奏を加えます。（重ね録り）
Overwrite オーバーライト	すでに録音した内容を消して、新しい演奏を録音します。（上書き） 新しい演奏が、以前の演奏よりも短い小節で録音された場合には、録音終了以降の小節の演奏は残ります。27ページ「ソングの終端小節の削除」参照。
Pedal Punch ペダルパンチ	ペダルを踏んだ位置から録音を開始します。 26ページ「ペダル・パンチ録音」参照。
Pnc (Auto Punch) オートパンチ	あらかじめ設定した位置で録音を開始、終了します。 26ページ「オート・パンチ録音」参照。

3. **スクロール・スイッチ (▼) で、ページ2のクオンタイズの設定(Quantize)を表示します。**
[+ /YES]、[- /NO]スイッチで、音符の長さ (1/32 ~ 1/8、Off) を選びます。
この値は録音時の最小単位を決めるもので、クオンタイズ機能はリズムの乱れを自動修正します。

弾いた音符のタイミングが、早すぎたり遅すぎたりすると、その音符は、この値で設定した拍子の節目の一番近いところへ移動します。たとえば 1/16 を選ぶと、各音符はそれぞれ一番近い 1/16 拍子の節目へ移動し、1/8 を選ぶと一番近い 1/8 拍子の節目へ移動します。ただし、値が小さすぎると修正されすぎて、機械で作ったような演奏になってしまいます。



クオンタイズの設定をすると、思わぬ結果になる場合があるので、慎重に行ってください。なお、録音時に設定しなくても、録音後に調整することもできます (28 ページ「ソングのクオンタイズの調整」)。

4. **スクロール・スイッチ (▼) で、ページ3のテンポ記録モード(Tempo Record)を表示します。**



[+ /YES]、[- /NO]スイッチでモードを設定します。次の3種類のモード設定があります。

テンポ記録モード	内容
Manual マニュアル	[TEMPO(+)]、[MET.SET(-)]スイッチで最後に設定したテンポで録音します。録音中のテンポ変更は記録されません。実際のテンポより、ずっと遅いテンポで録音したいときに便利です。
Auto オート	記録されているテンポで再生し、それに合わせて録音しますが、録音中のテンポ変更は記録されません。
Record レコード	録音中のすべてのテンポ変更が記録され、そのテンポで再生します。

5. [EXIT]スイッチを押してレコード・ページに戻ります。

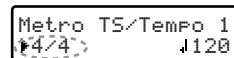
ステップ 4：拍子とテンポの設定

録音をする前に拍子とテンポを設定します。

録音済みのソングは、拍子を変更することはできません。しかし、二度目の録音をするときに、拍子の異なる小節を追加することができます。(25 ページ「ステップ 6：2 回目の録音」操作 6. 参照)

1. 録音を始める前に拍子を設定します。
[TEMPO(+)], [MET.SET(-)] スイッチを同時に押して、メトロノーム・ページ 1 の拍子と、テンポ設定画面 (Metro TS/Tempo) を表示させます。
[+ /YES], [- /NO] スイッチで拍子を設定します。スイッチを押したままにすると、値が連続的に変化します。

通常の拍子 (4/4、3/4 など) か、ドラム・パターン (8 Beat 1, Samba, Waltz など) を選ぶことができます。ドラム・パターンは、ソングと一緒に録音され、MIDI で送信することもできます。



2. [EXIT] スイッチを押して録音ページに戻ります。
3. ソングの初期テンポを設定します。
[TEMPO(+)], [MET.SET(-)] スイッチでテンポを設定します。

ステップ 5：録音

録音には、演奏した音色だけを録音する方法と、メトロノームにドラム・パターンを選び、その演奏も一緒に録音する方法とがあります。

演奏した音色だけを録音する

メトロノームの拍子を聴きながら録音をします。このときメトロノームの音は録音されません。

1. 録音を始める前に、[METRONOME] スイッチを押してメトロノームをスタートします。
2. [PLAY/PAUSE] スイッチを押して (ランプ点灯) 録音を開始します。
または、任意の鍵盤を弾くか、[PLAY/PAUSE] スイッチの機能を割り当てたペダル (36 ページ「グローバル・ペダル設定」) を踏んでも、録音を開始できます。
弱拍で録音をスタートしたい場合は、[PLAY/PAUSE] スイッチを押してから、始めたい拍のところで演奏を開始します。
再生時は先頭のポーズ部分が無視されます (36 ページ「ファスト・プレイ機能 (Fast Play)」参照)。
3. [STOP] スイッチ (または [RECORD]) を押して録音を終了します。
ストップ機能を割り当てたペダル (36 ページ「グローバル・ペダル設定」) を踏んで、終了することもできます。
4. [RECORD] スイッチのランプが消灯し、ソングは先頭に戻ります。

ドラム・パターンも一緒に録音する

ドラム・パターンを聴きながら録音をします。このとき録音されるのは、演奏とドラム・パターンになります。ドラム・パターンはソングと一緒に

に録音され、MIDI で送信することができます。この場合、録音の手順がメトロノームを使った場合と異なるので、注意してください。

1. 録音を始める前に、ドラム・パターンを確認します。
2. 以下のいずれかの手順で録音を始めます。
 - イントロを入れてから、ドラム・パターンをスタートさせたい場合は、[PLAY/PAUSE] スイッチを押します。または、任意の鍵盤を弾くか、[PLAY/PAUSE] スイッチの機能を割り当てたペダルを踏みます。
ドラム・パターンを始めたいところで [METRONOME] スイッチを押し、次の小節でドラム・パターンが実際に始まるまで待ちます。
 - ドラム・パターンをすぐにスタートさせたい場合は、[METRONOME] スイッチを押して録音を始めます。
ドラム・パターンのメイン・パターンが始まる前にイントロが演奏されます。
3. 録音中に [EXIT] スイッチを押すと、フィル・インが演奏され、続いて選択したドラム・パターンのバリエーションが演奏されます。
4. [EXIT] スイッチをもう 1 回押します。
次のフィル・インが演奏され、もとのドラム・パターンが演奏されます。
5. 録音を終わるときは、[STOP] スイッチ (または [RECORD]) を押し (ランプ消灯) ます。
[STOP] スイッチの機能を割り当てたペダルを踏んで、録音を終わることもできます。

ステップ 6：2 回目の録音

最初の録音が済んだら、同じソングに新たなパートや演奏を追加録音できます。

1. [RECORD] スイッチをもう 1 回押し (ランプ点灯) て、ディスプレイに録音ページを表示します。
2. 必要に応じて、録音モードを変更します。
すでに録音した内容に新たな演奏を加えるときは、録音モードにオーバーダブ (Overdub) を、最初の録音内容を消してに新しい演奏を録音するときは、オーバーライト (Overwrite) を選びます。また、録音の一部分を演奏し直すには、ペダル・パンチ (Pedal Punch) かオート・パンチ (Pnc) 録音を選びます
3. 録音するパートを選びます。
片方のパートのみ、または両方のパートを再度録音できます。録音をするパートのスイッチを、何度か押してランプを点滅にします。
4. 録音する音色を選びます。
すでに録音している音色以外の音色を、選ぶことができます。ただし、演奏モードとパートの設定によって、録音されるデータが変わります (23 ページ「ステップ 2：音色と録音するパートを選択する」参照)。

5. 必要に応じて、テンポを変更します。
全体のテンポは [TEMPO(+)], [MET.SET(-)] スイッチで調節します。テンポ記録モードに "Record" を選ぶと、テンポ・チェンジが記録されます (24 ページ「ステップ 3：録音設定を変更する」参照)。
6. 先頭の小節ではなく途中から録音したい場合は、録音を開始する前に、小節位置 (M) を [+ /YES], [- /NO] スイッチで変更します。
小節位置を最大値に設定して、ソングの終わりから録音する場合は、拍子記号も選ぶことができます。変拍子の曲を作るときに便利です
7. 録音を開始します。
8. [STOP] スイッチ (または [RECORD]) を押して録音を終了します。
[STOP] スイッチの機能を割り当てたペダルを踏んで、終了することもできます。
9. [RECORD] スイッチのランプが消灯し、ソングは先頭に戻ります。

一度録音したソングの拍子やドラム・パターンを変更することはできませんが、一度録音したソングの最終小節の次の小節を、二度目の録音開始位置に選べば、拍子やドラム・パターンを変更することができます。

ペダル・パンチ録音

ペダル・パンチ録音は、ペダルを踏むことで録音開始、終了を行います。

▲ ペダル・パンチ録音は、すでに録音済みのソングに対して行います。少なくとも1つのパートに録音データがある必要があります。

▲ ペダル・パンチ録音は、自動的に上書き録音 (Overwrite) になります。

1. ペダルにペダル・パンチ機能を設定します (36 ページ「グローバル・ペダル設定」参照)
2. 録音設定にペダル・パンチ (Pedal Punch) を選びます ([RECORD] スイッチのランプ点灯時)。
3. [EXIT] スイッチを押して、録音ページに戻ります。
4. パンチ録音を行うパートのスイッチを、何度か押して点滅にします。
5. [PLAY/PAUSE] スイッチを押して、ソングの再生を開始します。
6. 録音をし直す演奏の位置になったら、ペダル・パンチ機能を設定したペダルを踏んで、録音を開始します。
7. 録音が終わったら、もう一度ペダルを踏んで録音を終了します。

オート・パンチ録音

オート・パンチ録音は、指定した位置で自動的に録音開始、終了を行います。

▲ オート・パンチ録音は、すでに録音済みのソングに対して行います。少なくとも1つのパートに録音データがある必要があります。

▲ オート・パンチ録音は自動的に上書き録音 (Overwrite) になります。

1. 録音設定にオート・パンチ (Pnc) を選びます ([RECORD] スイッチのランプ点灯時)。
2. スクロール・スイッチを押して開始小節 (S) を選び、[+ /YES]、[- /NO] スイッチで、録音を開始する小節を設定します。
3. スクロール・スイッチを押して終了小節 (E) を選び、[+ /YES]、[- /NO] スイッチで、録音を終了する小節を設定します。
4. [EXIT] スイッチを押して録音ページに戻り、録音を行うパートのスイッチを何度か押して、ランプを点滅にします。
5. [PLAY/PAUSE] スイッチを押して録音を開始します。
自動的に開始小節になると録音が始まり、終了小節で録音が終わります。
6. 録音が終わったら [STOP] (または [RECORD]) スイッチを押して終了します。

ソングの保存

録音が終わると、一時的なメモリに演奏内容は記憶されていますが、電源をオフにすると、演奏内容は消えてしまいます。

録音した演奏を保存するには、ユーザー・ソング・アルバムに保存する必要があります。

▲ ソングの保存作業 (Writing 表示) 中にスイッチ、ペダル、鍵盤に触れたり、電源をオフにしないでください。本機のデータや、内部に重大な損傷を与える場合があります。

別のソングを選ぶことで保存する

録音、または修正したソングをまだ保存していない時に、音色デモやソング選択ページに入ろうとすると、現在のソングを保存するかどうかの、確認のメッセージが表示されます。

1. [SONG] スイッチを押して別のソングを選びます。
現在のソングを録音、または修正後保存していない場合は、"Song Modified Save ? (Yes/No)" (修正されたソングを保存しますか?) が表示されます。
2. 保存したい場合は、[+ /YES] スイッチを押して、ソング・エディット・モードのページ7のソング保存画面 (Save Song) を表示します。

Song Modified Save? (Yes/No) → Save Song ? Untitled Save?

録音、修正内容を保存しない場合は [- /NO] スイッチを押します。

3. ソング名の一部が点滅していますので、名前を変更するときはスクロール・スイッチで点滅を移動し、[+ /YES]、[- /NO] スイッチで文字を選びます。
スイッチを押したままにすると、文字が連続的に変化します。
なお、使用できる文字は、スペース、!、#、\$、%、&、'、(、)、+、-、数字0～9、:、=、@、大文字A～Z、[、]、^、_、`、小文字a～z、{、} です。
スクロール・スイッチ [▼]、[▲] を同時に押すと、スペースの挿入になります。
[+ /YES]、[- /NO] を同時に押すと、文字の削除になります。
4. 変更した名前の終端の隣に点滅を移動すると、終端アイコン (*) が点滅します。その名前前で保存するときは、スクロール・スイッチでカーソルを "Save?" (保存する?) に移動します。
5. [+ /YES] スイッチを押すと、画面に確認メッセージ "Are You Sure ?" が表示されます。

Save Song ? MySong Save? → Are You Sure ?

6. [+ /YES] スイッチをもう1回押して保存を実行します。
録音、修正内容を保存しない場合は、[- /NO] (または [EXIT]) スイッチを押します。
7. 保存が終了すると、ソング・プレイ・ページが表示されます。

同じ名前のソングがあるときは?

すでに録音済みのソングと同じ名前
で保存しようとする、画面に確認
メッセージ "Song Exists Execute?"
が表示されます。

Song Exists
Execute?

そのまま [+ /YES] スイッチを押して保存すると、そのソングは新たに録音された演奏データに書き換えられます。
両方のソングを保存するときは、[- /NO] スイッチを押して、名前の変更を行ってから保存を実行してください。

新規ソングを作ることで保存する

録音、または修正したソングをまだ保存していない時に、[SONG] と [RECORD] スイッチを同時に押して新規ソングを選択すると、"Song Modified Save ? (Yes/No)" (修正されたソングを保存しますか?) が表示されます。あとは、前述の手順で保存を行ってください。

ソングを選ぶことで保存する

録音、または修正したソングをまだ保存していない時に、[SONG] スイッチを押してソングの選択をしようすると、"Song Modified Save ? (Yes/No)" (修正されたソングを保存しますか?) が表示されます。あとは、前述の手順で保存を行ってください。

保存画面 (Save Song) を選んで保存する

ソング・プレイ・モードのときに、[EDIT] スイッチ押してソング・エディット・モードに入ります。スクロール・スイッチを使って、ページ7のソング保存画面 (Save Song) を表示して、前述の手順で保存を行ってください。

ソングの削除

保存されたユーザー・ソング・アルバムのソングは、削除することができます。39 ページ「ユーザー・ソングの消去」をご覧ください。

ソングの編集

録音したソングを編集することができます。編集できるのは、ユーザー・ソング・アルバムの中のソングだけです。本機に内蔵されているアルバムのソングは、サイクル・プレイを設定することができます。

ソング・エディット・モードに入る

ソング・エディット・モードに入るときは、ソング・プレイ・モードのときに[EDIT]スイッチを押します。

ソング・エディット・モードを終了する

パラメーターをエディットした後、[EXIT]スイッチを押して、ソング・エディット・モードを終了します。

サイクル・プレイ設定

サイクル・プレイは、ソングの繰り返し演奏する区間と、そのオン、オフを設定します。設定方法、及び操作は、22ページ「くり返し演奏する(サイクル・プレイ)」をご覧ください。

ソング・エディット・モードに入り、スクロール・スイッチでページ1のサイクル・プレイのオン、オフ画面(Cycle Play)を表示します。

以降は、22ページ「くり返し演奏する(サイクル・プレイ)」をご覧ください。

Cycle Play	1
On S:1 E:1	

トラック・データの消去

1つ、またはすべてのソング・トラックのデータを消去します。

1. ソング・エディット・モードに入り、スクロール・スイッチでページ2のトラック・データの消去画面(Erase Track)を表示します。

設定	コメント
All	すべてのトラック：ソングの中身が空になります。
Tr01(P2), Tr02(P1)	レコーダーのパート1、パート2
Tr10(Dr)	ドラム・パターン・パート
Tr03 ~ Tr09, Tr11 ~ Tr16	トラック3 ~ 9、11 ~ 16 (エクストラ・トラック：コンピューターから読み込んだソング)

2. [+ /YES]、[- /NO]スイッチで設定を選びます。

Erase Track	2
All Exec?	

3. 設定したらスクロール・スイッチで、カーソルを“Exec?”に移動します。
4. [+ /YES]スイッチを押すと、画面に確認メッセージ“Are You Sure?”が表示されます。
データを消去しない場合は、[- /NO]スイッチを押します。
5. [+ /YES]スイッチをもう1回押して、消去を実行します。

ソングの終端小節の削除

録音をした後で、ソングの終端から小節単位で削除することができます。たとえば、まず長いセクションを録音して、トラック・データの消去をします。次に短いセクションを録音すると、ソングの後部には空の小節が残ってしまいます。また、既存の長いソングに、新たにオーバー・ライト録音で短いソングを録音すると、ソングの後部には既存の長いソングの小節が残ってしまいます。

この機能では、その余分な小節を削除できます。

1. ソング・エディット・モードに入り、スクロール・スイッチで、ページ3の小節の削除画面(Cut Measures)を表示します。
2. [+ /YES]、[- /NO]スイッチで、削除する小節数を設定します。
スイッチを押したままにすると、値が連続的に変化します。
3. 設定したらスクロール・スイッチでカーソルを、“Exec?”に移動します。

Cut Measures	3
From:1 Exec?	

4. [+ /YES]スイッチを押すと、画面に確認メッセージ“Are You Sure?”が表示されます。
終端小節を削除しない場合は、[- /NO] (または[EXIT])スイッチを押します。
5. [+ /YES]スイッチをもう1回押して、削除を実行します。

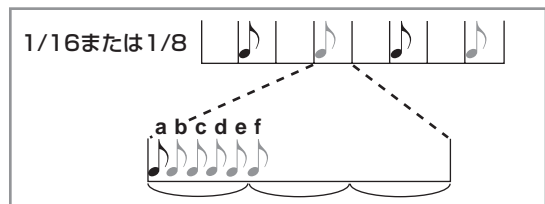
note この操作では、設定した終端小節以降のすべてのトラックのデータの削除が行われます。削除したくないトラックがある場合は、27ページ「トラック・データの消去」を行ってください。

ソングのクオンタイズの調整

録音後にクオンタイズ機能で、リズムの乱れを自動修正します（24 ページ「ステップ 3：録音設定を変更する」の操作 3. 参照）。

1. ソング・エディット・モードに入り、スクロール・スイッチでページ 4 のクオンタイズ設定画面（Quantize）を表示します。

Quantize	4
▶Q: 1/32	Exec?
2. [+ /YES]、[- /NO] スイッチで、クオンタイズを設定します。スイッチを押したままにすると、値が連続的に変化します。1/16 と 1/8 は、スイングの設定も選べます。スイングを設定すると、演奏中の偶数拍の発音のタイミングが最大 1/3 音符分ずれます。a が 0% で f が 100% のスイング幅になります。



3. 設定したらスクロール・スイッチで、カーソルを“Exec?”に移動します。
4. [+ /YES] スイッチを押すと、画面に確認メッセージ“Are You Sure?”が表示されます。調整をしない場合は、[- /NO]（または [EXIT]）スイッチを押します。
5. [+ /YES] スイッチをもう 1 回押して、クオンタイズの調整を実行します。

ソングのトランスポーズ（移調）

ソング全体をトランスポーズします。± 12 半音の間で、トランスポーズできます。

1. ソング・エディット・モードに入り、スクロール・スイッチでページ 5 のトランスポーズ設定画面（Transpose）を表示します。

Transpose	5
▶U: +00	Exec?
2. [+ /YES]、[- /NO] スイッチで、移調範囲（V）を設定します。スイッチを押したままにすると、値が連続的に変化します。

3. 設定したらスクロール・スイッチで、カーソルを“Exec?”に移動します。
4. [+ /YES] スイッチを押すと、画面に確認メッセージ“Are You Sure?”が表示されます。トランスポーズをしない場合は、[- /NO]（または [EXIT]）スイッチを押します。
5. [+ /YES] スイッチをもう 1 回押して、トランスポーズを実行します。

ソング・データの削除

現在選んでいるソングの演奏データをクリアして、すばやく新規ソングに移行します。

ただし、既に保存されているソングは削除されません。保存されたソング自体を削除するときは、39 ページ「ユーザー・ソングの消去」を行ってください。


1. ソング・エディット・モードに入り、スクロール・スイッチでページ 6 のソング・データの削除画面（Delete Song）を表示します。

Delete Song	6
▶Exec?	

2. [+ /YES] スイッチを押すと、画面に確認メッセージ“Are You Sure?”が表示されます。削除をしない場合は、[- /NO]（または [EXIT]）スイッチを押します。
3. [+ /YES] スイッチをもう 1 回押して、ソング・データの削除を実行します。
4. [EXIT] スイッチを押すと、ソング名が“Untitled”になって新規ソングの録音開始が可能になります。

ソングの保存

エディットしたソングに名前をつけて保存します。名前の長さは最大 128 文字です。

 ソングの保存作業（Writing 表示）中にスイッチ、ペダル、鍵盤に触れたり、電源をオフにしないでください。本機のデータや、内部に重大な損傷を与える場合があります。

1. ソング・エディット・モードに入り、スクロール・スイッチでページ 7 のソング保存画面（Save Song）を表示します。

Save Song	7
▶Untitled	Save?
2. 26 ページ「別のソングを選ぶことで保存する」の操作 3. 以降を行ってください。

音色とパフォーマンスのエディット

サウンド・エディット・モードで、選んだ音色やパフォーマンスに対する設定をエディットできます。
どちらも同じエディット・パラメーターを使いますが、パフォーマンスでは組み合わせの音色の変更や、スプリット・ポイントもエディットできます。

サウンド・エディット・モードに入り、各種設定を変更して、モードを終了するときには、その音色としての設定変更を保存するか、パフォーマンスとして保存するのを選択できます。

サウンド・エディット・モードに入る

サウンド・エディット・モードに入るときは、任意の音色またはパフォーマンスを選んで [EDIT] スイッチを押します。

モードに入った後でも、音色を切り替えて設定状態を確認することができますが、その時エディット中の音色の内容は消えてしまいます。エディット内容を有効にしたいときは、一度 [EXIT] スイッチを押して、エディット内容を保存してから音色を切り替えてください。

note スプリットの場合は、両方の音色をエディットして、メイン音色を選び直しても、スプリット音色のエディット内容はそのままになります。また、同様にスプリット音色を選び直しても、メイン音色のエディット内容はそのままになります。
レイヤーの場合は、音色の組み合わせを変えると、エディットした内容は無効になります。

サウンド・エディット・モードを終了する

パラメーターをエディットした後、[EXIT] スイッチを押してサウンド・エディット・モードを終了します。

パラメーターを何も変更しなかった場合は、すぐにモードを終了します。

パラメーターを変更したときは、設定変更保存ページが表示されます。

[+ /YES] スイッチを押して保存するか、

[- /NO] スイッチを押してキャンセルします。

Sound Modified
Save? (Yes/No)

音色 / パフォーマンスの保存

▲ 音色やパフォーマンスの保存作業 (Writing 表示) 中に、スイッチ、ペダル、鍵盤に触れたり、電源をオフにしないでください。本機のデータや、内部に重大な損傷を与える場合があります。

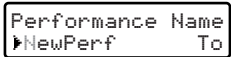
音色の保存

シングル、レイヤー、スプリット・モードでエディットして、モードを終了するとき [EXIT] スイッチを押して、設定変更保存ページを表示し [+ /YES] スイッチを押すと、その設定が音色の設定として書き換えられます。

パフォーマンスの保存

● 新規パフォーマンスの場合

シングル、レイヤー、スプリット・モードでエディットして、モードを終了するとき [EXIT] スイッチを押して、設定変更保存ページを表示し、[PERFORMANCE] スイッチ (ランプ点滅) を押すと、パフォーマンスを保存できる画面を表示します。

- エディットしてモードを終了するときに、[EXIT] スイッチを押します。
設定変更保存ページが表示されます。
- ランプが点滅している、[PERFORMANCE] スイッチを押します。
パフォーマンス・ネーム・ページ (Performance Name) が表示され、パフォーマンス名の一部が点滅します。

- 名前を変更するときは、スクロール・スイッチで点滅を移動し、[+ /YES]、[- /NO] スイッチで文字を選びます。
スイッチを押したままにすると、文字が連続的に変化します。
なお、使用できる文字は、スペース、!、#、\$、%、&、'、(、)、+、-、数字 0 ~ 9、:、=、@、大文字 A ~ Z、[、]、^、_、`、小文字 a ~ z、{、} です。
スクロール・スイッチ [▼]、[▲] を同時に押すと、スペースの挿入になります。
[+ /YES]、[- /NO] を同時に押すと、文字の削除になります。

- 設定したらスクロール・スイッチでカーソルを "To" に移動し、[+ /YES] スイッチを押します。
保存先設定ページが表示されます。

- [VARIATION] スイッチでバンクを、音色スイッチで番号 (1 ~ 10) を選びます。

Save To: Perf.16
Scat&Bass ▶ Save?

- [+ /YES] スイッチを押して、パフォーマンスの保存を実行します。

- 確認メッセージ "Are You Sure ?" が表示されます。
保存をやめる場合は、[- /NO] (または [EXIT]) スイッチを押します。

- [+ /YES] スイッチをもう 1 回押して、パフォーマンスの保存を実行します。
保存が終了すると、自動的にパフォーマンス・プレイ・モードになり、エディットしたパフォーマンスが、指示したパフォーマンス・ナンバーに置き換わります。

● 既存パフォーマンスの場合

パフォーマンスをエディットしてモードを終了するときに、[EXIT] スイッチを押して、パフォーマンスとして保存します。

- エディットしてモードを終了するときに、[EXIT] スイッチを押します。
設定変更保存ページが表示されます。
- [+ /YES] スイッチを押して、パフォーマンス・ネーム・ページ (Performance Name) を表示します。
パフォーマンス名の一部が点滅します。
- 新規パフォーマンスの保存の手順 3. 以降を行ってください。

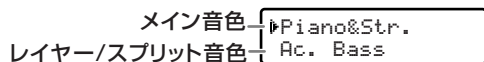
● レイヤー、スプリット・モードの音色の組み合わせの登録するには

- レイヤー、またはスプリット・モードで音色を組み合わせます。
- [PERFORMANCE] スイッチを長押しします。
- パフォーマンス・ネーム・ページ (Performance Name) が表示されるので、新規パフォーマンスの保存の手順 3. 以降を行ってください。

パフォーマンス音色の確認と変更

パフォーマンスに使用している音色の確認、変更をします。

- スクロール・スイッチ[▼]、[▲]を、同時に押して音色確認画面を表示します。



- スクロール・スイッチで、ディスプレイ上のカーソル(▶)を、メイン音色、またはレイヤー/スプリット音色に移動します。

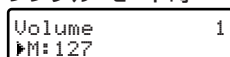
- 音色を[+/YES]、[-/NO]スイッチで変更します。
そのままパフォーマンス音色をエディットするときは、[EDIT]スイッチを押します。
- 音色の組み合わせを記憶するときは、[PERFORMANCE]スイッチを長押しして、保存作業(29ページ「●レイヤー、スプリット・モードの音色の組み合わせのみを登録するには」)をします。
保存をしないで、他の音色スイッチや[VARIATION]スイッチを押すと、もとの音色の組み合わせに戻ります。

音量の設定

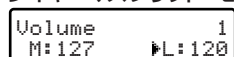
音色の音量を調整します。

- サウンド・エディット・モードに入り、スクロール・スイッチでページ1の音量設定画面(Volume)を表示します。
- ディスプレイ上のカーソル(▶)が、メイン音色(M)にあることを確認します。
- [+/YES]、[-/NO]スイッチで、メイン音色の音量を設定します。
スイッチを押したままにすると、値が連続的に変化します。
[+/YES]、[-/NO]スイッチを同時に押すと、値が“127”になります。

シングル・モード時



レイヤー、スプリット・モード時



- スクロール・スイッチで、ディスプレイ上のカーソル(▶)を、レイヤー/スプリット音色(L)に移動します。
- [+/YES]、[-/NO]スイッチで、レイヤー/スプリット音色の音量を設定します。
スイッチを押したままにすると、値が連続的に変化します。
[+/YES]、[-/NO]スイッチを同時に押すと、値が“127”になります。

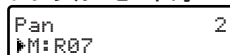
note レイヤー/スプリット音色の音量は、レイヤー/スプリット・モードの時に設定できます。

定位(パン)の設定

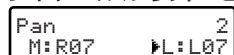
各音色のステレオ定位を設定します。

- サウンド・エディット・モードに入り、スクロール・スイッチでページ2の定位の設定画面(Pan)を表示します。
- ディスプレイ上のカーソル(▶)が、メイン音色(M)にあることを確認します。
- [+/YES]、[-/NO]スイッチで、メイン音色の定位を設定します。
スイッチを押したままにすると、値が連続的に変化します。
[+/YES]、[-/NO]スイッチを同時に押すと、値が“C00”になります。

シングル・モード時



レイヤー、スプリット・モード時



- スクロール・スイッチで、ディスプレイ上のカーソル(▶)を、レイヤー/スプリット音色(L)に移動します。
- [+/YES]、[-/NO]スイッチで、レイヤー/スプリット音色の音量を設定します。
スイッチを押したままにすると、値が連続的に変化します。
[+/YES]、[-/NO]スイッチを同時に押すと、値が“C00”になります。

note レイヤー/スプリット音色の定位は、レイヤー/スプリット・モードの時に設定できます。

リバーブの設定

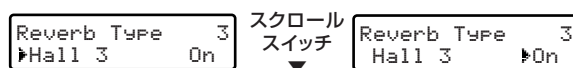
リバーブ・エフェクトの設定をします。レイヤーやスプリットのとき、このリバーブはメイン、レイヤー、スプリット音色に関わりなく同じタイプが使用されます。ただし、メイン音色とレイヤー/スプリット音色にかかるエフェクト量は、別々に調整することができます。

note スプリットの場合は、メイン音色のリバーブ・タイプになります。レイヤーの場合は、組み合わせごとにリバーブ・タイプを記憶できます。

リバーブ・タイプの選択

- サウンド・エディット・モードに入り、スクロール・スイッチでページ3のリバーブ・タイプの設定画面(Reverb Type)を表示します。
- ディスプレイ上のカーソル(▶)が、タイプ名にあることを確認します。

- [+/YES]、[-/NO]スイッチで、リバーブ・タイプを選択します。
スイッチを押したままにすると、連続的に変化します。
[+/YES]、[-/NO]スイッチを同時に押すと、タイプが“Hall 1”になります。



- スクロール・スイッチで、ディスプレイ上のカーソル(▶)をオン、オフに移動します。
- [+/YES]、[-/NO]スイッチで、リバーブのオン、オフを設定します。また、[REVERB]スイッチでオン、オフを設定することもできます。

このとき、[REVERB] スイッチのランプが、設定にあわせて点灯（オン）、消灯（オフ）します。

表示	説明
Hall 1	小さなホールの響きを持つリバーブ
Hall 2	中くらいのホールの響きを持つリバーブ
Hall 3	大きなホールの響きを持つリバーブ
Wet Plate	湿った空気感を出すプレート・リバーブ
Dry Plate	乾いた空気感を出すプレート・リバーブ
Room 1	落ち着いた音色のルーム・リバーブ
Room 2	明るい音色のルーム・リバーブ
Bright Room	華やかな音色のルーム・リバーブ

リバーブ・センドの設定

- サウンド・エディット・モードに入り、スクロール・スイッチで、ページ4のリバーブ・センドの設定画面 (Reverb Send) を表示します。
- ディスプレイ上のカーソル (▶) が、メイン音色 (M) にあることを確認します。
- [+ /YES]、[- /NO] スイッチで、メイン音色にかけるリバーブのセンド量を設定します。
スイッチを押したままにすると、値が連続的に変化します。
[+ /YES]、[- /NO] スイッチを同時に押すと、値が“64”になります。

シングル・モード時

Reverb Send 4
M: 127

レイヤー、スプリット・モード時

Reverb Send 4
M: 127 ▶L: 100

- スクロール・スイッチで、ディスプレイ上のカーソル (▶) をレイヤー / スプリット音色 (L) に移動します。
- [+ /YES]、[- /NO] スイッチで、レイヤー / スプリット音色にかけるリバーブのセンド量を設定します。
スイッチを押したままにすると、値が連続的に変化します。
[+ /YES]、[- /NO] スイッチを同時に押すと、値が“64”になります。

note レイヤー / スプリット音色のリバーブ・センドは、レイヤー / スプリット・モードの時に設定できます。

コーラス、モジュレーションの設定

コーラス、モジュレーション・エフェクトの設定をします。レイヤーやスプリットのとき、このエフェクトはメイン、レイヤー、スプリット音色に関わりなく同じタイプが使用されます。ただし、メイン音色とレイヤー / スプリット音色にかかるエフェクト量は、調整することができます。

コーラス、モジュレーション・タイプの選択

- サウンド・エディット・モードに入り、スクロール・スイッチでページ5のコーラス・タイプの設定画面 (Chorus Type) を表示します。
- ディスプレイ上のカーソル (▶) が、タイプ名にあることを確認します。

Chorus Type 5 スクロール
▶ Ensemble Off スイッチ Chorus Type 5
Ensemble ▶ On

- [+ /YES]、[- /NO] スイッチでタイプを選択します。
スイッチを押したままにすると、連続的に変化します。
[+ /YES]、[- /NO] スイッチを同時に押すと、タイプが“Chorus”になります。
- スクロール・スイッチで、ディスプレイ上のカーソル (▶) をオン、オフに移動します。
- [+ /YES]、[- /NO] スイッチでエフェクトのオン、オフを設定します。また、[CHORUS] スイッチでオン、オフを設定することもできます。
このとき、[CHORUS] スイッチのランプが、設定にあわせて点灯（オン）、消灯（オフ）します。

表示	説明
Chorus	コーラス
Harm. Chor.	ハーモニック・コーラス：高音域の成分の多いコーラス
Chorus Dly	コーラス・ディレイ：遅延成分を含んだコーラス
Ensemble	アンサンブル：厚みのある音色のコーラス
Flanger	フランジャー：スムーズな揺らぎのある金属感をだすモジュレーション・エフェクト
Tremolo	トレモロ：小刻みに音量を大小に変化させるモジュレーション・エフェクト

コーラス、モジュレーション・センドの設定

- サウンド・エディット・モードに入り、スクロール・スイッチでページ6のコーラス・センドの設定画面 (Chorus Send) を表示します。
- ディスプレイ上のカーソル (▶) が、メイン音色 (M) にあることを確認します。
- [+ /YES]、[- /NO] スイッチでメイン音色にかけるエフェクトのセンド量を設定します。
スイッチを押したままにすると、値が連続的に変化します。
[+ /YES]、[- /NO] スイッチを同時に押すと、値が“64”になります。

シングル・モード時

Chorus Send 6
▶ M: 127

レイヤー、スプリット・モード時

Chorus Send 6
M: 127 ▶L: 0

- スクロール・スイッチでディスプレイ上のカーソル (▶) を、レイヤー / スプリット音色 (L) に移動します。
- [+ /YES]、[- /NO] スイッチで、レイヤー / スプリット音色にかけるエフェクトのセンド量を設定します。
スイッチを押したままにすると、値が連続的に変化します。
[+ /YES]、[- /NO] スイッチを同時に押すと、値が“64”になります。

note レイヤー / スプリット音色のコーラス、モジュレーション・センドは、レイヤー / スプリット・モードの時に設定できます。

インサート・エフェクトの設定

リバーブやコーラス、モジュレーション・エフェクトは、メイン、レイヤー/スプリット音色のどちらも同じタイプになりますが、インサート・エフェクトは、メイン音色、レイヤー/スプリット音色ごとに選べるエフェクトです。

インサート・エフェクト・タイプの選択

- サウンド・エディット・モードに入り、スクロール・スイッチでページ7のインサート・エフェクト・タイプの設定画面 (IFX M/L Type) を表示します。
- ディスプレイ上のカーソル (▶) が、メイン音色のインサート・エフェクトにあることを確認します。
- [+ /YES]、[- /NO] スwitchで、エフェクト・タイプを選択します。スイッチを押したままにすると、タイプ名が連続的に変化します。[+ /YES]、[- /NO] スwitchを同時に押すと、タイプが "Off" になります。

シングル・モード時	レイヤー、スプリット・モード時
IFX M/L Type ? ▶LoGain	IFX M/L Type ? LoGain ▶Rotary

- スクロール・スイッチでディスプレイ上のカーソル (▶) を、レイヤー/スプリット音色のインサート・エフェクトに移動します。
- [+ /YES]、[- /NO] スwitchでエフェクト・タイプを選択します。スイッチを押したままにすると、タイプ名が連続的に変化します。[+ /YES]、[- /NO] スwitchを同時に押すと、タイプが "Off" になります。

note レイヤー/スプリット音色のインサート・エフェクトのタイプは、レイヤー/スプリット・モードの時に設定できます。

表示	効果
LoGain	低域を強調した音になります
HiGain	高域を強調した音になります。
HLGain	低域と高域両方を強調した音になります。
MdGain	中域を強調した音になります。
Echo 1	短い反射音 (エコー) がある部屋で弾いているような効果を加えます。
Echo 2	中ぐらいの反射音 (エコー) がある部屋で弾いているような効果を加えます。
Echo 3	長い反射音 (エコー) がある部屋で弾いているような効果を加えます。
Dly4th	テンポに合わせた 4 分音符の間隔で残響音を響かせます。
Dly3/4	テンポに合わせた 3 連符の間隔で残響音を加えます。
Dly8th	テンポに合わせた 8 分音符の間隔で残響音を加えます。
Pan	オートパン：定位を自動的に左右に揺らします。
Trem.	トレモロ：小刻みに音量を大小に変化させます。
Phaser	フェイザー：位相を変化させ、音に広がりや奥行きを与えます。
Rotary	ロータリー・スピーカー：オルガン音色に効果的なドブラー効果が得られるスピーカー
AmpSim	アンプ・シミュレーター：ギターアンプの音響特性を再現します。オルガンやドラム系の音色にも有効です。
Comp.	コンプレッサー：大音量時のレベルを自動的に圧縮して抑えます。
Limit.	リミッター：ステレオのコンプレッサーの圧縮効果が大きいもの。
Excit.	エキサイター：高域の音の倍音を強調します。
Wah	ワウ：周期的に高域の音の倍音を強調します。
PhaTrm	フェイザー+トレモロ
AmpTrm	アンプ・シミュレーター+トレモロ
CmpAmp	コンプレッサー+アンプ・シミュレーター
OD - Wah	オーバー・ドライブ (音をわざと歪ませます) +ワウ
WahAmp	ワウ+アンプ・シミュレーター

エフェクト音とダイレクト音のバランスの設定

エフェクト音 (Wet) と、ダイレクト音 (Dry) の割合を設定します。

表示	意味
Dry, D001 ~ D049	ダイレクト音のみ、ダイレクト音の割合が多い
D050	ダイレクト音と、エフェクト音の割合が半々
W051 ~ W099, Wet	エフェクト音の割合が多い、エフェクト音のみ

※エフェクトのタイプによっては、値がマイナス表示になるものがあります。これは、位相が反転した状態です。

- サウンド・エディット・モードに入り、スクロール・スイッチでページ8の、エフェクト音とダイレクト音のバランスの設定画面 (IFX Wet/Dry) を表示します。
- ディスプレイ上のカーソル (▶) が、メイン音色 (M) にあることを確認します。
- [+ /YES]、[- /NO] スwitchで、メイン音色のエフェクト音とダイレクト音のバランスを設定します。スイッチを押したままにすると、値が連続的に変化します。

[+ /YES]、[- /NO] スwitchを同時に押すと、値が "D050" になります。

シングル・モード時	レイヤー、スプリット・モード時
IFX Wet/Dry 8 ▶M:W099	IFX Wet/Dry 8 M:W099 ▶L:D020

- スクロール・スイッチでディスプレイ上のカーソル (▶) を、レイヤー/スプリット音色 (L) に移動します。
- [+ /YES]、[- /NO] スwitchで、レイヤー/スプリット音色のエフェクト音とダイレクト音のバランスを設定します。スイッチを押したままにすると、値が連続的に変化します。[+ /YES]、[- /NO] スwitchを同時に押すと、値が "D050" になります。

note レイヤー/スプリット音色のエフェクト音と、ダイレクト音のバランスは、レイヤー/スプリット・モード時に設定できます。

note 鍵盤を弾いて音を出したまま、バランスを変えようとすると表示が "----" に変わり、値を変更することができません。値を変更した後で、鍵盤を弾いて確認してください。

音域の設定

音域をオクターブ単位でシフトします。シフト範囲は±4オクターブになります。

1. サウンド・エディット・モードに入り、スクロール・スイッチでページ9の音域の設定画面（Octave）を表示します。
2. ディスプレイ上のカーソル（▶）が、メイン音色（M）にあることを確認します。
3. [+ /YES]、[- /NO] スイッチでメイン音色の音域を設定します。スイッチを押したままにすると値が連続的に変化します。[+ /YES]、[- /NO] スイッチを同時に押すと値が“+00”になります。

シングル・モード時

Octave	9
M: +02	

レイヤー、スプリット・モード時

Octave	9
M: +02	L: +00

4. スクロール・スイッチでディスプレイ上のカーソル（▶）を、レイヤー / スプリット音色（L）に移動します。
5. [+ /YES]、[- /NO] スイッチでレイヤー / スプリット音色の音域を設定します。スイッチを押したままにすると、値が連続的に変化します。[+ /YES]、[- /NO] スイッチを同時に押すと、値が“+00”になります。

note レイヤー / スプリット音色の音域は、レイヤー / スプリット・モードの時に設定できます。

音程（ピッチ）の設定

他の楽器と演奏するときや、レイヤー / スプリット・モード時に音程を少しずらすことで、音にうねりを与えることができます。範囲は±99セントになります。

1. サウンド・エディット・モードに入り、スクロール・スイッチでページ10の音程の設定画面（Fine Tune）を表示します。
2. ディスプレイ上のカーソル（▶）が、メイン音色にあることを確認します。
3. [+ /YES]、[- /NO] スイッチで、メイン音色の音程を設定します。スイッチを押したままにすると、値が連続的に変化します。[+ /YES]、[- /NO] スイッチを同時に押すと、値が“+00”になります。

シングル・モード時

Fine Tune	10
M: +02	

レイヤー、スプリット・モード時

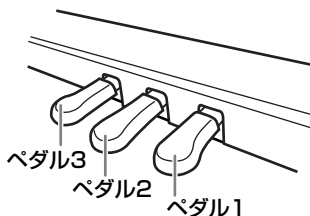
Fine Tune	10
M: +02	L: +00

4. スクロール・スイッチでディスプレイ上のカーソル（▶）を、レイヤー / スプリット音色（L）に移動します。
5. [+ /YES]、[- /NO] スイッチで、レイヤー / スプリット音色の音程を設定します。スイッチを押したままにすると、値が連続的に変化します。[+ /YES]、[- /NO] スイッチを同時に押すと、値が“+00”になります。

note レイヤー / スプリット音色の音程は、レイヤー / スプリット・モードの時に設定できます。

ペダルの設定

本機には、右から順番にペダル1、2、3があり、工場出荷時にはそれぞれダンパー、ソステヌート、ソフトの3種類の機能が、割り当てられています。ペダルには他の機能を割り当てることや、レイヤー / スプリット・モード時に、メイン音色と違う機能を割り当てることもできます。



note グローバル・モードのペダルの機能（36ページ）に“Sound”を選んでいるときに、ここでの設定が有効になります。グローバル・モードのペダルの機能が“Sound”以外の場合は、画面の“Pedal”の右に（G）（グローバル）という文字が表示されます。

1. サウンド・エディット・モードに入り、スクロール・スイッチでページ11のペダル1の機能設定画面（Pedal 1）を表示します。
2. [+ /YES]、[- /NO] スイッチで、ペダル1の機能を設定します。スイッチを押したままにすると、機能名が連続的に変化します。[+ /YES]、[- /NO] スイッチを同時に押すと、設定が“Damper”になります。

note レイヤー / スプリット・モードのときは、スクロール・スイッチでカーソルを（▶）移動して、レイヤー / スプリット音色のペダル1の機能を設定します。

シングル・モード時

Pedal 1	11
Damper	

レイヤー、スプリット・モード時

Pedal 1	11
Damper	L: Damper

3. スクロール・スイッチでページ12のペダル2の機能設定画面（Pedal 2）を表示します。
4. [+ /YES]、[- /NO] スイッチでペダル2の機能を設定します。スイッチを押したままにすると、機能名が連続的に変化します。[+ /YES]、[- /NO] スイッチを同時に押すと、設定が“Sost.”になります。

note レイヤー / スプリット・モードのときは、スクロール・スイッチでカーソルを（▶）移動して、レイヤー / スプリット音色のペダル2の機能を設定します。

シングル・モード時

Pedal 2	12
Sost.	

レイヤー、スプリット・モード時

Pedal 2	12
Sost.	L: Sost.

5. スクロール・スイッチでページ13のペダル3の機能設定画面（Pedal 3）を表示します。

6. [+ /YES]、[- /NO] スイッチでペダル 3 の機能を設定します。
スイッチを押したままにすると、機能名が連続的に変化します。
[+ /YES]、[- /NO] スイッチを同時に押すと、設定が “Soft” になります。

note レイヤー/スプリット・モードのときは、スクロール・スイッチでカーソルを (▶) 移動して、レイヤー/スプリット音色のペダル 3 の機能を設定します。

シングル・モード時

Pedal 3	13
▶Soft	

レイヤー、スプリット・モード時

Pedal 3	13
Soft	▶Soft

設定	機能
Off	ペダルを踏んでも音色に変化はありません。
Damper	ダンパー・ペダル
Sost. (Sostenuto)	ソステヌート・ペダル
Soft	ソフト・ペダル
Glide	グリッド機能。ペダルを踏んだとき、音程がわずかに低く変化する効果です。
Rotary	電子オルガンのロータリー・スピーカーのコントロールをします。前もってインサート・エフェクトのタイプに “Rotary” を選んでください。Perc.Org. 1 の音色で使用すると効果的です。

音律の設定

クラシック音楽には、古典的な調律法によって作曲された作品が、数多く残っています。これらの曲の持つ本来の響きを再現するために、キルンベルガーと、ヴェルクマイスターという古典音律や、現在鍵盤楽器で広く用いられている平均律など、10 種類の音律が選択できます。

スケール	解説
Equal Temp.	平均律、現代の西洋音楽の標準の音階です。12 個の同じ半音で構成されています。
Major Pure	選択されたキーのメジャー・コードは完全音程に調律されます。
Minor Pure	選択されたキーのマイナー・コードは完全音程に調律されます。
Arabic	1/4 音を使ったアラビア音階です。E と B は 1/4 音低く調律します。
Pythagorean	ピタゴラス音階、ギリシャの偉大な哲学者、数学者ピタゴラスの音楽理論に基づいたものです。メロディーに最適です。
Werckmeister	後期バロック / 古典音楽の音階です。18 世紀音楽に適しています。
Kirnberger	ハープシコードの音階で、18 世紀の代表的なものです。
Slendro	インドネシアのガムランの音階です。1 オクターブが 5 音階 (C、D、F、G、A) に分かれています。他の音は平均律と同じに調律されています。
Pelog	インドネシアのガムランの音階です。1 オクターブが 7 音階 (Key が C のとき、全ての白鍵) に分かれています。黒鍵は平均律と同じに調律されています。
Stretched	より自然な響きを得るために、平均律のピッチに対して低音域は低く、高音域は高くピッチを調整したアコースティック・ピアノに用いられる調律です。

音律タイプの選択

- サウンド・エディット・モードに入り、スクロール・スイッチでページ 14 の音律の設定画面 (Subscale Type) を表示します。

SubScale Type 14
▶Kirnberger
- [+ /YES]、[- /NO] スイッチで音律を設定します。
[+ /YES]、[- /NO] スイッチを同時に押すと、設定が “Equal Temp.” になります。

音律のオン、オフ選択

前項の「音律タイプの選択」で選んだ音律を使うときにオンにします。

- サウンド・エディット・モードに入り、スクロール・スイッチでページ 15 の音律の設定画面 (SubScale Sw.) を表示します。

シングル・モード時

SubScale Sw.	15
▶M:On	

レイヤー、スプリット・モード時

SubScale Sw.	15
M:On	▶L:Off

- [+ /YES]、[- /NO] スイッチでオン、オフを設定します。
- [EXIT] スイッチを押して、もとのモードに戻ります。

note レイヤー/スプリット・モードのときは、スクロール・スイッチでカーソルを (▶) 移動して、レイヤー/スプリット音色の音律のオン、オフを設定します。

音色の設定のリセット

現在選んでいるエディットした音色や、パフォーマンスに使用している音色を、工場出荷時の設定にリセットします。

⚠ リセット作業 (Wait Please 表示) 中に、スイッチ、ペダル、鍵盤に触れたり、電源をオフにしないでください。本機のデータや、内部に重大な損傷を与える場合があります。

- サウンド・エディット・モードに入り、スクロール・スイッチでページ 16 のリセットの実行画面 (Reset Snd/Prf) を表示します。

Reset Snd/Prf 16
▶Exec?
- [+ /YES] スイッチを押してリセットを開始します。
- 画面に確認メッセージ “Are You Sure ?” が表示されます。
リセットをやめるときは、[- /NO] (または [EXIT]) スイッチを押します。
- もう一度 [+ /YES] スイッチを押してリセットを実行します。

グローバル・エディット・モード

グローバル・エディット・モードでは、個々の音色やソングではなく本機全体に適用されるパラメーターをエディットできます。

グローバル・エディット・モードに入る

グローバル・エディット・モードに入るときは、[EDIT] スイッチを画面が変わるまで押（1 秒以上長押し）します。

グローバル・エディット・モードを終了する

グローバル・パラメーターをエディットしたら、[EXIT] スイッチを押して、グローバル・エディット・モードを終了します。
パラメーターを何も変更しなかったり、保存されている設定と同じ場合はすぐにモードを終了します。

パラメーターを変更したり、保存されている設定と異なる場合は、設定変更保存ページが表示されます。

Globals Modified
Save? (Yes/No)

[+ /YES] スイッチを押して保存するか、
[- /NO] (または [EXIT]) スイッチを押してキャンセルします。

⚠ 設定の保存作業 (Writing 表示) 中に、スイッチ、ペダル、鍵盤に触れたり、電源をオフにしないでください。本機のデータや、内部に重大な損傷を与える場合があります。

鍵盤タッチ・コントロールの設定

鍵盤を弾く強さによる、音の強弱の変化の度合いを設定します。

note 電源をオフにすると初期値 (Medium 2) に戻りますが、設定した値のままにしたいときは、保存作業 (35 ページ「グローバル・エディット・モードを終了する」) を行ってください。

1. グローバル・エディット・モードに入り、スクロール・スイッチでページ 1 のタッチ・コントロールの設定画面 (TouchSens.) を表示します。

TouchSens. 1
Medium 2

2. [+ /YES]、[- /NO] スイッチで設定を選びます。

[+ /YES]、[- /NO] スイッチを同時に押すと、設定が "Medium 2" になります。

設定	タッチカーブ
Fixed	タッチ・コントロールは固定です。オルガンやハープシコードのようにタッチ・コントロールはなくなります
Soft 1~3	軽め、弱く弾いても強音が出せるタッチ
Medium 1~2	標準、普通のピアノ・タッチ
Hard 1~3	重め、強く弾かないと強音が出せないタッチ

スピーカーのオン、オフ

内蔵のスピーカから音を出す、出さないを選ぶことができます。MIDI 機器を使って、本機をマスター・キーボードとして使用するとき便利です。

1. グローバル・エディット・モードに入り、スクロール・スイッチでページ 2 のスピーカーの設定画面 (Speakers) を表示します。

2. [+ /YES]、[- /NO] スイッチでオン、オフを選びます。

Speakers 2
On

note 電源をオフにするとオンに戻ります。

マスター・チューニング

ピッチ (音の高さ) の微調整を行ないます。他の楽器と合奏をするときなどに、楽器間の微妙なピッチのずれを調整します。
0.5Hz ステップで、415.0Hz ~ 465.0Hz までずらすことができます。基準ピッチは A4=440.0Hz です。

⚠ 電源をオフにすると、基準ピッチ (440.0) に戻りますが、設定した値のままにしたいときは、保存作業 (35 ページ「グローバル・エディット・モードを終了する」) を行ってください。

1. グローバル・エディット・モードに入り、スクロール・スイッチでページ 3 のマスター・チューニングの設定画面 (Master Tune) を表示します。

Master Tune 3
440.0 Hz

2. [+ /YES]、[- /NO] スイッチで値を設定します。
スイッチを押したままにすると、値が連続的に変化します。
[+ /YES]、[- /NO] スイッチを同時に押すと、設定が "440.0 Hz" になります。

ブリリアンス

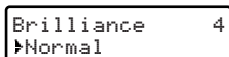
音色の明るさを選びます。

ブリリアンスの設定は、グローバル・モードに入らなくても [BRILLIANCE] スイッチを押して、エディットすることができます。

⚠ 電源をオフにすると、初期値 (Normal) に戻りますが、設定した値のままにしたいときは、保存作業 (63 ページ「グローバル・エディット・モードを終了する」) を行ってください。

設定	ブリリアンス
Very Mellow, Mellow	明るさを抑えた落ち着いた音色 (ランプ点灯)
Normal	標準の音色 (ランプ消灯)
Bright, Very Bright	明るめの音色 (ランプ点灯)

1. グローバル・エディット・モードに入り、スクロール・スイッチでページ 4 のブリリアンスの設定画面 (Brilliance) を表示します。



2. [+ /YES]、[- /NO] スイッチで設定を選びます。
[+ /YES]、[- /NO] スイッチを同時に押すと、設定が "Normal" になります。

スプリット・ポイント

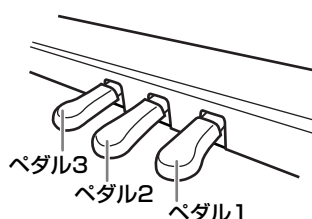
スプリット・モードにしたときの、スプリット・ポイント (右手側と左手側のさかい目) を設定します。スプリット・ポイントは右手側に入ります。

- 電源をオフにすると、初期値 (F#3) に戻りますが、設定した値のままにしたいときは、保存作業 (63 ページ「グローバル・エディット・モードを終了する」) を行ってください。

1. グローバル・エディット・モードに入り、スクロール・スイッチでページ 5 のスプリット・ポイントの設定画面 (Split Point) を表示します。
2. [+ /YES]、[- /NO] スイッチで、スプリット・ポイントのキーを選びます。
スイッチを押したままにすると、キーが連続的に変化します。
[+ /YES]、[- /NO] スイッチを同時に押すと、設定が "F#3" になります。

グローバル・ペダル設定

初期設定では 3 本のペダルに、ソフト、ソステヌート、ダンパーの 3 種類の機能がそれぞれ割り当てられていますが、必要に応じてこの割り当てを変更することができます。音色別に設定を割り当てることができる (33 ページ「ペダルの設定」) ですが、ここでそれ以外の機能を割り当てることができます。



- 音色 (Sound) 以外の機能をペダルに割り当てると、音色ごとのペダルの機能設定 (33 ページ「ペダルの設定」) が無効になります。このとき、サウンド・エディット・モードのペダル機能設定ページの該当ペダルに、(G) (グローバル) という文字が表示されます。

- 電源をオフにすると、初期値 (Sound) に戻りますが、設定した値のままにしたいときは、保存作業 (35 ページ「グローバル・エディット・モードを終了する」) を行ってください。

1. グローバル・エディット・モードに入り、スクロール・スイッチでページ 6 のペダル 1 のグローバル設定画面 (Pedal 1 Glob.) を表示します。
2. [+ /YES]、[- /NO] スイッチでペダル 1 の機能を設定します。
スイッチを押したままにすると、機能名が連続的に変化します。
3. スクロール・スイッチでページ 7 のペダル 2 のグローバル設定画面 (Pedal 2 Glob.) を表示します。
4. [+ /YES]、[- /NO] スイッチでペダル 2 の機能を設定します。
スイッチを押したままにすると、機能名が連続的に変化します。
5. スクロール・スイッチでページ 8 のペダル 3 のグローバル設定画面 (Pedal 3 Glob.) を表示します。
6. [+ /YES]、[- /NO] スイッチでペダル 3 の機能を設定します。
スイッチを押したままにすると、機能名が連続的に変化します。

- いずれのページでも、[+ /YES]、[- /NO] スイッチを同時に押すと、"Sound" になります。

設定	機能
Sound	ペダルはメイン音色の音色ごとにプログラムされます。
Fill In	ペダルを踏むと、ドラム・パターンの Fill (フィル) 演奏を始めます。
Quarter Tone	クォーター・トーン機能をオンにします。オリジナルのスケールで弾くときに使用します。下記の「クォーター・トーン」を参照してください。
Transpose Up	ペダルを踏むたびに、マスター・トランスポーズが半音上がります。
Transpose Down	ペダルを踏むたびに、マスター・トランスポーズが半音下がります。
Play/Pause	[PLAY/PAUSE] スイッチと同じ機能になります。
Stop	[STOP] スイッチと同じ機能になります。
Pedal Punch	ペダル・パンチ・レコーディングで使用する機能です。詳細は 26 ページを参照してください。

クォーター・トーン (リアルタイム・プログラミング・スケール)

クォーター・トーン機能は、演奏用にオリジナルな音程を作成します。たとえば、アラビア音楽に代表されるスケール変化を再現するのに使用します。新たな音色やパフォーマンスを選んだときは、そのたびペダルを踏んで設定をしてください。

- この機能は、すべての音律で使用することができます。

- クォーター・トーンの機能を使うときは、34 ページ「音律のオン、オフ選択」をオンに設定してください。

- ここで、作成されたスケールは保存することができません。電源をオフにしたときは、設定をし直してください。

1. ペダルのひとつに、"Quarter Tone" 機能を設定します。
2. 機能を設定したペダルを踏みながら、音程を 1/4 音下げたい鍵盤を押します。複数の鍵盤を選ぶこともできます。
3. ペダルを踏むのを止めます。
4. これで新たなスケールになりました。操作 2. で設定した鍵盤を弾くと音程が 1/4 音下がります。
5. もとのスケールに戻るときは、もう一度ペダルを踏みます。

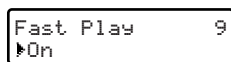
ファスト・プレイ機能 (Fast Play)

本機の内蔵レコーダーでソングを録音したり、コンピューターからスタンダード MIDI ファイルを読み込んだりすると、ソングの先頭に 1 つ、

または複数の空白の拍子 (ビート) が入っていることがあります。

ファスト・プレイ機能をオンにすると、この空白のビートは無視され、ソングがすぐに再生されます。
また、セットアップ・データがこの空白のビート内に入っている場合は、その読み込みが速くなります。

1. グローバル・エディット・モードに入り、スクロール・スイッチでページ 9 のファスト・プレイの設定画面 (Fast Play) を表示します。



パート・ミュート・レベル

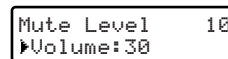
ソングを再生するときに、パートをミュートすることができますが、そのレベルを調整することができます。このレベルを適切にすることで、ミュート・パートの練習をするときに、ガイドとして使うことができます。

- ⚡ 電源をオフにすると、初期値 (30) に戻りますが、設定した値のままにしたいときは、保存作業 (35 ページ「グローバル・エディット・モードを終了する」) を行ってください。

2. [+ /YES]、[- /NO] スイッチでオン、オフを選びます。

- ⚡ 電源をオフにすると、初期値 (Off) に戻りますが、オンのままにしたいときは、保存作業 (35 ページ「グローバル・エディット・モードを終了する」) を行ってください。

1. グローバル・エディット・モードに入り、スクロール・スイッチでページ 10 のミュート・レベルの設定画面 (Mute Level) を表示します。



2. [+ /YES]、[- /NO] スイッチで、プログラムのミュート・レベルを設定します。
スイッチを押したままにすると、値が連続的に変化します。
[+ /YES]、[- /NO] スイッチを同時に押すと、設定が "30" になります。

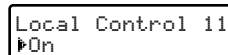
MIDI ローカル・コントロール

ローカル・コントロールの設定をオンにすると、本機の鍵盤を弾くと演奏の音が鳴り、同時に MIDI データを送信します。

オフにすると、本機を弾いても演奏の音は鳴らず、MIDI データだけを送信します。通常はローカル・コントロールをオンに設定します。
本機をマスター・キーボードとして使用する場合、たとえば本機を接続した MIDI 機器 (キーボード、音源モジュール等) の音色で演奏するときは、オフに設定します。本機は鳴りませんが、接続した MIDI 機器の音色で演奏されます。

また、本機を音源として使用する場合、たとえば本機をシーケンサーと接続し、シーケンサー側でエコーバック (シーケンサーが受信したデータを送り返す動作) を設定したとき、戻ってきたデータで二重に鳴るのを防ぐときも、オフに設定します。

1. グローバル・エディット・モードに入り、スクロール・スイッチでページ 11 のローカル・コントロール設定画面 (Local Control) を表示します。



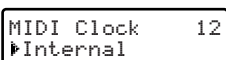
2. [+ /YES]、[- /NO] スイッチで、ローカル・コントロールのオン、オフを設定します。

- ⚡ 電源をオフにすると、設定はオンに戻ります。

MIDI クロック

MIDI クロックによる同期の設定をします。

1. グローバル・エディット・モードに入り、スクロール・スイッチでページ 12 の MIDI クロック設定画面 (MIDI Clock) を表示します。



2. [+ /YES]、[- /NO] スイッチで設定を選びます。

- note** 電源をオフにすると、"Internal" (内蔵クロック) に戻ります。

設定	MIDI クロックのソース
Internal	本機の内蔵クロックがソースになります。MIDI クロックは MIDI OUT 端子、USB 端子からも出力されます。
External MIDI	本機の MIDI IN 端子に接続した外部 MIDI 機器が、クロックのソースになります。 テンポ表示が "♪MID" に変わります。
External USB	本機の USB 端子に接続した外部 MIDI 機器が、クロックのソースになります。 テンポ表示が "♪USB" に変わります。

MIDI IN チャンネル

本機を外部 MIDI 機器から操作すると、16 パートのマルチティンバー音源として使うことができます。16 系統の MIDI チャンネルそれぞれに、異なる音色を選ぶことができます。このとき受けるデータと現在の音色とは関係なく、パネルで選んだ音色で演奏できます。

- note** MIDI データは、MIDI IN と USB の両方から同時に受信することができます。USB での MIDI の扱いの詳細については、41 ページ「USB で MIDI データを使う」を参照してください。

- note** 初期値はチャンネル 1、2、3... に対してトラック 1、2、3... になっています。

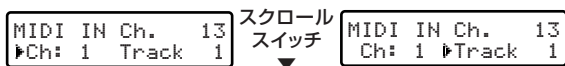
- ⚡ 電源をオフにすると、初期値に戻りますが、設定した値のままにしたいときは、保存作業 (35 ページ「グローバル・エディット・モードを終了する」) を行ってください。

1. グローバル・エディット・モードに入り、スクロール・スイッチでページ 13 の MIDI 入力チャンネルの設定画面 (MIDI IN Ch.) を表示します。
2. ディスプレイ上のカーソル (▶) が、チャンネル (Ch) にあることを確認します。

3. [+ /YES]、[- /NO] スイッチで、トラックを設定する MIDI チャンネルを設定します。

スイッチを押したままにすると、チャンネルが連続的に変化します。

4. スクロール・スイッチで、ディスプレイ上のカーソル (▶) をトラック (Track) に移動します。



5. [+ /YES]、[- /NO] スイッチで、チャンネルに対応させるトラックを設定します。

スイッチを押したままにすると、トラックが連続的に変化します。

6. 2. から 6. の操作を繰り返して、必要なチャンネルにトラックを割り当てます。

⚠ “Global” に設定すると、プログラム・チェンジは無視されます。また、この設定にすると、MIDI 入力を録音できるようになります (プログラムチェンジは除く)。

トラック	内容
Tr01 ~ 16	本機のトラック 1 ~ 16 に該当します。Tr10 はドラム・パターン音色に初期化されています。
Global	グローバル・トラックです。ノートやペダル・コントロール (ダンパー、ソステヌート、ソフト) データを MIDI IN で受信することにより、本機の鍵盤およびペダルで操作した時と同じ効果を生みます。

MIDI OUT チャンネル

標準の MIDI 仕様では、送受信用に 16 系統の独立したチャンネルが使えます。本機は 6 系統のチャンネルで、データを同時送信できます。データを送信するには、16 チャンネルの中からどのチャンネルで、どのトラックを送信したいかを設定する必要があります。

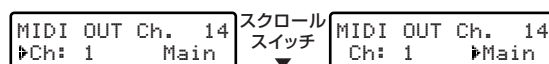
note MIDI データは、MIDI OUT と USB の両方から同時に送信することができます。USB での MIDI の扱いの詳細については、41 ページ「USB で MIDI データを使う」を参照してください。

note 初期値はチャンネル 1、2、3、4、5、10 に対して Main、Layer、Left、Part1、Part2、Drum が、そのほかは Off になっています。

⚠ 電源をオフにすると、初期値に戻りますが、設定した値のままにしたいときは、保存作業 (35 ページ「グローバル・エディット・モードを終了する」) を行ってください。

- グローバル・エディット・モードに入り、スクロール・スイッチでページ 14 の、MIDI 出力チャンネルの設定画面 (MIDI OUT Ch.) を表示します。
- ディスプレイ上のカーソル (▶) が、チャンネル (Ch) にあることを確認します。
- [+ /YES]、[- /NO] スイッチで、送信データを設定する MIDI チャンネルを設定します。
スイッチを押したままにすると、チャンネルが連続的に変化します。

4. スクロール・スイッチで、ディスプレイ上のカーソル (▶) をトラック (Track) に移動します。



- [+ /YES]、[- /NO] スイッチで、チャンネルに対応させる送信データを設定します。
スイッチを押したままにすると、送信データ名が連続的に変化します。
2. から 6. の操作を繰り返して、必要なチャンネルに送信データを割り当てます。

トラック	内容
Off	選択したチャンネルではデータは送信しません。これは本機の MIDI OUT 端子に、接続した他の MIDI 機器にデータを送らず、本機だけで演奏したい時に便利です。
Main	メイン音色
Layer	レイヤー音色 (レイヤー・モード時)。外部音源をレイヤーで演奏させるための、Main と同じノート・オン、オフを送信します。
Left	左手側の鍵盤のサウンド (スプリット・モード時)
Part 1, 2	レコーダーのパート1または2 (パートのミュートは無効です。)
Drum	ドラム (ドラム・パターン選択時)

MIDI フィルター

音色を選んだり、ダンパー・ペダルを踏んだり、レイヤー・モードで音量バランスを調節したり、あるいは、パネル上でその他の調整を行ったりすると、接続されている外部 MIDI 機器に MIDI メッセージが送信されます。また、本機 MIDI IN 端子に接続した外部 MIDI 機器から本機に MIDI メッセージを送信することで、音色、ダンパー・ペダル、音量調節、その他のデータのコントロールができます。

その際に、問題が生じたり、接続機器と内部コントロールで発生されたデータが混同したりするのを防ぐため、各コントロールの送受信をオフにすることができます。

また、たとえばプログラム・チェンジ・メッセージを外部 MIDI 機器に送信したときに、別の楽器で間違った音色が選ばれてしまうのを避けるために、MIDI データを送信しないようにできます。

MIDI メッセージを送受信するときは “Off” に、送受信しないときは、 “On” に設定します。

note 初期値は “SysEx” が “On”、その他が “Off” になっています。

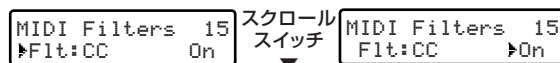
⚠ 電源をオフにすると、初期値に戻りますが、設定した値のままにしたいときは、保存作業 (35 ページ「グローバル・エディット・モードを終了する」) を行ってください。

- グローバル・エディット・モードに入り、スクロール・スイッチでページ 15 の MIDI フィルター設定画面 (MIDI Filters) を表示します。
- ディスプレイ上のカーソル (▶) が、フィルター (Flt) にあることを確認します。

3. [+ /YES]、[- /NO] スイッチで、データを送受信するメッセージのフィルターを設定します。

スイッチを押したままにすると、フィルターが連続的に変化します。

4. スクロール・スイッチで、ディスプレイ上のカーソル (▶) をオン、オフに移動します。



- [+ /YES]、[- /NO] スイッチで、フィルターのオン、オフを設定します。
3. から 6. の操作を繰り返して、必要なフィルターのオン、オフ設定をします。

フィルター	内容
CC	ペダル、モジュレーション、パンなどのコントロール・チェンジ・メッセージ
PC	音色を選んだ時に送信されるプログラム・チェンジ・メッセージ。コントロール・チェンジ #00、#32 (音色のバリエーションを選ぶときに使用するバンク・セレクト MSB/LSB) も含まれます。
PB	ピッチ・ベンド
SysEx	GM の初期設定を行うために受信される GM モード ON などの、システム・エクスクルーシブ・メッセージ

USB モード

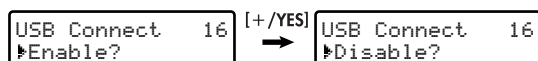
本機の内蔵メモリとコンピュータ間でデータのやりとりができます。このためには、データ転送用に USB 接続を有効にすることが必要です。対応 OS は Windows Me/2000 以降、または Mac OS9.0.4 以降になります。なお、Windows98 でご使用になる場合は、コルグ・ホームページ、またはお客様相談窓口でご確認ください。

▲ 本機をデータ転送用に USB モードに入る前に、必ずコンピュータ上の MIDI アプリケーションを終了してください。MIDI アプリケーションが動作していると、本機のデータを損傷する恐れがあります。

▲ USB モードを解除する（本機で “Disable?” を選ぶ、コンピュータでデバイスの取り外しを行う、USB ケーブルを外す）と、本機はリセットされるので、保存していないデータや設定は失われます。USB モードに入る前に、必ず保存していない音色やパフォーマンス、ソングやグローバル設定の保存作業を行ってください。

note このデータ転送が有効なときは、USB による MIDI の送受信はできません。

1. 本機とコンピュータを、USB ケーブルで接続します。
2. コンピュータから本機が、USB ディスクとして認識できるように USB モードに入ります。
3. グローバル・エディット・モードに入り、スクロール・スイッチでページ 16 の USB モード画面（USB Connect）を表示します。“Enable?”（有効にしますか？）が表示されます。
4. [+ /YES] スイッチを押して、接続を有効にします。“Disable?”（無効にしますか？）が表示されます。



この時点で、コンピュータのデスクトップまたはディスクのウィンドウに本機が、“KORG SSD” というドライブとして表示されます。

▲ USB モードでデータを転送している間に、[+ /YES] スイッチを押して USB モードから抜けたり、USB ケーブルの接続を外すと、本機のデータや、接続しているコンピュータに損傷を与える場合があります。

▲ USB モードのまま本機の電源をオフにしないでください。その場合、本機のデータや接続しているコンピュータに、損傷を与える場合があります。

5. これで、他の外部 USB ドライブと同じように、フォルダやファイルを移動することで、データのバックアップ、リストアができます。本機のデータは、“KORG SSD” 内の以下の 4 つのフォルダに入っています。それぞれのフォルダ内のファイル名の長さは、128 文字までです。
6. データ転送が完了したら、コンピュータのデスクトップから本機のドライブを取り出し / 削除します。USB 機器の取り出し / 削除の方法は、お使いのコンピュータの説明書をお読みください。OS が Windows 場合は、USB 機器の取り出しを行うと、本機のディスプレイに “Wait Please” が表示された後、自動的に初期（電源をオンにしたときの）画面に戻ります。OS が Mac 場合は、“KORG SSD” をゴミ箱にする（または取り出し）を行った後、[+ /YES] スイッチを押して接続を無効にすると、本機のディスプレイに “Wait Please” が表示された後、自動的に初期（電源をオンにしたときの）画面に戻ります。

フォルダ	内容
GLOBAL	グローバル設定
PERFORM	パフォーマンス設定
PRESET	サウンド・エディットで変更した内容
UserSong	本機で録音したソングや外部シーケンサーで作成したソング。このフォルダにスタンダード MIDI ファイル・フォーマットのソング（拡張子 .MID）をコピーすることができます。

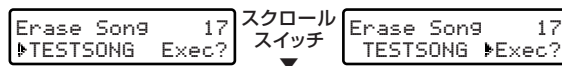
ユーザー・ソングの消去

ユーザー・ソング・アルバムに、保存されたソング・ファイルを消去します。

▲ 消去をすると、ソング・ファイルのデータはすべて消えてしまいます。

1. グローバル・エディット・モードに入り、スクロール・スイッチでページ 17 のソング消去画面（Erase Song）を表示します。
2. ディスプレイ上のカーソル（▶）が、ソング名にあることを確認します。
3. [+ /YES]、[- /NO] スイッチで、消去するソングを選びます。

4. スクロール・スイッチで、ディスプレイ上のカーソル（▶）を “Exec?” に移動します。



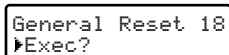
5. [+ /YES] スイッチを押して消去を開始します。
6. 画面に確認メッセージ “Are You Sure ?” が表示されます。消去をやめるときは、[- /NO] スイッチを押します。
7. [+ /YES] スイッチを押して消去を実行します。

オール・リセット

メモリ内のすべてのデータを、工場出荷時の初期値にリセットします。

▲ リセット操作により、パフォーマンス、レイヤー音色のバランス、保存していないユーザー・ソングなど、ユーザー・データはすべて消えてしまいます。リセットを行う前に、必要なデータは必ずバックアップ作業（39 ページ「USB モード」）をしてください。

1. グローバル・エディット・モードに入り、スクロール・スイッチでページ 18 のリセット設定画面（General Reset）を表示します。“Exec?”（実行しますか？）が表示されます。



2. [+ /YES] スイッチを押して、リセットを開始します。
3. 画面に確認メッセージ “Are You Sure ?” が表示されます。リセットをやめるときは、[- /NO] スイッチを押します。
4. もう一度 [+ /YES] スイッチを押して、リセットを実行します。
5. 画面に進行状態が % で表示され、作業が終わると電源オン時の画面に戻ります。
- ▲** リセット作業には 25 秒程度時間がかかります。作業（% や “Wait Please” 表示）中にスイッチ、ペダル、鍵盤に触れたり、電源をオフにしないでください。本機のデータや、内部に重大な損傷を与える場合があります。

MIDI（ミディ）とは？

MIDI (Musical Instrument Digital Interface) は、電子楽器やコンピュータの間で、演奏に関するさまざまな情報をやりとりするための世界共通の規格です。

MIDI でなにができるの？

MIDI を利用すると、本機から他の MIDI 機器をコントロールしたり、他の MIDI 機器から本機の音源を鳴らしたりすることができます。また、

シーケンサーや複数の MIDI 機器を組み合わせることで、複雑なアンサンブルを楽しむこともできます。

MIDI の接続

MIDI 情報をやりとりするときは、MIDI ケーブル（別売）を使います。このケーブルを、本機の MIDI 端子と情報をやりとりする外部 MIDI 機器の MIDI 端子に接続します。この MIDI 端子は 2 種類あります。

MIDI OUT

MIDI 情報を送信します。本機の鍵盤を弾いたときに出力される MIDI 情報で、外部 MIDI 機器の音を鳴らすなどのコントロールをすることができます。本機の MIDI OUT 端子と外部 MIDI 機器の MIDI IN 端子を MIDI ケーブルで接続します。

MIDI IN

MIDI 情報を受信します。外部 MIDI 機器（MIDI キーボードやシーケンサーなど）で、本機の音を鳴らすなどのコントロールをすることができます。本機の MIDI IN 端子と外部 MIDI 機器の MIDI OUT 端子を MIDI ケーブルで接続します。

MIDI の基本設定

電源をオンにしたとき（工場出荷時）は、本機の MIDI パラメータは下記の設定になっています。

パラメータ	設定	パラメータ	設定
送信チャンネル	1、2、3、4、5、10*	ローカル	オン
受信チャンネル	全て受信（1-16*）	オムニ	オフ

*受信チャンネル 10 には、ドラム・パターン音色が割り当てられています。

MIDI チャンネルの変更

MIDI には、データのやりとりが可能な MIDI チャンネル 1 ～ 16 があります。

電源をオンにしたとき（工場出荷時）は、送信チャンネルにはシングル・モード時は自動的に 1 が、レイヤー・モード時は 1 と 2 がスプリット・モード時は 1 と 3 が割り当てられます。このチャンネルは、38 ページ「MIDI OUT チャンネル」で変更できます。

note チャンネル 10 には工場出荷時に、ドラム・パターン音色が割り当てられています。

マルチティンバー音源として使う

本機は、内蔵音源を外部 MIDI 機器からコントロールして鳴らすことができます。16 パート・マルチティンバー音源として動作することができます。

1. 本機の MIDI IN 端子と、シーケンサーなどの MIDI OUT 端子を MIDI ケーブルで接続します。または USB ケーブルで、本機とコンピューターを接続します。
2. 接続したシーケンサーなどから MIDI データを送信します。接続するシーケンサーなどからの送信方法は、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

演奏データと一緒にプログラム・チェンジ・メッセージを受信すると、そのプログラム・ナンバーに対応する本機の音色で演奏されます。ただし、MIDI フィルターのプログラム・チェンジの設定が、「Off」になっているときに限ります。

プログラム・チェンジ

本機から MIDI プログラム・チェンジ・ナンバーを送信し、接続した MIDI 機器のプログラムを切り替えることができます。また、接続した MIDI 機器からの MIDI プログラム・チェンジ・ナンバーを受信し、本機の鍵盤以外のプログラムを切り替えることができます。プログラム・チェンジ・ナンバーと音色の対応については、44 ページ「音色、プログラム・チェンジ・ナンバー対応表」を参照してください。

プログラム・チェンジの送信

本機で [SOUND] スイッチと [VARIATION] スイッチで音色を選ぶと、対応する MIDI プログラム・チェンジ・ナンバーを送信します。

プログラム・チェンジの受信

本機で MIDI プログラム・チェンジ・ナンバーを受信すると、対応する音色へ切り替わります。

🔊 MIDI IN チャンネルの設定が、「Global」のトラック（鍵盤の音）はプログラム・チェンジの受信はできません。

🔊 プログラム・チェンジ・ナンバーが、対応表に無い番号を受信すると音は出なくなります。

プログラム・チェンジのイネーブル/キャンセル

本機の工場出荷時は、プログラム・チェンジの情報を送受信する設定になっています。設定の変更方法は、38 ページ「MIDI フィルター」をご覧ください。

🔊 電源をオフにすると、送受信する (Off) の設定に戻ります。

コントロール・チェンジ

本機のダンパー・ペダルなどの情報を、接続した外部 MIDI 機器に送信してコントロールしたり、外部 MIDI 機器からこれらの情報を受信して本機をコントロールします。

コントロール・チェンジのイネーブル / キャンセル

本機の工場出荷時は、コントロール・チェンジの情報を送受信する設定になっています。設定の変更方法は、38 ページ「MIDI フィルター」をご覧ください。

 電源をオフにすると、送受信する (Off) の設定に戻ります。

USB で MIDI データを使う

本機では MIDI を利用するときに、MIDI 端子以外に USB 端子を使ってもコンピューターと接続できます。このため、MIDI インターフェース機器を用いなくても本機とコンピューターを接続し、MIDI 音源として使ったり、入力用キーボードとして使うことができます。

コンピューターとの接続

下記の「KORG USB-MIDI Driver 動作環境」の条件を満たすコンピューターと本機を USB で接続するときは、KORG USB-MIDI Driver を使用してください。

KORG USB-MIDI Driver 動作環境

Windows:

対応コンピューター:
Microsoft Windows XP の動作環境を満たす USB ポート搭載のコンピューター
対応 OS:
Microsoft Windows XP Home Edition/Professional/x64 Edition
(x64 Edition 用ドライバはベータ版です。)

Macintosh:

対応コンピューター:
Mac OS X の動作環境を満たす USB ポート搭載の Apple Macintosh
対応 OS:
Mac OS X 10.3 以降
上記の環境を満たしていても、お客様がご使用になるコンピューターによっては動作しないこともあります。あらかじめご了承ください。


使用前のご注意

本製品のソフトウェアの著作権は、すべて (株) コルグが所有しています。
本製品のソフトウェアの使用許諾契約が別途に付属されています。ソフトウェアをインストールする前に、必ずこの使用許諾契約をお読みください。ソフトウェアをインストールすると、この契約にご同意いただいたこととなります。

Windows XP:KORG USB-MIDI ドライバのインストール

KORG USB-MIDI Driver Tools をインストールしてから、本機とコンピューターを USB ケーブルで接続します。

1. 付属 CD-ROM をコンピューターの CD-ROM ドライブに挿入します。
通常、「KORG Digital Piano Application Installer」が自動的に起動します。
コンピューターの設定などで自動的に起動しない場合は、CD-ROM 中の「KorgSetup.exe」をダブルクリックします。
2. 表示に従ってインストールをしてください。

 同時にインストールされる KORG MIDI Data Filer は、本機では使用できません。

3. 本機の電源を入れてコンピューターと初めて USB ケーブルで接続すると、自動的に Windows 標準の USB MIDI ドライバーがインストールされます。

ご使用になる USB ポートに対して、KORG USB-MIDI Driver for Windows XP をインストールし直します。

KORG USB-MIDI Driver のインストール

1. コンピューターへ、KORG USB-MIDI Driver Tools のインストールを済ませておいてください。
2. コンピューターを起動し、本機の電源をオンにしてから USB ケーブルで接続します。

note ドライバーのインストールは、USB のポートごとに必要です。KORG USB-MIDI Driver for Windows XP を、インストールしたときと異なる USB ポートに、本機を接続して使用する場合は、同様の手順で新たに、KORG USB-MIDI Driver をインストールし直してください。

3. タスクバーの [スタート] → [すべてのプログラム] → [KORG] → [KORG USB-MIDI Driver Tools] → [インストール・マニュアル] を選びます。
4. 表示されたインストール・マニュアルに従って、KORG USB-MIDI Driver のインストールを行ってください。

本機とドライバのポートについて

KEYBOARD ポート

本機の MIDI メッセージ (鍵盤やコントローラーのデータ) を、コンピューターのアプリケーションで受信するときに使用します。

SOUND ポート

コンピューターのアプリケーションの MIDI メッセージを、本機の内部音源で発音させるときに使用します。

Mac OS X:KORG USB-MIDI ドライバのインストール方法

note 「KORG USB-MIDI ドライバ(動作環境)」の条件を満たすコンピューターと、本機を USB ケーブルで接続するときは、KORG USB-MIDI Driver を使用してください。

KORG USB-MIDI Driver のインストール

1. 付属 CD-ROM を、コンピューターの CD-ROM ドライブに挿入します。
2. CD-ROM 中の、「KORG USB-MIDI Driver」フォルダ内にある、「KORG USB-MIDI Driver.pkg」をダブルクリックして、インストーラーを起動し、表示に従ってインストールをしてください。

本機とドライバのポートについて

KEYBOARD ポート

本機の MIDI メッセージ (鍵盤やコントローラーのデータ) を、コンピューターのアプリケーションで受信するときに使用します。

SOUND ポート

コンピューターのアプリケーションの MIDI メッセージを、本機の内部音源で発音させるときに使用します。

付録

音色一覧表

ボイス数は、音色が使用しているオシレーターの数です（47 ページ「最大発音数について」参照）。

スイッチ	バリエーション	表示	名前	ボイス数
[PIANO 1]	1	GrandPiano	グランド・ピアノ *	4
	2	BriteGrand	ブライト・グランド・ピアノ *	4
	3	Rock Piano	ロック・ピアノ	2
	4	Piano&Str.	ピアノ&ストリングス	4
[PIANO 2]	1	Honky-Tonk	ホンキートンク・ピアノ	2
	2	MelloGrand	メロー・グランド・ピアノ *	4
	3	Piano&Pad	ピアノ&パッド	4
	4	Elec.Grand	エレクトリック・グランド・ピアノ	2
	5	M1 Piano	M1 ピアノ	2
[E.PIANO 1]	1	Tine EP 1	タイン・エレクトリック・ピアノ 1	4
	2	SuitTineEP	スーツ・タイン・エレピ	2
	3	DynoTineEP	ダイノ・タイン・エレピ	2
	4	Tine EP 2	タイン・エレクトリック・ピアノ 2	2
[E.PIANO 2]	1	Dig. EP 1	デジタル・エレクトリック・ピアノ 1	2
	2	Dig. EP 2	デジタル・エレクトリック・ピアノ 2	2
	3	Reed EP	リード・エレクトリック・ピアノ	1
	4	TremReedEP	トレモロ・リード・エレピ	1
[HARPSI/CLAV]	1	Harpsi 8'	8 フィート・ハーブシコード	3
	2	Harpsi 16'	16 フィート・ハーブシコード	4
	3	Clav	クラビコード	2
	4	Synth Clav	シンセ・クラビコード	3
[VIBES/GUITAR]	1	Vibes 1	ビブラホン 1	2
	2	Vibes 2	ビブラホン 2	2
	3	Nylon Gtr.	ナイロン・ギター	2
[ORGAN 1]	1	Jazz Organ	ジャズ・オルガン	4
	2	Perc.Org.1	パーカッシブ・オルガン 1	3
	3	Perc.Org.2	パーカッシブ・オルガン 2	3
[ORGAN 2]	1	Church Org	チャーチ・オルガン	4
	2	Pipe Flute	パイプ・フルート・オルガン	3
	3	Pipe Tutti	フルパイプ・オルガン	2
[STRINGS/CHOIR]	1	Strings	ストリングス	3
	2	Slow Str.	スロー・ストリングス	2
	3	String Pad	ストリングス・パッド	2
	4	Choir	クワイヤー	2
	5	ScatVoices	スキヤット・ボイス	2
	6	Vocal Pad	ボーカル・パッド	2
[BASS]	1	Ac. Bass	アコースティック・ベース	2
	2	El. Bass	エレクトリック・ベース	2
	3	Fretless B	フレットレス・ベース	1
	4	Bass&Ride	ベース&シンバル	3

* ピアノ・エクスぺリエンス（5 ページ）を使った音色です。レイヤー、スプリットモードのときに、これらの音色を使うと自動的にピアノ・エクスぺリエンス無しの音色になります。ピアノ・エクスぺリエンス無しの音色は、パフォーマンス・モード（20 ページ）の音色に含まれています（44 ページ「パフォーマンス・リスト」参照）。

ソング・リスト

SongBook (名曲集 1 : 楽譜附属)

No.	曲名	作者
1	プレリュード (平均律第 1 巻 第 1 番より)	J.S. バッハ
2	インベンション 第 1 番	J.S. バッハ
3	主よ、人の望みの喜びよ	J.S. バッハ
4	ソナタ K.545 第 1 楽章	W.A. モーツァルト
5	トルコ行進曲 (ソナタ K.331 より)	W.A. モーツァルト
6	エリーゼのために	L.v. ベートーヴェン
7	「悲愴」第 2 楽章	L.v. ベートーヴェン
8	乙女の祈り	T. バダジェフスカ
9	アラベスク Op.100-2 (25 練習曲より)	F. ブルクミュラー
10	ステリアの女 Op.100-14 (25 練習曲より)	F. ブルクミュラー
11	貴婦人の乗馬 Op.100-25 (25 練習曲より)	F. ブルクミュラー
12	春の歌 Op.62-6 (無言歌集第 6 巻より)	F. メンデルスゾーン
13	トロイメライ Op.15-7	R. シューマン
14	荒野のぼら	G. ランゲ
15	紡ぎ歌	A. エルメンライヒ
16	人形の夢と目覚め	T. オースティン
17	亜麻色の髪の乙女	C. ドビュッシー
18	アラベスク 第 1 番	C. ドビュッシー
19	プレリュード (ベルガマスク組曲より)	C. ドビュッシー
20	ゴリウオーグのケーキウォーク	C. ドビュッシー
21	月の光	C. ドビュッシー
22	ワルツ 第 6 番 変ニ長調 「小犬」 Op.64-1	F. ショパン
23	ワルツ 第 7 番 ホ短調 Op.64-2	F. ショパン
24	ノクターン 第 2 番 Op.9-2	F. ショパン
25	マズルカ第 5 番 Op.7-1	F. ショパン
26	幻想即興曲 Op.66	F. ショパン
27	別れの曲 Op.10-3	F. ショパン
28	黒鍵のエチュード	F. ショパン
29	ブロムナード (展覧会の絵より)	M.P. ムソルグスキー
30	ジムノペディ第 1 番	E. サティ
31	ジュ・トゥ・ヴ	E. サティ
32	愛の挨拶	E. エルガー

BeyerA/B (全訳バイエルピアノ教則本)

No.	テーマ	備考
1	theme, var.1 ~ 12	L c h に先生のパート、 R c h に生徒のパート
2	theme, var.1 ~ 8	L c h に生徒のパート、 R c h に先生のパート
3 106	生徒のパート (両手)	

Classics (名曲集 2)

No.	曲名	作者
1	楽しき農夫	R. シューマン
2	すみれ	R. ストリーボック
3	メヌエット ト長調	J.S. バッハ
4	ガボット	J.S. バッハ
5	ソナチネ作品 op.20-1 第 1 楽章	F. クーラウ
6	ソナチネ作品 op.55-1 第 1 楽章	F. クーラウ
7	ソナチネ作品 op.36-1 第 1 楽章	M. クレメンティ
8	ピアノソナタ第 20 番 ト長調 第 1 楽章	L.v. ベートーヴェン
9	月光 (第 1 楽章)	L.v. ベートーヴェン
10	ト調のメヌエット	L.v. ベートーヴェン
11	アンダンテ	J. ハイドン
12	楽興の時	F.P. シューベルト
13	狩人の歌 Op.19-3	F. メンデルスゾーン
14	異国から (子供の情景より)	R. シューマン
15	ツェルニー 30 番練習曲 第 1 番	C. ツェルニー
16	ウィンナーマーチ	C. ツェルニー
17	新しい人形	P.I. チャイコフスキー
18	ソナタ K.331 第 1 楽章のテーマ	W.A. モーツァルト
19	アニトラの踊り	E.H. グリーグ
20	花の歌	G. ランゲ
21	タンゴ (スペインより)	I. アルベニス
22	愛の夢 第 3 番	F. リスト

Burgmller (ブルクミュラー 25 の練習曲)

No.	曲名	作者
1	すなおな心	J.F. ブルクミュラー
2	アラベスク	J.F. ブルクミュラー
3	パストラル (牧歌)	J.F. ブルクミュラー
4	小さなつどい	J.F. ブルクミュラー
5	無邪気	J.F. ブルクミュラー
6	進歩	J.F. ブルクミュラー
7	清らかな小川	J.F. ブルクミュラー
8	優しく美しく	J.F. ブルクミュラー
9	狩 (かり)	J.F. ブルクミュラー
10	やさしい花	J.F. ブルクミュラー
11	せきれい	J.F. ブルクミュラー
12	別れ	J.F. ブルクミュラー
13	コンソレーション (なぐさめ)	J.F. ブルクミュラー
14	シュタイヤー舞曲 (アルプス地方の踊り)	J.F. ブルクミュラー
15	バラード	J.F. ブルクミュラー
16	ちょっとした悲しみ	J.F. ブルクミュラー
17	おしゃべりさん	J.F. ブルクミュラー
18	気がかり	J.F. ブルクミュラー
19	アヴェ・マリア	J.F. ブルクミュラー
20	タランテラ	J.F. ブルクミュラー
21	天使の合唱	J.F. ブルクミュラー
22	バルカローラ (舟歌)	J.F. ブルクミュラー
23	再会	J.F. ブルクミュラー
24	つばめ	J.F. ブルクミュラー
25	乗馬	J.F. ブルクミュラー

パフォーマンス・リスト

No.	パフォーマンス名	内容 (M: メイン音色、L: レイヤー / スプリット音色)	No.	パフォーマンス名	内容 (M: メイン音色、L: レイヤー / スプリット音色)
01	Split&Layr	スプリット F#3 M: Piano&Str. L: Ac.Bass	16	Scat&Bass	スプリット G3 M: ScatVoices L: Bass&Ride
02	Grand&Ride	スプリット F#3 M: GrandPiano L: Bass&Ride	17	Vibes&Bass	スプリット G3 M: Vibes 1 L: Bass&Ride
03	Grand&Ebas	スプリット F#3 M: GrandPiano L: El.Bass	18	Bass&Guitr	スプリット D#3 M: Nylon Gtr. L: Ac.Bass
04	PnoStrings	レイヤー M: GrandPiano L: String Pad	19	Org&Bass 1	スプリット F#3 M: Perc.Org.1 L: Ac.Bass
05	EGrand Pad	レイヤー M: Elec.Grand L: String Pad	20	Org&Bass 2	スプリット F#3 M: Jazz Organ L: Ac.Bass
06	Piano Pad	レイヤー M: Piano&Pad L: String Pad	21	Baroque	レイヤー M: Harpsi 8' L: Strings
07	Pno Choirs	レイヤー M: GrandPiano L: Vocal Pad	22	Harpsi-Ch	レイヤー M: Harpsi 8' L: Choir
08	Pno Guitar	レイヤー M: Piano&Str. L: Nylon Gtr.	23	Harpsi-Org	レイヤー M: Harpsi 8' L: Pipe Tutti
09	Piano BX3	レイヤー M: BriteGrand L: Perc.Org.2	24	Church Mix	レイヤー M: Church Org L: Choir
10	DualManual	スプリット C4 M: Perc.Org.2 L: Jazz Organ	25	Guitar Pad	レイヤー M: Nylon Gtr. L: Slow Str.
11	Digital EP	レイヤー M: GrandPiano L: Dig. EP 1	26	GrandPiano	グランド・ピアノの2ボイス版(ピアノ・エクスペリエンスなし)
12	PaddedTine	レイヤー M: Tine EP 1 L: Vocal Pad	27	BriteGrand	ブライト・グランド・ピアノの2ボイス版(ピアノ・エクスペリエンスなし)
13	R&B EPno	レイヤー M: DynoTineEP L:TremReedEP	28	MelloGrand	メロー・グランド・ピアノの2ボイス版(ピアノ・エクスペリエンスなし)
14	EP Choir	レイヤー M: Tine EP 1 L: Vocal Pad	29	2 Pianists	スプリット C4 同じ音域に設定したピアノ (連弾用)
15	EP&NoFret	スプリット F#3 M: Tine EP 2 L: Fretless B	30	PnoEXpDEMO	グランド・ピアノのピアノ・エクスペリエンスの強調版

音色、プログラム・チェンジ・ナンバー対応表

※ CC 0：音色のバンクセレクト (MSB) はすべて 121

音色スイッチ	バリエーション	表示	Bank#	Prog#	音色スイッチ	バリエーション	表示	Bank#	Prog#
[PIANO 1]	1	GrandPiano	0	0	[VIBES/GUITAR]	1	Vibes 1	0	11
	2	BritePiano	0	1		2	Vibes 2	1	11
	3	Rock Piano	1	1		3	Nylon Gtr.	0	24
	4	Piano&Str.	2	0	[ORGAN 1]	1	Jazz Organ	0	16
	パフォーマンス 時選択可能	PnoExpDEMO	6	0		2	Perc.Org.1	0	17
[PIANO 2]	1	Honky-Tonk	0	3		3	Perc.Org.2	1	17
	2	MelloGrand	1	0	[ORGAN 2]	1	Church Org	0	19
	3	Piano&Pad	3	0		2	Pipe Flute	0	20
	4	Elec.Grand	0	2		3	Pipe Tutti	1	19
	5	M1 Piano	1	2	[STRINGS/CHOIR]	1	Strings	0	48
[E.PIANO 1]	1	Tine EP 1	0	4		2	Slow Str.	0	49
	2	SuitTineEP	1	4		3	String Pad	0	50
	3	DynoTineEP	2	4		4	Choir	0	52
	4	Tine EP 2	4	4		5	ScatVoices	0	53
[E.PIANO 2]	1	Dig. EP 1	0	5		6	Vocal Pad	0	54
	2	Dig. EP 2	1	5	[BASS]	1	Ac. Bass	0	32
	3	Reed EP	3	4		2	El. Bass	0	33
	4	TremReedEP	5	4		3	Fretless B	0	35
[HARPSI/CLAV]	1	Harpsi 8'	0	6		4	Bass&Ride	1	32
	2	Harpsi 16'	1	6					
	3	Clav	0	7					
	4	Synth Clav	1	7					

DRUM KITS (MIDI で使用します。パネルのスイッチで操作できません)			
Kit 名	Bank#(MSB)	Bank#(LSB)	Prog#
Standard Kit	120	0	0
Jazz Kit	120	0	32
Brush Kit	120	0	40

モード・パラメーター

* がついたページの設定は保存できません。[]は工場出荷時の初期値です。

メトロノーム・モード

ページ、ページ名		パラメーター 1	パラメーター 2
1	拍子の設定 Metro TS/Tempo (p.15)	1/2...16/2, 1/4...16/4, 1/8...16/8, 8 Beat 1...March [4/4]	
2	音量とリバーブ Metro Lev/Rev (p.16)	0...127 [100]	0...127 [64]
3	アクセント音の設定 Metro Accent (p.16)	Off, Marcato, Bell [Off]	
4	設定の保存 Metro Settings (p.17)	Save?	

ソング・エディット・モード

ページ、ページ名		パラメーター 1	パラメーター 2
1	サイクル・プレイ Cycle Play (p.27)	On, Off [Off]	
2	トラック・データの消去 Erase Track (p.27)	All, Tr01(P2), Tr02(P1), Tr03...Tr09, Tr10(Dr), Tr11...Tr16 [All]	Exec?
3	ソングの終端小節の削除 Cut Measures (p.27)	1...998(最大) [1]	Exec?
4	クオンタイズ Quantize (p.28)	1/32, 1/24, 1/16a...1/16f, 1/12, 1/8a...1/8f, 1/4 [1/32]	Exec?
5	トランスポーズ Transepose (p.28)	-12...+00...+12 [+00]	Exec?
6	ソング・データの削除 Delete Song (p.28)	Exec?	
7	ソングの保存 Save Song (p.28)	0...9, A...Z, a...z, 記号	Save?

サウンド・エディット・モード

工場出荷時の初期値は音色ごとに異なります。

ページ、ページ名		パラメーター 1	パラメーター 2
1	音量の設定 Volume (p.30)	メイン音色 0...127	レイヤー / スプリット音色 0...127
2	パン (定位) の設定 Pan (p.30)	メイン音色 L64...L01, C00, R01...R63	レイヤー / スプリット音色 L64...L01, C00, R01...R63
3	リバーブ・タイプ Reverb Type (p.30)	Hall 1, Hall 2, Hall 3, Wet Plate, Dry Plate, Room 1, Room 2, BrightRoom	On, Off
4	リバーブ・センド Reverb Send (p.31)	メイン音色 0...127	レイヤー / スプリット音色 0...127
5	コーラス、モジュレーション・タイプ Chorus Type (p.31)	Chorus, Harm.Chor., Chours Dly, Ensemble, Flanger, Tremolo	On, Off
6	コーラス、モジュレーション・センド Chorus Send (p.31)	メイン音色 0...127	レイヤー / スプリット音色 ← (左欄と同じ)
7	インサート・エフェクト IFX M/L Type (p.32)	メイン音色 Off, LoGain, HiGain, HLGain, MdGain, Echo 1, Echo 2, Echo 3, Dly4th, Dly3/4, Dly8th, Pan, Trem., Phaser, Rotary, AmpSim, Comp., Limit., Excit., Wah, PhaTrm, AmpTrm, CmpAmp, OD - Wah, WahAmp	レイヤー / スプリット音色 ← (左欄と同じ)
8	インサート・エフェクト・バランス IFX Wet/Dry (p.32)	メイン音色 Dry, D001...D50, W051... W099, Wet	レイヤー / スプリット音色 ← (左欄と同じ)
9	音域の設定 Octave (p.33)	メイン音色 -04...+00...+04	レイヤー / スプリット音色 ← (左欄と同じ)
10	音程 (ピッチ) の設定 Fine Tune (p.33)	メイン音色 -99...+00...+99 cent	レイヤー / スプリット音色 ← (左欄と同じ)
11	ペダル 1 の設定 Pedal 1 (p.33)	メイン音色 Off, Damper, Sost., Soft, Glide, Rotary	レイヤー / スプリット音色 ← (左欄と同じ)
12	ペダル 2 の設定 Pedal 2 (p.33)	メイン音色 Off, Damper, Sost., Soft, Glide, Rotary	レイヤー / スプリット音色 ← (左欄と同じ)
13	ペダル 3 の設定 Pedal 3 (p.33)	メイン音色 Off, Damper, Sost., Soft, Glide, Rotary	レイヤー / スプリット音色 ← (左欄と同じ)
14	音律の設定 SubScale Type (p.34)	Equal Temp., Majo Pure, Minor Pure, Arabic, Pythagorean, Werkmeister, Kirnberger, Slendro, Pelog, Stretched	
15	音律のオン、オフ SubScale Sw. (p.34)	メイン音色 On, Off	レイヤー / スプリット音色 On, Off
16	音色設定のリセット Reset Snd/prf (p.34)	Exec?	

グローバル・エディット・モード

ページ、ページ名		パラメーター 1	パラメーター 2
1	鍵盤タッチ・コントロール TouchSens. (p.35)	Fixed, Soft 1, Soft 2, Soft 3, Medium 1, Medium 2, Hard 1, Hard 2, Hard 3 [Medium 2]	
2	スピーカのオン、オフ *Speakers (p.35)	On, Off [On]	
3	マスター・チューニング Master Tune (p.35)	415.0...440.0...465.0Hz [440.0]	
4	ブリリアンス設定 Brilliance (p.35)	Very Mellow, Mellow, Normal, Bright, Very Bright [Normal]	

ページ、ページ名		パラメーター 1	パラメーター 2
5	スプリット・ポイント Split Point (p.36)	C-1...G9 [F#3]	
6	ペダル 1 のグローバル設定 Pedal 1 Glob. (p.36)	Sound, Fill In, Quater Tone, Transpose Up, Transpose Down, Play/Pause, Stop, Pedal Punch [Sound]	
7	ペダル 2 のグローバル設定 Pedal 2 Glob. (p.36)	Sound, Fill In, Quater Tone, Transpose Up, Transpose Down, Play/Pause, Stop, Pedal Punch [Sound]	
8	ペダル 3 のグローバル設定 Pedal 3 Glob. (p.36)	Sound, Fill In, Quater Tone, Transpose Up, Transpose Down, Play/Pause, Stop, Pedal Punch [Sound]	
9	ファスト・プレイ *Fast Play (p.36)	On, Off [Off]	
10	パート・ミュート・レベル Mute Level (p.37)	0...90 [30]	
11	MIDI ローカル・コントロール * Local Control (p.37)	On, Off [On]	
12	MIDI クロック *MIDI Clock (p.37)	Internal, External MIDI, External USB [Internal]	
13	MIDI IN チャンネル MIDI IN Ch. (p.37)	チャンネル：1...16	トラック：Off, Track 1...Track 16, Global
14	MIDI OUT チャンネル MIDI OUT Ch. (p.38)	チャンネル：1...16	トラック：Off, Main, Layer, Left, Part 1, Part 2, Drum
15	MIDI フィルター MIDI Filters (p.38)	CC, PC, PB, SysEx	On, Off
16	USB 接続 *USB Connect (p.39)	Enable?, Disable?	
17	ユーザー・ソングの消去 Erase Song (p.39)	消去するソングの選択	Exec?
16	オール・リセット General Reset (p.39)	Exec?	

各種メッセージ

General Reset/ nn%

設定を初期値（工場出荷時）に戻す作業の進み具合を%表示します。この表示が出ているときに電源を切ると、本機に重大な損傷を与える場合があります。

General Reset/ Wait Please

すべての設定を初期値（工場出荷時）に戻してあるので、しばらくお待ち下さい。この表示が出ているときに電源を切ると、本機に重大な損傷を与える場合があります。

Globals Modified/Save

エディットしたグローバル設定が保存されていません。保存するときは [+ /YES] スイッチを、保存しないときは [- /NO] スイッチを押します（35 ページ「グローバル・エディット・モードを終了する」）。

Loading Song/ Error

ソング・ファイルが長すぎます。または、互換性のないファイル形式です。

Maximum song length reached

999 小節を超えたので、録音を自動的に止めました。999 小節迄の録音は残っています。[EXIT] スイッチを押してメッセージを消してください。

Memory Full

ユーザー・ソング・アルバムの変更に十分な領域がありません。不要なソングを消去するか、ソング・ファイルをコンピューターにバックアップをとるなどの作業を行って、保存領域を空けてください。

New OS Found/Update?

システムのバージョンアップ・ファイルがあります。バージョンアップするときは [+ /YES] スイッチを、しないときは [- /NO] スイッチを押します。

OS Updating/ nn%

システムのバージョンアップ作業を行っています。この表示が出ているときに電源を切ると、本機に重大な損傷を与える場合があります。

OS Updating/ OS Updated

システムのバージョンアップが終わりました。[EXIT] スイッチを押してプレイ・モードに戻ります。

OS Updating/ OS Update Error

システムのバージョンアップに失敗しました。[EXIT] スイッチを押して、もう一度バージョンアップを行ってください。それでも、このメッセージが表示されるときはお客様相談窓口にお問い合わせください。

Out of Memory

45000 ノートを超えたので、録音を自動的に止めました。45000 ノート迄の録音は残っています。[EXIT] スイッチを押してメッセージを消してください。

Perf. Modified/ Save

エディットしたパフォーマンスが保存されていません。保存するときは [+ /YES] スイッチを、保存しないときは [- /NO] スイッチを押します（29 ページ「パフォーマンスの保存」）。

Record Mode/ Not Allowed

録音できるのは、ユーザー・ソング・アルバムが選ばれているときだけです。そのほかのアルバムが選ばれているときは録音できません（23 ページ「ステップ 1：録音モードに入る」）。

Save Global/ Failure

グローバル設定の保存に失敗しました。本機の故障が考えられます。お客様相談窓口にお問い合わせください。

Save Preset/ Failure

音色、パフォーマンス・エディットの保存に失敗しました。本機の故障が考えられます。お客様相談窓口にお問い合わせください。

Save Midi/ Failure

MIDI 設定の保存に失敗しました。本機の故障が考えられます。お客様相談窓口にお問い合わせください。

Song Exists / Execute

おなじ名前のソングが存在します。[+ /YES] スイッチを押すと、上書きされます。[- /NO] または [EXIT] スイッチを押すと保存がキャンセルされ、ソング名の変更ページに戻ります。

Song Modified/ Save?

録音、エディットしたソングが保存されていません。保存するときは [+ /YES] スイッチを、保存しないときは [- /NO] スイッチを押します（26 ページ「ソングの保存」）。

Sound Modified/Save?

エディットした音色が保存されていません。保存するときは [+ /YES] スイッチを、保存しないときは [- /NO] スイッチを押します（29 ページ「音色/パフォーマンスの保存」）。

USB Working/ Wait please

USB デバイスとして認識作業中です。この表示が出ているときに、電源を切ったり、USB ケーブルを抜くとコンピューターや本機に重大な損傷を与える場合があります。

Warning:

本機になんらかのトラブルが発生しました。電源を切らないで、次のメッセージが表示されるのを待ってください。この表示が出ているときに、電源を切ると、本機に重大な損傷を与える場合があります。

Write Protect

コンピューターで書き込み禁止の設定がされているソングです。本機で名前を変更して、新たなソングとして保存したものはエディットできるようになります。

故障かな？とお思いになる前に

ご使用中に問題が起こった場合は次の事項を確認してください。それでも本製品が正しく動作しない場合は、コルグ・サービス・センターへお問い合わせください。

症状	対策
電源が入らない。	電源コードや AC アダプターが正しく本機とコンセントに正しく接続されていることを確認してください。
音が出ない。	本機のボリュームが 0 になっていないか確認してください。 0 になっていたら、適切なレベルまでボリュームをあげてください。 MIDI のローカル・コントロールが、オフになっていないか確認してください。 ローカル・コントロールがオフならば、オンにしてください。 ヘッドホン端子にプラグが接続されている場合は、スピーカーから音が出ません。 ヘッドホンのプラグを端子から抜いてください。
音が途切れる。	最大同時発音数を越えています。次項の「最大発音数について」をごらんください。
特定の音域でピアノ音色の音程、音質がおかしい。	ピアノ音色では、ピアノ本体の音をできるかぎり忠実に再現しようとしています。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音程や音質が異質に感じる場合がありますが、本機の不良ではありません。
レイヤー時の音質がシングル時と異なる。	各音色はシングル・モードでの使用を前提に音色を最適化しています。そのため、レイヤー・モードにしたときに、バランスよく聞こえるように音質を自動的に微調整する音色があります。
接続した MIDI 機器が送信した MIDI データに応答しない。	MIDI ケーブルがすべて正しく接続されていることを確認してください。MIDI 機器と同じチャンネルで、本機が MIDI データを受信していることを確認してください。

最大発音数について

本機は前に鳴っている音を消して、後で押さえた音を優先的にならす仕組みになっているため、最大同時発音数を越えると音が切れてしまいます。本機の音色の中には 1 つの音色でも 2 つ以上のオシレーター（音源回路の 1 音分：ボイス）から、構成されている音色もあります。オシレーター（ボイス）が 1 つから構成されている音色は最大同時発音数が 62 音です。オシレーター（ボイス）が 2 つから構成されている音色は最大同時発音数が 31 音です。
レイヤーにして 2 つの音色を鳴らすとき、ダンパー・ペダルを使用するときなどは、最大同時発音数を考えて音色を上手に選んでください。

本機のシステムのバージョンの確認方法

- [EDIT] スイッチを長押ししてグローバル・エディット・モードに入ります。
- スクロール・スイッチ [▲] と [+ /YES] スイッチを同時に押します。システム・バージョン確認画面が表示されます。
- 確認が終わったら、[EXIT] スイッチを押して、もとの画面に戻ります。

仕様

鍵盤	88 鍵（A0 ～ C8）、RH3（リアル・ウェイテッド・ハンマー・アクション 3）鍵盤	
タッチ・コントロール	8 種類 + 固定	
ピッチ	トランスポーズ、ファイン・チューニング	
音律	10 種類 + クォーター・トーン	
音源	ステレオ PCM 音源	
同時発音数	62（最大）	
音色	40	
演奏モード	シングル、レイヤー、スプリット、パフォーマン（3 × 10）	
エフェクト	リバーブ 8 タイプ、コーラス 6 タイプ、プリリアンス 5 タイプ、インサート・エフェクト 24 タイプ	
レコーダー	2 パート、1 曲最大 45000 ノート、録音、再生 / 一時停止、停止、パート 1 オン、オフ、パート 2 オン、オフ	
デモ・ソング	205（20 音色デモ・ソング + 185 ピアノ・ソング）	
メトロノーム	テンポ、拍子、アクセント、音量、ドラム・パターン	
ペダル	ダンパー *、ソステヌート、ソフト *（* 印はハーフ・ペダル対応）	
接続端子	OUTPUT（L/MONO、R）、INPUT（L/MONO、R）、MIDI（IN、OUT）、ヘッドホン × 2、USB	
ディスプレイ	16 文字 × 2 バックライト付き	
アンプ出力	C-720 ウーハー用 35Watt × 2、ツイーター用 12Watt × 2	C-520 35Watt × 2
スピーカー	C-720 16cm × 2 ウーハー、2.5cm × 2 ドーム・ツイーター	C-520 13cm × 2 ウーハー、2.5cm × 2 ツイーター
電源	C-720 AC100V 50/60Hz 63W	C-520 DC 24V（付属 AC アダプター）
外形寸法（譜面立て伏せ状態）	C-720 1396 × 462 × 869 mm（W × D × H）	C-520 1421 × 470 × 900 mm（W × D × H）
重さ	C-720 83kg（スタンド込み）	C-520 53kg（スタンド込み）
付属品	C-720 用電源コード / C-520 用 AC アダプター、ヘッドホン、高低自在イス、専用スタンド、楽譜集、CD-ROM	

仕様および外装は改良のため予告なく変更することがあります。
Sound Processed with INFINITYTM

C-720 スタンドの組み立て方



警告



● 必ず 2 人以上で組み立ててください。

組み立て時の注意

正しく安全に組み立てるためには、以下の項目に注意して作業を行ってください。

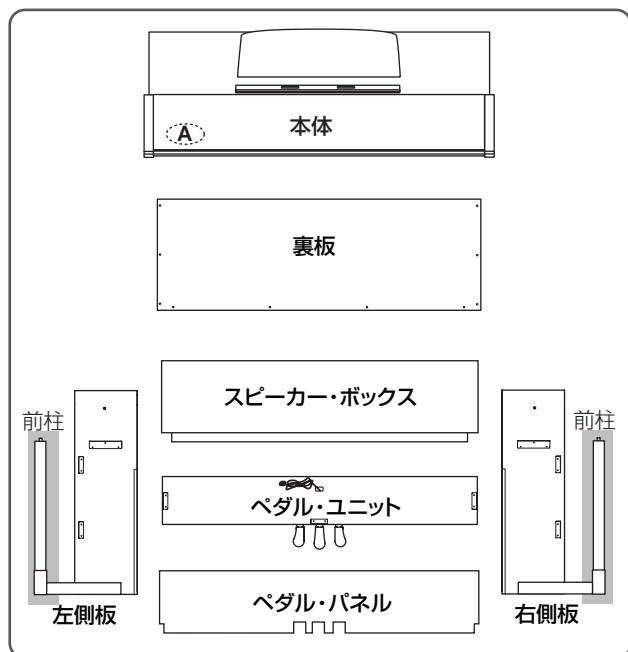
- ・ 部品の種類や向きを間違わないように注意して、手順通りに組み立ててください。
- ・ デジタル・ピアノの本体をスタンドに固定する前に、本体前側に力を掛けすぎると、本体が落下することがありますので、十分に注意してください。

組み立て方法

お手持ちのプラスのドライバーを用意してください。

1. 下記が全てそろっていることを確認してください。

- ▲ 本体の左底面 (図中 A) には、ヘッドホン・フックが付いています。箱から出したときは、床にキズが付かないよう置き方に注意してください。
- ▲ 左右側板を箱から出すときや、組み立て時に前柱 (図中網線) 部分だけを持つような取扱はしないでください。



ビニール袋詰め

ネジa (M4 x 10) ...14本



ネジc (M4 x 14) ...10本



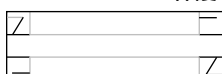
ネジb (M4 x 20) ...5本



本体固定ネジ (M6 x 20) ...4本

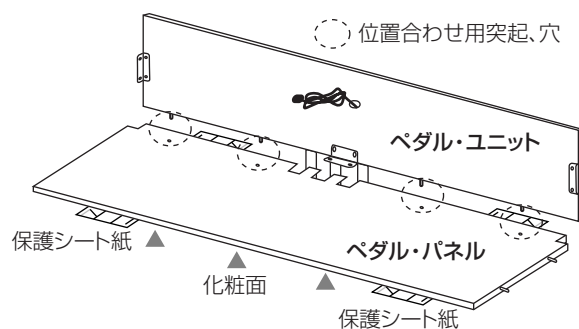


保護シート紙 ...2枚

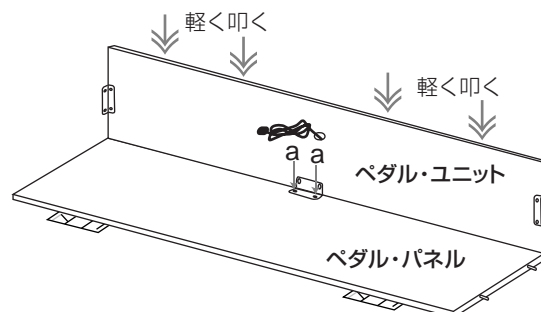


2. ペダル・セクションを組み立てます。

ペダル・パネルの化粧面 (木目) を下にしてペダル・ユニットの4つの突起が、ペダル・パネルの4つの穴にはまるように取り付けます。このとき保護シート紙を敷くなどして、キズが付かないよう作業してください。



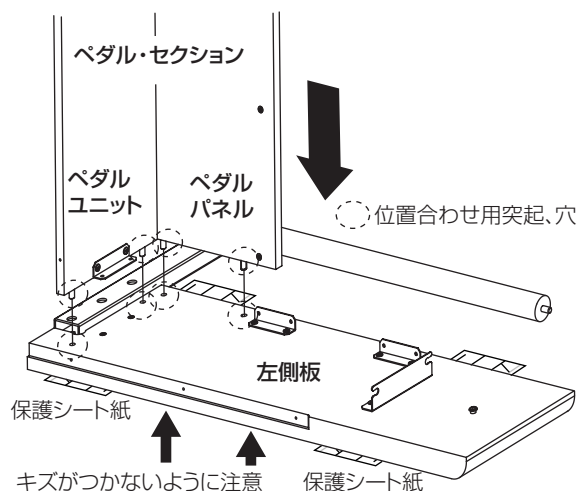
このとき、隙間ができないように軽く叩きながら取り付けてください。隙間が無くなったら、ネジa (2本) で、固定します。



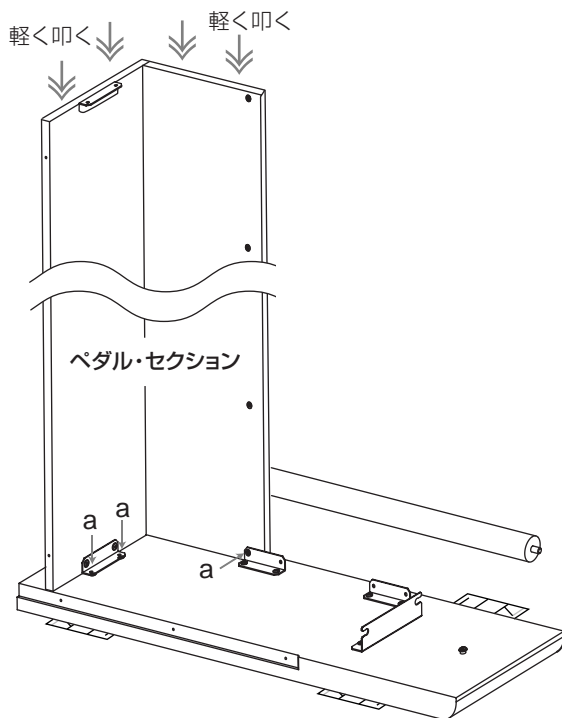
3. ペダル・セクションに左側板を取り付けます。

このとき保護シート紙を敷くなどして、側板の木目にキズがつかないように注意して、左側板を置きます。

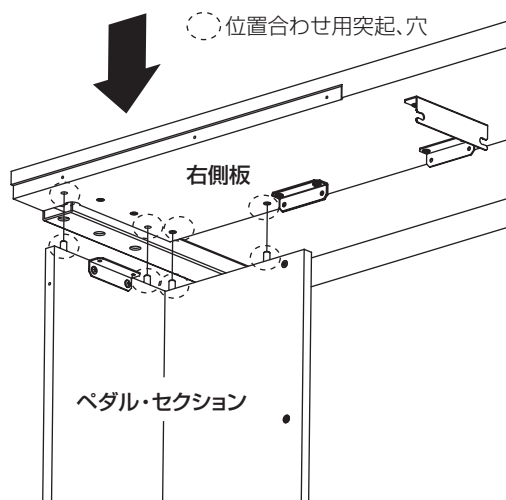
2. で組み立てたペダル・セクションの4つ突起を、左側板の4つの穴にはまるように取り付けます。



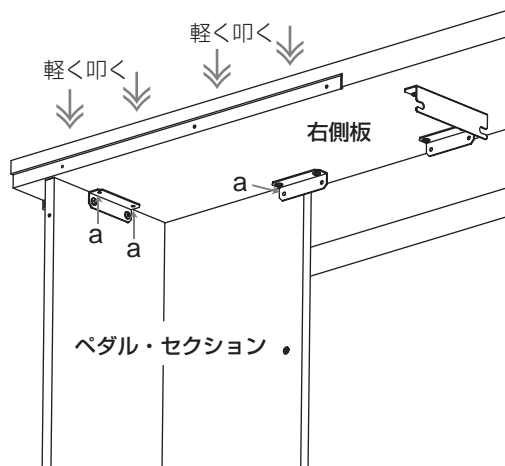
このとき、隙間ができないように軽く叩きながら取り付けてください。隙間が無くなったら、ネジ a (3本) で、固定します。



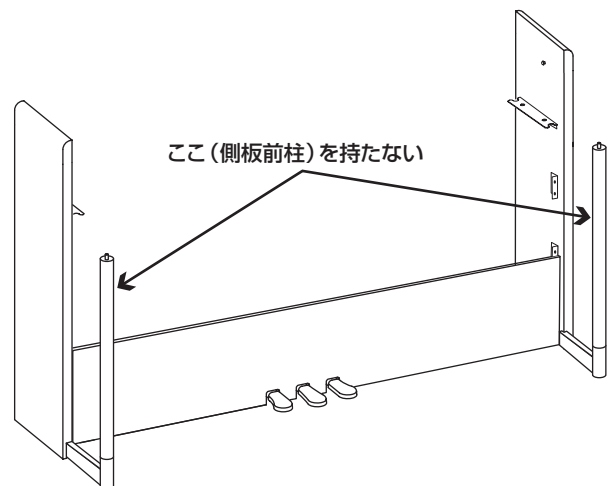
4. ペダル・セクションのもう一方に右側板を取り付けます。
ペダル・セクションの 4 つ突起を、右側板の 4 つの穴にはまるように取り付けます。



このとき、側板の木目にキズつかないように注意して、隙間ができないように軽く叩きながら取り付けてください。隙間が無くなったら、ネジ a (3本) で、固定します。



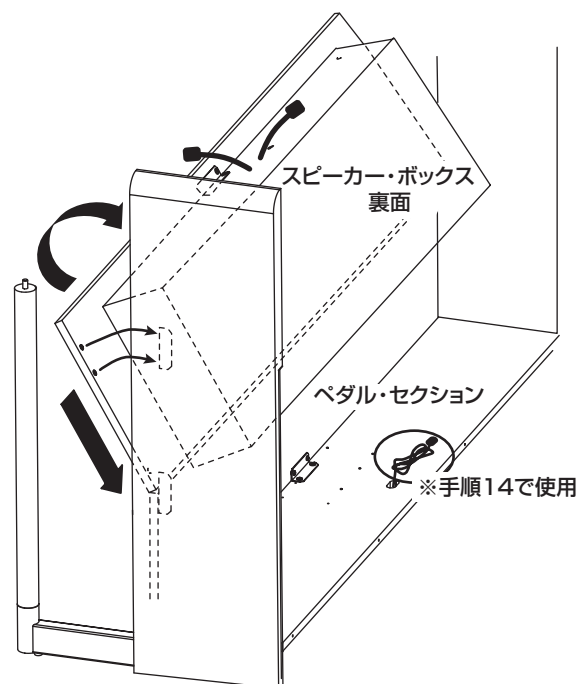
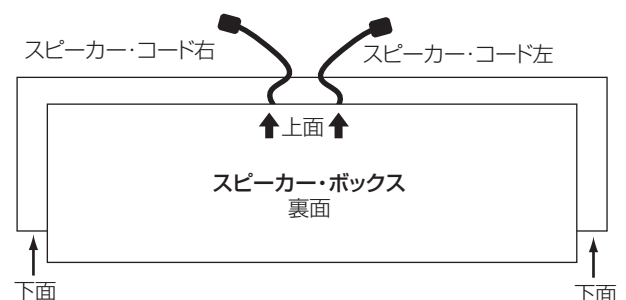
5. しっかりとした床にスタンドを立ててください。



- ▲ スタンドを立てるとや移動のときに、側板前柱を持たないでください。

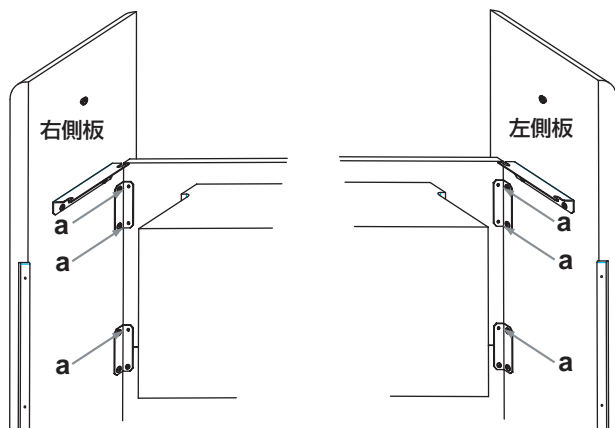
6. スピーカー・ボックスを取り付けます。

スピーカー・ボックスの下面(スピーカー・ハーネスが出てない側)をペダル・パネルのへりに合わせ、回すようにして左右側板の間に合わせ込みます。
このとき、スピーカー・ボックスを奥へ押し、側板の金具に当たるまで押します。

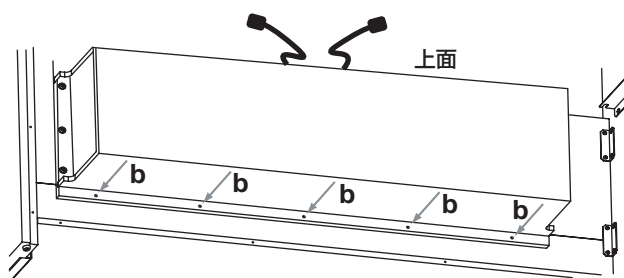


- ▲ スピーカー・ボックスは重いので、落下させないように注意してください。

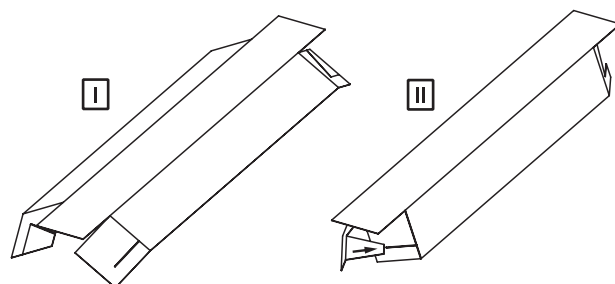
7. スピーカー・ボックスを一人が押さえ、もう一人が裏面に回り込み、スピーカー・ボックスと左右側板をネジ a (3 本× 2) で、固定します。



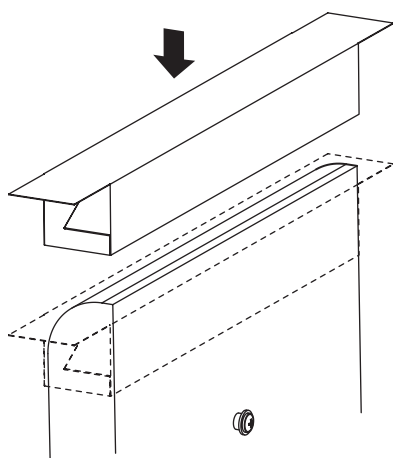
8. 続けてペダル・パネル - スピーカー・ボックス用ネジ b (5 本) で、スピーカー・ボックスとペダル・セクションを固定します。



9. 側板保護用に保護シート紙を組み立てます。



10. 組み立てた保護シート紙を左右側板の上端にかぶせます。

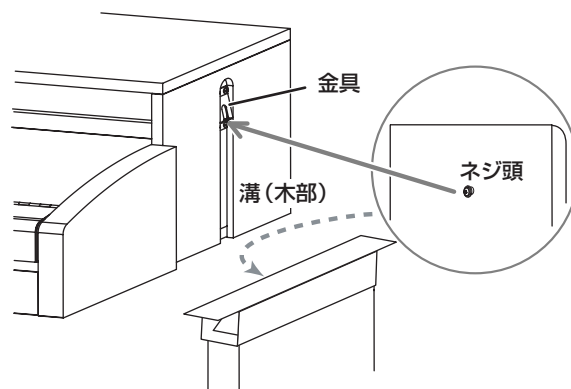
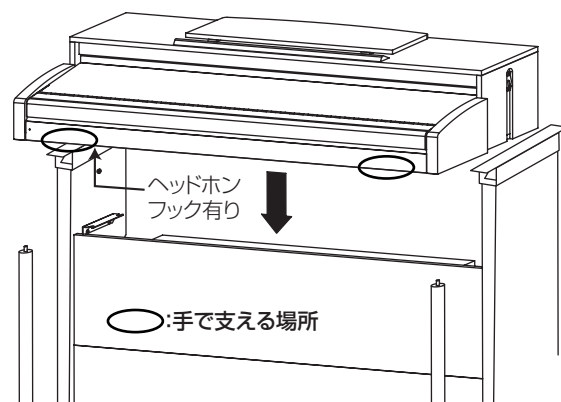


11. 本体を取り付けます。

▲ 本体の左底面には、ヘッドホン・フックが付いています。箱から出して、一旦、床に置くときは、キズが付かないよう注意してください。

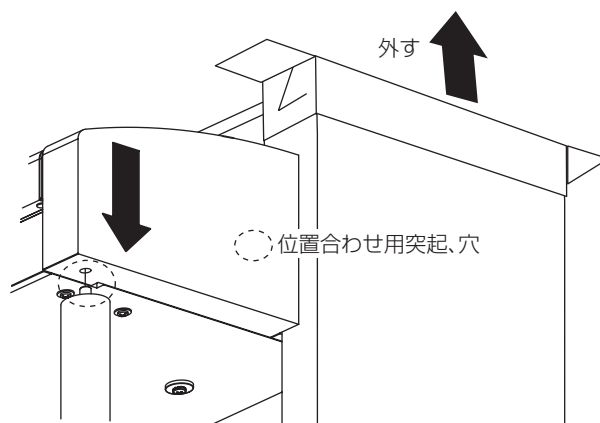
本体の左右端から約 70mm の所を持ってください。

左右のスタンド側板内側に飛び出しているネジ頭を、本体左右側面にある金具の溝の中にもぐり込ませるようにスライドさせ、ゆっくりと下ろします。



このとき、スタンドの側板の前柱の突起を、本体の側板の前部下の穴にはめ込むように取り付けます。

本体を下ろし終わったら、左右側板の保護シート紙を外します。



▲ 手を挟まないように、また下に落とさないように、本体を左右同時に水平に下ろしながら、ゆっくり行ってください

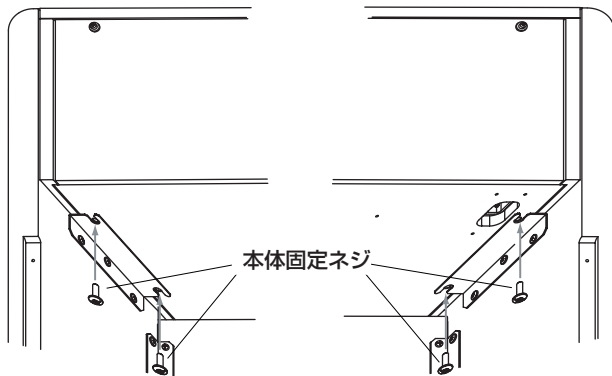
▲ 側板はキズが付きやすいので注意して取り付けを行ってください。正しく取り付くと、スタンド側板のネジが本体の金具の溝に収まり固定されます。

12. 本体上面とスタンドの側板上面に不均等な隙間ができて無いことを確認します。

本体とスタンドの側板の隙間が著しく広い場合や、隙間が均一にならない場合は、正しく取り付いていない可能性があります。そのような場合には必ずもう一度、本体全体を持ち上げて取り付け直してください。

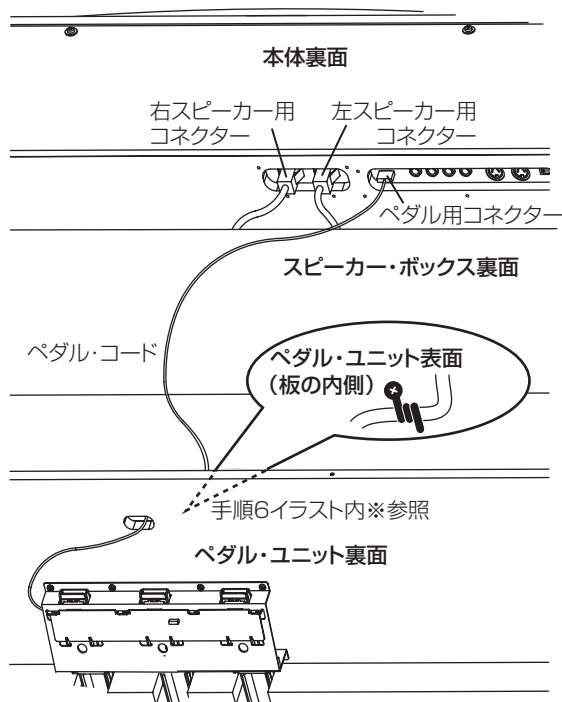
⚠ 片側だけ持ち上げて作業を行うと、大変危険だけでなく、本体の金具を破損してしまう恐れがあります。必ず本体を左右同時に水平に上下させてください。

13. 本体固定ネジ（4 本）で、本体底面下方から固定します。



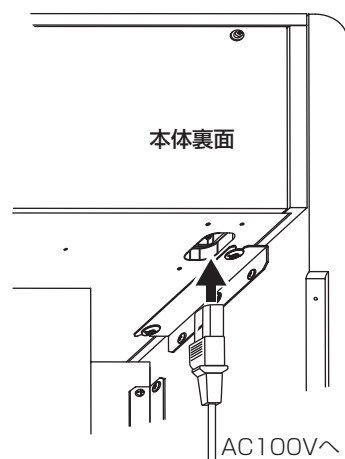
14. スピーカー・ボックスのコードを左右間違えないように本体底面のスピーカー用コネクタに接続します。また、ペダルのコードも本体底面のペダル用コネクタに接続します。

⚠ コードの接続時は、コネクタの向きに注意してください。



ペダル・コードは、ペダル・ユニット表面の、束ねていたコード・ホルダー（手順6のイラスト内の※）で無理な力がかからないように固定します。

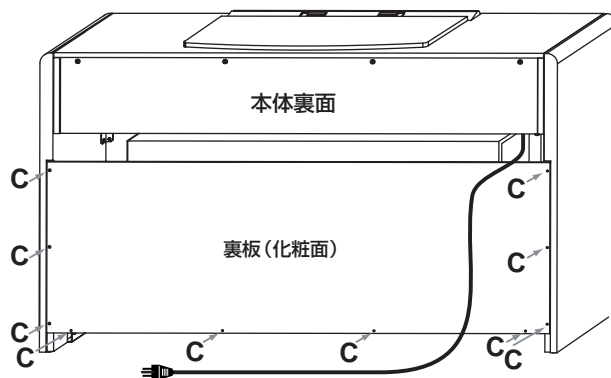
15. 本体底面の電源インレットソケットに電源コードを接続します。



16. 裏板を裏板用ネジc（10 本）で取り付けます。

化粧面（黒色）が外側になるように取り付けます。

電源コードは、裏板の外側になるように引き回します。



組み立て後のチェック

- ☐ 部品は余っていませんか？

部品が余ったときは、組み立て手順をよく見て、それらがどこで使用される部品なのかを確認してください。

- ☐ 全てのネジが緩んでいないかを確認してください。

その他の注意

組み立てた後は、以下の項目に注意してください。

・ネジの緩みについて

組み立て後、時間が経過すると、各部のネジが緩むことがありますので、ネジが緩んでいないかを定期的に確認することをおすすめします。また、スタンドの揺れが激しいと感じる場合は、ネジが緩んでいる可能性があります。そのときは、ネジを締め直してください。

・設置場所を移動するとき

デジタル・ピアノ本体をスタンドから取り外し、本体とスタンドを別々に移動してください。移動後は「スタンドの組み立て方」に従い、組み立て直してください。

・分解について

スタンドを分解するときは、組み立て時の逆の順番で行ってください。分解後は、ネジなどの部品をなくさないように保管してください。

C-520 スタンドの組み立て方



警告



● 必ず 2 人以上で組み立ててください。

組み立て時の注意

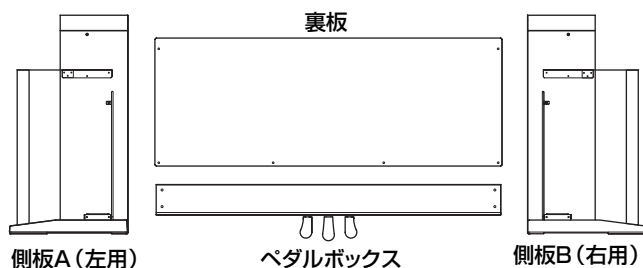
正しく安全に組み立てるためには、以下の項目に注意して作業を行ってください。

- ・ 部品の種類や向きを間違わないように注意して、手順通りに組み立ててください。
- ・ デジタル・ピアノの本体をスタンドに固定する前に、本体側に力を掛けすぎると、本体が落下することがありますので、十分に注意してください。

組み立て方法

お手持ちのプラスのドライバーを用意してください。

1. 下記が全てそろっていることを確認してください。



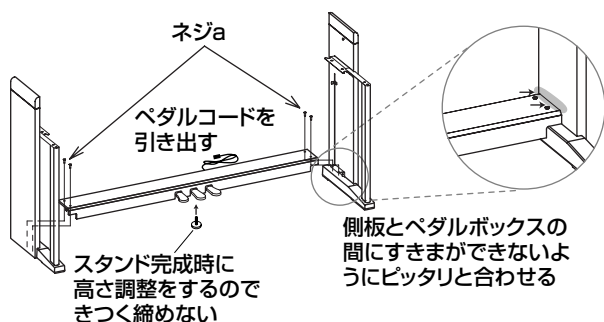
ビニール袋詰め

ネジa (M6 x 20) ...4本	ネジb (M4 x 14) ...6本	キャップ ...4個
コードホルダー ...2本	本体固定ネジ...2本	アジャスター ...1個

2. アジャスターをペダルボックスに最後までねじ込み、ペダル用コードを取り出します。

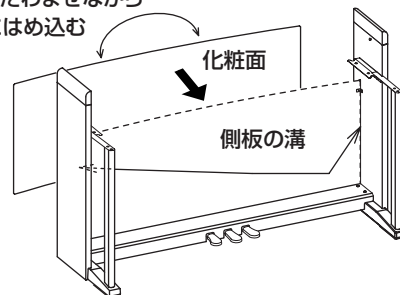
ネジ a で、側板をペダルボックスに固定します。

側板とペダルボックスの間に、隙間ができないように取り付けてください。



3. 化粧面 (木目) が前面を向くようにして、裏板を少したわませて (湾曲させて) 側板の溝にはめ込みます。

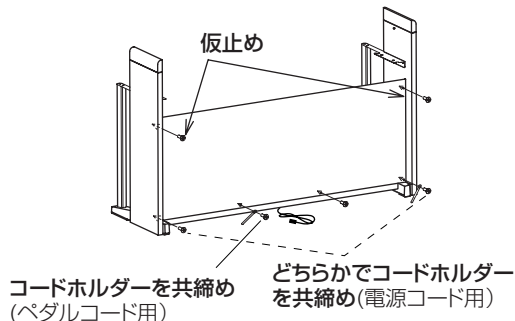
裏板を少したわませながら
側板の溝にはめ込む



4. ネジ b で、裏板を固定します。

先に裏板の下側 (4ヶ所) を止めます。2ヶ所にはネジにコードホルダーを通し、スタンドに共締めします。右側または左側に共締めするかは、コンセントの位置を考えて決めてください。

そのあとで裏板の上側 (2ヶ所) を止めます。この部分のネジは本体を取り付けた後に、調整に使うので仮止めにしてください。

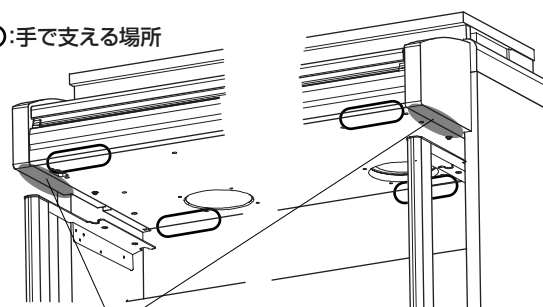


5. スタンドに隙間や傾きがないことを確認し、仮止めている 2 本のネジ以外のすべてのネジをしっかりと固定してください。

6. 本体を取り付けます。

左右のスタンド側板内側に飛び出しているネジ頭を、本体左右側面にある金具の溝の中にもぐり込ませるようにスライドさせ、ゆっくりと下ろします。正しく取り付くと、スタンド側板のネジが本体の金具の溝に収まり固定されます。

○:手で支える場所

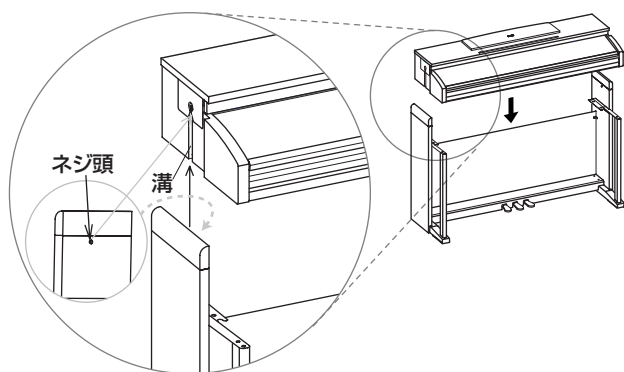


この部分は持たない

スタンドの側板を、本体側に体で押し付けるようにしながら、本体をスライドさせ取り付けたら、比較的容易に取り付けることができます。

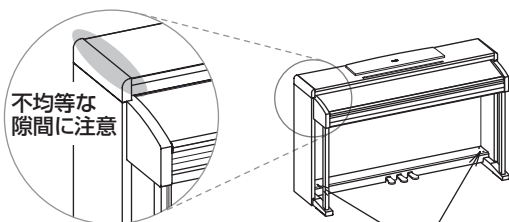
⚠ 手を挟まないように、また下に落とさないように、本体を左右同時に水平に下ろしながら、ゆっくり行ってください

⚠ 側板はキズが付きやすいので注意して取り付けを行ってください。



7. 本体上面とスタンドの側板上面に不均等な隙間ができて無いことを確認します。

隙間が気になるときは、側板とペダルボックスを止めてあるネジ a を緩めて調整します。

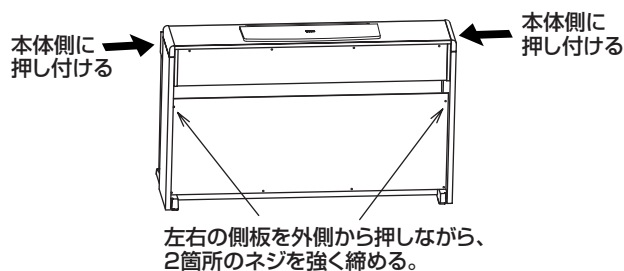


不均等な隙間が気になるときは、それぞれのネジ a を緩めて調整。

本体とスタンドの側板の隙間が著しく広い場合や、隙間が均一にならない場合は、正しく取り付けしていない可能性があります。そのような場合には必ずもう一度、本体全体を持ち上げて取り付け直してください。

⚠ 片側だけ持ち上げて作業を行うと、大変危険だけでなく、本体の金具を破損してしまう恐れがあります。必ず本体を左右同時に水平に上下させてください。

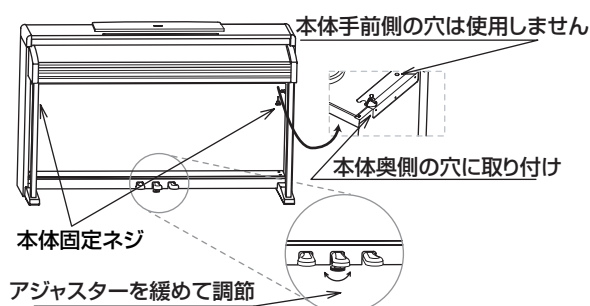
8. スタンドの上部を押しながら仮止めしてあった裏板のネジ2本を締めます。



左右の側板を外側から押しながら、2箇所を強く締める。

9. 本体固定ネジで、本体底面下方から固定します。その後、アジャスターを緩めて、アジャスターが床にしっかり当たるように調節します。

⚠ アジャスターが床にしっかり当たらないと、ペダルがぐらつき故障の原因になります。

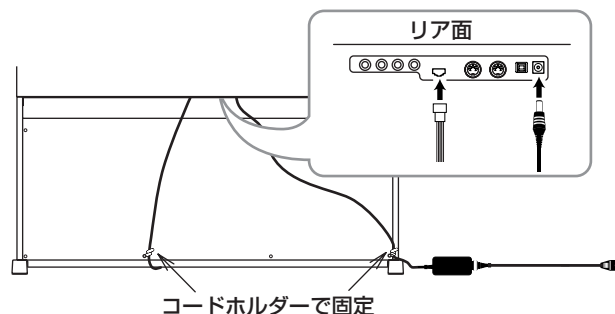


すべてのネジがしっかりと締まっていることを確認してください。最後にペダルボックスのネジ a のネジ頭にキャップをかぶせます。

10.AC アダプター本体に、付属の専用電源コードを接続します。



11. ペダルコードと AC アダプターの DC プラグを本体の底面に接続し、各コードをコードホルダーで固定します。



- ⚠ ペダルコードの接続時は、コネクターの向きに注意してください。
- ⚠ デジタル・ピアノを設置するときは、スタンドが AC アダプターのコードを踏まないように注意してください。

組み立て後のチェック

- ☐ **部品は余っていませんか？**
部品が余ったときは、組み立て手順をよく見て、それらがどこで使用する部品なのかを確認してください。

- ☐ **全てのネジが緩んでいないかを確認してください。**

その他の注意

組み立てた後は、以下の項目に注意してください。

- ・ **ネジの緩みについて**
組み立て後、時間が経過すると、各部のネジが緩むことがありますので、ネジが緩んでいないかを定期的に確認することをおすすめします。また、スタンドの揺れが激しいと感じる場合は、ネジが緩んでいる可能性があります。そのときは、ネジを締め直してください。
- ・ **設置場所を移動するとき**
デジタル・ピアノ本体をスタンドから取り外し、本体とスタンドを別々に移動してください。移動後は「スタンドの組み立て方」に従い、組み立て直してください。
- ・ **分解について**
スタンドを分解するときは、組み立て時の逆の順番で行ってください。分解後は、ネジなどの部品をなくさないように保管してください。

ファンクション...		送信	受信	備考
ベーシック チャンネル:	電源ON時	1-16	1-16	記憶する
	設定可能	1-16	1-16	
モード	電源ON時	× *****	3	
	メッセージ 代用		×	
ノート ナンバー:	音域	0-127 *****	0-127 0-127	0-120 : ピアノ音色時
ベロシティ:	ノート・オン ノート・オフ	○ 9n, V=1-127 × V= 64	○ 9n, V=1-127 ×	
アフタータッチ:	キー別	○	○	録音済みのグローバル・チャンネルのみ *2
	チャンネル別	○	○	
ピッチ・ベンダー		○	○	*2
コントロール チェンジ	0, 32	○	○	バンクセレクト (MSB, LSB) *1
	1, 2	○	○	モジュレーション *1, 2
	6	○	○	データ・エントリ MSB *1, 2
	38	○	○	データ・エントリ LSB *1
	7	○	○	ボリューム *1
	11	○	○	エクスプレッション *1, 2
	10, 91, 93	○	○	パン、リバーブ・センド、コーラス・センド *1
	64, 66, 67	○	○	ダンパー、ソステヌート、ソフト *1
	65, 5	○	○	ポルタメント・オン、オフ、タイム *1, 2
	71, 72, 73	○	○	レゾナンス、EGタイム (リリース、アタック) *1, 2, 3
	74	○	○	ブライツネス *2, 3
	75, 76, 77, 78	○	○	ディケイタイム、ビブラートレイト、デス、デルイ *1, 2, 3
	98, 99	○	○	NRPN (LSB, MSB) *1, 2
	100, 101	○	○	RPN (LSB, MSB) *1, 2, 4
	120, 121	×	○	オール・サウンド・オフ、リセット・オール・コントロール *1
プログラム チェンジ:	設定可能範囲	○ *****	○ 備考欄参照	送受信値 : 0-7, 11, 16, 17, 19, 20, 24, 32, 33, 35, 48-50, 52-54 *2
エクスクルーシブ		○	○	*5
コモン:	ソング・ポジション	×	×	
	ソング・セレクト	×	×	
	チューン	×	×	
リアルタイム:	クロック	○	○	
	コマンド	○	○	
その他:	ローカル・オン/オフ	×	○	○(123-127)
	オール・ノート・オフ	×	○	
	アクティブセンシング	○	○	
	リセット	×	×	
備考				
*1 : グローバル・モードで MIDI フィルターをオフに設定したとき、送受信する。				
*2 : 内蔵レコーダーのデータのみ、送信する。				
*3 : 受信のみ。但し録音はしない。				
*4 : LSB, MSB = 01, 00: ファイン・チューン				
*5 : インクワイアリーとGMモードオンを含む。				

モード1: オムニオン、ポリ モード2: オムニオン、モノ
モード3: オムニオフ、ポリ モード4: オムニオフ、モノ

○: あり
×: なし

アフターサービス

保証書

本製品には、保証書が添付されています。
お買い求めの際に、販売店が所定事項を記入いたしますので、「お買い上げ日」、「販売店」等の記入をご確認ください。記入がないものは無効となります。
なお、保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

保証期間

お買い上げいただいた日より一年間です。

保証期間中の修理

保証規定に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。
本製品と共に保証書を必ずご持参の上、修理を依頼してください。

保証期間経過後の修理

修理することによって性能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品(電子回路など)の入手が困難な場合は、修理をお受けすることができませんのでご了承ください。また、外装部品(パネルなど)の修理、交換は、類似の代替品を使用することもありますので、あらかじめサービス・センターへお問い合わせください。

修理を依頼される前に

故障かな?とお思いになったら、まず取扱説明書をよくお読みのうえ、もう一度ご確認ください。
それでも異常があるときは、サービス・センターへお問い合わせください。

修理時のお願い

修理に出す際は、輸送時の損傷等を防ぐため、ご購入されたときの箱と梱包材をご使用ください。

ご質問、ご相談について

アフターサービスについてのご質問、ご相談は、サービス・センターへお問い合わせください。
商品のお取り扱いについてのご質問、ご相談は、お客様相談窓口へお問い合わせください。

WARNING!

この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です

This Product is only suitable for sale in Japan.
Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

お客様相談窓口 TEL 03(3799)9086

サービス・センター: 〒143-0001 東京都大田区東海 5-4-1

明正大井 5 号営業所コルグ物流センター内 TEL 03(3799)9085